

# 45周年

2005~2009

# 記念誌

45<sup>th</sup>

社団法人 京都私立病院協会



# 45周年

2005~2009

# 記念誌



社団法人 京都私立病院協会

## 会 員 憲 章

- われわれは患者さま中心の医療を行います
- われわれは社会の発展と健康増進に貢献します
- われわれは環境に配慮した医療活動を行います
- われわれは法律を順守し適正な経営を継続します
- われわれは医療人としてのモラルの向上に努めます

## 病 院 綱 領

- われわれ病院人は、人々の平等と権利を尊重し、個人のプライバシーを保護します
- われわれ病院人は、人々の生命にかかわる者として、医療の安全に最善の努力を払います
- われわれ病院人は、常に教養を高め、質の良い医療を提供するために研鑽に励みます
- われわれ病院人は、医療サービスの安定的提供のため、健全な病院経営に努めます
- われわれ病院人は、地域の医療連携システムの要となって、人々の健康増進を図ります
- われわれ病院人は、社会活動の実践者として、地域づくりに貢献します



社団法人 京都私立病院協会

# 創立45周年を迎えて

会長 真鍋 克次郎

昭和39年10月に設立された京都私立病院協会は、本年創立45周年を迎える事となりました。設立当初の会員数は44施設でありましたが、徐々に会員数も増加し、2009年度末現在では162施設となりました。その間、会員施設は成長し、多様化してまいりました。各地域の施設、さまざまな規模の施設、多種多様な機能を持つ施設への共通問題提起として、創立40周年には「禁煙キャンペーン」を行い、会員施設に禁煙宣言を依頼致しました。当時は世間一般での禁煙運動の盛り上がりはありましたが、施設毎の禁煙は少なく、世間の理解を得る事に多くの抵抗がありました。しかし、5年経過した現在、禁煙は当たり前前の如くとなつてまいりました。そして、この度の創立45周年に際しては「環境キャンペーン」を実施する事に致しました。1997年に決議された京都議定書から前に進まず、地球温暖化が益々進行する地球環境を少しでも改善出来ればとの思いです。タイミングよく国連総会で鳩山首相が、日本はCO<sub>2</sub>の削減25%を目指すと宣言されました。丁度この頃から世界中で地球温暖化についてホットな議論が繰り広げられて来ております。

さて、2009年度に政権交代が実現し、民主党主体の連立政権が誕生致しました。「命を大切にする、人中心の社会を作り上げる」とのスローガンを掲げていますが、最も命を大切にする医療をとってみても、医療診療報酬改訂をみれば、とてもとても医療崩壊を防ぐ事は不可能でしょう。

京都私立病院協会では、現在の社会情勢・政治の動向を見据えながら、総務部を中心として、医制、医療保険、介護保険に対し会員の意見を強く提言主張し、地域医療部では会員病院での救急医療の更なる強化、医療安全、感染症対策への積極的な取り組みと、多くの課題に前向きにチャレンジしたいと考えております。また、関連団体と密な連携をとり、会員病院が有機的に連携し総体として京都私立病院協会の会員病院が、地域医療への貢献度が増す様な組織になりたいと願っておりますので、今後とも関係各位の一層の御協力と御指導をお願い申し上げます。



病院綱領	2	医療従事者無料職業紹介事業	43
創立45周年を迎えて(会長 真鍋 克次郎)	3		
記念座談会「これからの京都私立病院協会の役割と 存在意義を語る」	6		
<b>1. 協会組織の動き</b>		<b>5. 他団体との交流・連携</b>	
京都私立病院協会 組織図	16	近畿病院団体連合会	45
役員体制	17	中央における病院団体	47
総会	17	京都における医療・介護関連団体	48
理事会・政策委員会	17	関係団体	48
会員のうごき	18	<b>6. 行政や政党への対応</b>	
<b>2. 会員相互の連携と組織強化</b>		行政への対応	49
表彰	19	政党への対応	49
事務長会	21	<b>7. 病院をめぐる医療制度の検討</b>	
経営部会の主な活動	23	病院医療制度検討委員会	51
保険部会の主な活動	24	<b>8. 医療保険制度への対応</b>	
労務部会の主な活動	25	医療保険をとりまく情勢	52
北部地区事務長会の活動	26	医療保険をめぐる日常活動	53
南部地区事務長会の活動	26	診療報酬委員会	53
看護部長会	26	<b>9. 介護保険制度への対応</b>	
薬剤師部会	29	介護保険をとりまく情勢	54
放射線技師部会	30	介護保険をめぐる日常活動	55
臨床検査部会	32	介護保険委員会	56
栄養士部会	34	介護報酬委員会	56
リハビリテーション部会	35	ケアマネジャー委員会	57
地区会議	36	介護サービス第三者評価事業	57
創立記念式典	37	介護サービス情報の公表事業	58
新春会員懇親会	37	京都市新規介護認定調査事業	59
創立45周年記念事業	38	<b>10. 救急医療体制の確保と推進</b>	
<b>3. 広報と情報活動</b>		京都府における二次病院群輪番体制	60
京都私立病院報	40	京都府小児救急医療電話相談事業	62
私病協ホームページ	40	京都府内の救急医療システム	62
ファックス通信	41	救急医療をめぐる諸問題への対応	63
<b>4. 病院職員の確保対策</b>		救急医療検討委員会	64
医療従事者の養成	42	京都救急医療研究会	64
学校の在り方検討委員会	43		

11. 感染症対策への対応	
感染症対策委員会 ……………	66
院内感染対策推進事業運営委員会 ……………	67
12. 医療安全対策への対応	
医療安全対策委員会 ……………	71
13. 医療情報の在り方についての対応	
医療情報の在り方検討委員会 ……………	73
14. 京都病院学会の開催	
京都病院学会 ……………	74
15. 教育・研修活動	
教育研修基礎コース	
(旧：教育訓練初級コース) ……………	76
中堅幹部職員研修 ……………	77
看護卒後教育への取組み ……………	78
看護中間管理者研修Ⅰ（主任コース） ……………	79
看護中間管理者研修Ⅱ（師長コース） ……………	80
看護リーダーシップ研修 ……………	82
准看護師研修 ……………	82
看護補助者研修 ……………	83
保健医療管理者養成講座 ……………	83
医師臨床研修 ……………	85
16. 病院経営に関する取組み	
民間病院に対する各種補助制度および	
融資制度 ……………	86
用度委員会 ……………	88
購買担当者会議 ……………	89
未収金対策委員会 ……………	89
17. 病院管理に関する取組み	
環境問題委員会 ……………	90
病院機能向上委員会 ……………	91
18. 税制問題への取組み	
税制 ……………	93
19. 福利厚生活動	
京都府知事杯争奪病院対抗野球大会 ……………	94
京都府知事杯争奪	
病院対抗女子バレーボール大会 ……………	95
会長杯争奪病院対抗フットサル大会 ……………	95
20. 事務局体制	
事務局体制 ……………	96
21. 公益法人制度改革への対応	
公益法人制度改革への対応 ……………	97
●関係団体の事業	
京都保健衛生専門学校 ……………	98
京都中央看護保健専門学校 ……………	100
京都府病院協同組合 ……………	102
京都府病院厚生年金基金 ……………	103
●年表	
(協会のあゆみ・医療界と社会の主なできごと) ……………	104
●京都私立病院協会 役員の変遷と業務分担 ……………	107
●関連諸機関・団体への推薦／派遣委員 ……………	108
●各委員会委員名簿 ……………	110
●協賛企業一覧 ……………	119



# これからの 京都私立病院協会の役割と存

日時 平成22年3月3日(水) 10:00~12:00

場所 平安会館

出席者 大川原康夫・武田隆男・大槻秧司・清水 紘 (以上、歴代会長)・真鍋克次郎 (現会長)

司会 出射靖生(副会長)

(敬称略)

**出射:** 京都私立病院協会創立45周年記念座談会を始めさせていただきます。テーマは「これからの京都私立病院協会の役割と存在意義を語る」です。

はじめに「京都私立病院協会の歴史を振り返って」、次に「京都私立病院協会の現状」、最後に「京都私立病院協会のこれからの課題」という順序で進めたいと思います。

## Theme 1

### 京都私立病院協会の歴史を振り返って

**出射:** 京都私立病院協会は、昭和39年に京都府医師会私立病院部会として誕生いたしました。昭和39年10月16日に京都私学会館にて44病院が結集し、設立総会が行われました。初代会長は相馬伴臣先生です。3回の総会を経て、正式に「京都私立病院協会」と

改称し、昭和48年10月24日に社団法人設立許可申請を京都府知事宛に提出、昭和49年4月1日付で認可されて「社団法人京都私立病院協会」となりました。

この長い歴史のなかで様々なことがあったようですが、まず、昭和42年の基準寝具をめぐるいわゆる「フトン戦争」について大川原先生にお話ししたいと思います。

**大川原:** 京都私立病院協会(以下、「私病協」)ができた昭和39年10月には、私はまだ京都府立医科大学の臨床検査部に在籍していました。その翌年に愛生会山科病院に赴任しましたので、当時の状況は分かりませんが、過去の記録や先輩の人たちの話から推しはかってお話しさせていただきます。

わが国の医療供給体制は公的病院と診療所が中心でした。戦後に民間病院が次々とできましたが、京都府医師会が民間病院のことについて十分対応しき



# 在意義を語る

れなかったのではないのでしょうか。寝具についても病院各自で洗濯し、消毒して承認されていた病院基準寝具は昭和37年に外注が始まりました。その2年後に私病協ができて、昭和42年に闘争しているということは、結局基準寝具を取り扱っていた医師会の対応に不満があったと思われます。私病協で寝具を取り扱うことは、京都府医師会も行政側も基準寝具と認めないというような傾向があったようです。病院協同組合で寝具を各病院に配り始めて、実力行使で乗り切ることができたようです。

私病協の創設期には、寝具の問題をはじめ、救急医療と自賠責の問題がありました。私病協が法人化するとき、病院協同組合を設立するとき、看護学校をつくる時など、私病協が病院関係のことで行動すると、医師会との間でぎくしゃくしていたようです。中野進先生は、「相手荒い手段を講じて、私病協設立後20年間にわたり民間病院の権益を守るために取り組んできた」とおっしゃっていました。

**出射：**フトン戦争と並行して、医療材料や病院用品の協同購入に対する病院の強い要望や、私病協という組織での経済活動の限界から、別の法人格が必

要ということになり、昭和42年の定期総会で協同組合設立の方針が決定されました。そして昭和43年に京都府病院協同組合が設立され、会員病院の物品購入の便を図るようになりました。

また、昭和44年には、京都保健衛生専門学校の前身であります堀川高等看護学院の運営を譲り受けて看護婦の養成が始まったと聞いておりますが、さらに昭和53年に近病連を設立するに至ったいきさつなどについて武田先生からお話し願えますか。

**武田：**私病協として形をつくっていく上で何が必要かということが考えられてきたと思います。やはり看護婦が必要であろう、看護婦の数が増えていくだろうという予測を立てておられたようです。堀川病院の竹澤徳敬院長が昭和44年に会長に就任され、それを契機に堀川高等看護学院の運営を私病協が譲り受けました。昭和48年に京都保健衛生学院として臨床検査学科も併設されました。富田病院の富田仁先生が技師の必要性を強調され、大川原康夫先生もご尽力されて全国にも類を見ない看護婦と臨床検査技師の養成課程を併設した学校が誕生しました。昭和51年には医療専門学校の認定を受け、校名が現在の「京都保健衛生専門学校」となりました。

こうして看護学校をつくって看護師の養成を進めてきたのですが、まだ不足するであろうと皆さんがお考えになり、もう一つつくろうということになりました。昭和54年に私病協と京都市との協同で財団法人京都中央看護婦養成事業団を設立し、昭和58年に京都中央看護専門学校（現 京都中央看護保健専門学校）が開校しました。

病院に勤めている職員の福利厚生も考えました。昭和44年に準備会が発足し、昭和55年に私病協を設立母体として、設立事業所68、加入員数5,953名の「京都府病院厚生年金基金」が誕生しました。そして今、病院職員の年金、退職金の便宜を図っています。

先ほど様々なことを改革していくうえで荒っぽいことをしたとおっしゃっていましたが、昭和48年には看護婦の養成や診療報酬の引き上げを求めて、三度にわたって救急の受入辞退など、実力行使を行う寸前にまでなりました。

こうした闘いのなかで、京都だけでは物が言いにくいということで、近畿の病院団体の統合を図ろうという機運が出てまいりまして、京都私病協の呼びかけにより昭和53年に近畿病院団体連合会ができま



医療や介護・福祉は人の生命や生活を支えるもの。絶対に未来は明るい。私病協は医療環境の変化に対応した取り組みの継続を。

## 大川原康夫 元会長

した。それから毎年、年に2回、各々の問題点について協議し、国に改善を求めて要望しています。

行政との関係では、昭和51年に京都府保険課と三基準に関する申し合わせを結び、申請前の事前相談及び保険課との調整、会員への実地調査への立会いを行うようになりました。

こうして看護婦養成、職員の福利厚生 of 充実、保険関連のことに実力をつけてきたわけです。

**出射：**昭和54年には、京都市域（乙訓2市1町）において、私病協会員施設を中心とした二次病院群輪番制度を発足させて夜間の救急患者にも対応するようになり、救急医療が充実しました。昭和56年には、診療報酬と同時に薬価が大幅に引き下げられたことに伴って製薬メーカーが納入価格を引き上げ、これに対して当協会が不買運動を行っていますね。

**大川原：**京都市内における休日、時間外の救急医療体制については、私病協は積極的に取り組んできました。二次救急に対応できる医療機関の大半が私病協加盟の病院でしたので、行政側の期待も非常に大きく、その整備推進に努力しました。昭和52年に救急体制整備に対する国庫補助制度が発表され、昭和54年10月から京都市域、乙訓2市1町において二次病院群輪番制度が発足し、夜間・休日の救急患者に対応してきました。発足当時の種々の問題を克服して、今日まで順調に運営されています。昭和59年7月には、小児科の二次救急患者を受け入れる役割も私病協加盟の病院が積極的に分担しました。平成7年4月には、南山城（現：山城北）二次病院群輪番制度が発足して現在も円滑に運営されています。

さて、昭和56年に診療報酬が下がって薬の納入価が引き上げられたことですが、これは当時、厚生省

と日本製薬工業協会の談合があったのではないかとということで、私病協は会員病院に実態調査をして、非常に強硬な姿勢を取っている5社の製薬メーカーに質問状を送付し、製薬工業協会の指導的立場にあった2社の製品の不買運動にまで発展していきました。談合と銘柄別の薬価基準の不当性を独占禁止法違反として公正取引委員会へ提訴し、これが大きな社会問題になって、公正取引委員会による立入調査や、国会においてこの問題が追及されて政治問題化したそうです。不買運動は、昭和57年に2社と合意が成立して、1年がかりで一応の終息をみたわけですが、常に民間病院の経営安定と病院の質の向上を図るために、診療報酬への対応や薬価への対応が非常に重要な課題の一つであったと考えられます。

**出射：**非常に激しい時代であったわけですね。昭和63年に入りまして、医療従事者無料職業紹介所が開設されております。大槻先生、今も医師・看護師不足が言われていますが、当初も同じ問題を抱えていたのですね。

**大槻：**そうですね。私病協が誕生した昭和39年頃、あるいはそれ以前から現在まで医療従事者、あるいは医療技術者の人員不足はずっと続いており、このことに対する私病協の活動に期待をしていました。また、私は亀岡市にいますが、昭和62年に清水幸太郎先生が会長の頃、京都市外にもお越しいただきました。これが地区会議の始まりですね。平成3年に相馬秀臣先生が会長の時、阪神淡路大震災があり、救急に携わっておられた私病協の先生方が神戸に向かわれました。

平成7年に大川原先生が会長に就任されたときは、同年度内にスプリンクラーの設置が義務付けられ、設置のための補助金獲得に私病協は本当に大きな活動をされていたことを覚えております。

その頃に京都保健衛生専門学校が学校法人として独立しました。また、武田隆男先生や清水紘先生が活躍され、政管健保生活習慣病予防健診に民間病院も参画できるようになり、現在に至っています。

**清水：**阪神淡路大震災の時ですが、震災の日の夕方には京都を出発しました。やはり病院はそういうときに融通が利くと実感しました。自分も役に立ちたいという診療所の先生方もたくさんおられたと思いますが、診療所は休診にして行かざるを得ないので。やはりこういう時は病院のほうが動きは早かつ

たし、派遣できる人数も違います。私病協の存在価値がアピールできたと思っています。

**出射：**平成9年に消費税が5%になりました。この消費税の損税問題につきましては今でも解決しないわけですが、どのようにすべきだとお考えでしょうか。

**大川原：**このまま消費税が上がっていけば、経営には致命的な打撃になります。

**武田：**医療費に消費税をかけるかどうかです。患者さんの負担に消費税をかけるのか、それとも仕入れに対して消費税をかけないということができるのか、その辺の問題が解決されなければなりません。

**出射：**平成11年に武田隆男先生が会長に就任しておられます。翌年、平成12年に介護保険がスタートしました。清水先生、介護保険が導入された時のご苦勞をお聞かせ願えますか。

**清水：**介護保険は皆目見当がつかない初めての大きな制度で、果たしてこの制度と医療が馴染むのかという疑問は大いにありました。平成12年からスタートしたのですが、実際のところは平成10年からすでに京都府や府内市町村では準備を始めておりました。平成12年4月の制度施行に間に合うように利用者は要介護認定を受けている必要がありましたので、ケアマネジャーの試験や実務研修なども全部手探りでやっていました。

病院が介護保険とどう絡むのか、その当時は全く分からない状態でしたし、ある病院の先生からは「ずっと急性期でいっから介護保険は関係ないので、ご案内は結構です」と言われました。でも、今から考えれば無理もない話だと思います。介護保険がスタートしたときに厚生労働省の役人が「走りながら考える介護保険」と言っていました。今でも走りながら考えていますが、どうにかこうにか介護保険は一応の形をなしてきたのではないのでしょうか。いろいろな介護保険の機能を病院が上手に取り込み、医療も絡むようになって、今では介護保険を外すと患者さんも困りますし、病院の経営としても大変厳しいと思います。

**出射：**介護保険につきましては、将来6兆円産業になるということで、営利企業がたくさん参入してきました。コムスンが大きな問題を起こしましたが、営利企業の参入についてはどうお考えでしょうか。

**清水：**介護サービスを全国隈なく提供するという意

味では、参入を広げることも必要だと思うのですが、そこに株式会社など、いわゆる営利を目的とする法人が入ってくるということは、やはり利益が優先になります。我々も利益は必要ですが、そこは自ら一線を引いているので、儲かればいいという営利企業とは違うと思います。だから介護サービス事業者の許認可は厳しくするべきですし、そこに従事する人の教育や訓練、資格についても同じことが言えると思います。

**出射：**私病協は平成14年に医療安全対策マニュアル、15年に感染症対策マニュアルを発行し、積極的な動きを見せております。平成15年に大槻先生が会長に就任されました。このときに第四次医療法改正で病床区分が見直され、その他病床が一般病床と療養病床に区分されました。平成16年には、創立40周年の記念事業の一つとして禁煙キャンペーンを実施しました。

**清水：**大槻先生が会長のときに禁煙運動を立ち上げられました。その後を私が引き継いで、創立記念事業の一環として大々的に禁煙キャンペーンを行い、会員施設の全館禁煙、敷地内禁煙を推進しました。その結果、現在、109施設が全館禁煙または敷地内禁煙を実施しています。敷地内禁煙をすると境界の外側に吸い殻を捨てる人が出てくるとか、理事長・院長が喫煙する病院や医師・看護師は禁煙が進まないのではないかと、という話もありましたが、人々の健康を守る立場として各病院が努力して見事に成果をあげられました。

**出射：**同じく平成16年には京都府からの委託事業として院内感染対策推進事業を開始し、平成17年には小児救急医療電話相談事業が始まっております。そして平成17年6月に清水先生が会長に就任されました。このときに厚生労働省から平成24年3月末をもって介護療養型医療施設を廃止し、療養病床を38万床から15万床に削減するという方針が発表されたわけですが、この辺について真鍋会長からお願いします。

**真鍋：**京都府からの委託事業である院内感染対策推進事業ですが、これは武田隆男先生の助言で始まり、京都府に思い切って予算をつけていただきました。独自でICT（感染対策チーム）をもてない病院に対して支援を行う目的で、院内感染対策推進事業運営委員会、相談支援部会を設置いたしました。この事



武田隆男 元会長

民間病院の救急医療、急性期医療に対する貢献は非常に大きい。地域医療を守るために公的病院に偏った行政支援ではなく、民間病院にも十分な支援を。

業には、京大の一山智教授、府立医大の藤田直久准教授、京都市立病院の清水恒広先生等、全国的にもトップレベルの感染対策の専門家、そして関係団体にも入っていただき、大変充実した委員会を開催することができました。こうしたメンバーを病院に派遣して感染対策の指導を行う事業を主として、感染対策に関する随時の相談にも対応する事業もやっておりますが、大変効果があり、各病院で喜ばれています。

また、小児救急医療電話相談事業は小児の救急患者を電話でトリアージしています。年間で4,000件を超える電話相談があり、これを担当している病院は大変ですが、事業の結果、小児救急患者の集中が緩和されました。この事業も私病協が京都府から委託を受けてやっております。小児科のある医療機関には役立っていることと自負しています。

平成17年6月には清水先生が会長に就任され、その12月に、介護保険制度施行後6年も経たない時期に介護療養病床廃止、療養病床の削減という方針が打ち出されました。療養病床をもつ病院は改築や改修をして部屋を広くして、かなりの資金を投じて療養環境を整備したのに、今回の決定は詐欺そのものです。これに対して私病協ではいろんな要望や運動をしていますが、まだ削減が撤回されていませんので、これからも続けていきたいと思っています。

また、禁煙推進活動ですが、京都府内のタクシー業者にタクシー内の全面禁煙を推進していただくことになりました。最近、公共の場所で禁煙を実施しようというふうに変化が起きてまいりまして、私病協が禁煙活動のはしりをしたことが、今では世間の常識となっています。

私が平成21年に会長に就任して、この年は丁度協会創立45周年になりました。その記念事業の一環として環境キャンペーンの実施を宣言いたしました。現在、86施設が環境宣言をしております。電気、ガス、水道や医療資材等の削減を病院をあげて取り組んでいただき、半年後の中間報告では平均削減効果は6%と、非常に効果が出ています。これも丁度タイミングよく鳩山由紀夫総理が国連総会で、CO<sub>2</sub>を25%削減すると表明した時期であり、タイムリーな環境宣言であったと思っています。

**出射：**禁煙運動のときには109施設が参加されたのですが、今回の地球環境保全のための環境宣言施設は86施設とすこし少ないようです。現在、私病協の会員は162施設ですので、半分ぐらいということですが、やはり鳩山政権が打ち出した25%削減という高い目標数値が障害になっているのでしょうか。

**真鍋：**節約しようとなると、照明を落としたり、水道の流れを少し緩やかにするといったことになりませんが、職員にしてみれば抵抗があるところもあります。その辺で説得ができにくい施設が踏み切れないということではないかと思っています。

**大槻：**協会に地球環境保全という姿勢を打ち出してもらったので、職員への説得の材料にもしています。環境保全とともに、病院の電気・水など事実節約になっております。

## Theme 2

### 京都私立病院協会の現状

**出射：**次は「私病協の現状」をテーマにお話いただきたいと思います。現在の会員数は、会員140施設、特別会員22施設の合計162施設です。ベッド数は25,426床と非常に大きな組織となっております。私病協の理念は、「病院医療の向上発展と社会の福祉発展に寄与する」ということですが、まず「京都における私病協の役割」についてそれぞれの先生からお話いただけますでしょうか。

#### 1) 私病協の取り組み

**大川原：**私病協の創設以来、職種、職能間の集まりに非常に力を注いできましたし、事務長会、看護部長会、薬剤師部会、放射線技師部会、臨床検査部会、栄養士部会がそれぞれあり、今日まで知識や情報を集積し、それを会員に還元して非常に大きな成果を

急性期病院を退院した後を引き受ける病院、在宅療養を支援する病院が必要不可欠。私病協が指導的役割を果たしていくべき。



大槻秧司 元会長

あげています。私が会長のときに一度調べたのですが、研修は年間六十数回も実施しているということでした。また、介護保険制度ができたときには、介護保険委員会やケアマネジャー委員会を設置されましたし、リハビリテーション部会もできました。とにかく会員相互で各職能別にいろいろな勉強会を開いて、京都の医療の向上のために非常に役立っていると思います。それがひいては、私病協の組織力の強化にも繋がっているのです、今後もこうした事業をより良く取り組んでいくということが必要だと思います。

**武田：**病院の主たる事業は、救急、慢性期医療です。救急については、私病協の会員病院が非常に熱意を持ってやっています。京都市と乙訓2市1町、南部の山城北医療圏、北部の中丹地区で二次病院群輪番体制が整っています。また、小児救急医療電話相談事業も毎年利用者が多くなっています。私病協として救急医療の充実に万全を期しています。

次に、よく社会問題になります院内感染ですが、こういう問題を起こさないようにするために、私病協として民間病院における感染症の発生予防、早期発見・治療、感染拡大防止のための体制整備に努めていますので、大きな問題は起こってこないと思います。

医療事故もしばしば社会問題になっていますが、これを防止するための対策をずっと私病協として取り組んでいますので、さらに深く安全対策を講じていただければと思います。

**清水：**介護保険制度がスタートして、療養病床は医療療養病床と介護療養病床の二つになりました。介護療養病床につきましては参酌標準を国が決めて、その計算に基づいて各都道府県が必要病床数を出しています。必要病床数までしか認めないということですが、介護保険制度のスタート時点では参酌標準が緩かったので、自分の病院を全床介護に転換しました。また、会員に「介護療養病床に移りたいうちに移らないと移れなくなりますよ」ということを言ったり、また、京都介護療養型医療施設連絡協議会（現：京都療養病床協会）を設立したり、いろいろなことをやりました。しかし、国は途中で参酌標準を厳しくし、その結果、京都では参酌標準を上回ったため、当時の京都府のキャリアの課長が「介護療養病床は参酌標準をオーバーしているから減らさな

いとイケない」という発言をしたりして大喧嘩したことがあります。

また、京都府の大きな特徴は、全国で唯一介護療養病床が医療療養病床を上回っていることです。これは現在でも同じ状況です。更に、医療療養病床では、医療区分1の比率が全国で最も高く、四十数%とされています。全国平均で30%ぐらいですので、医療区分1の比率が高いと病院経営は非常に厳しくなるのですが、逆に、そういう患者さんが多く入院しているのは、京都の病院が非常な経営努力をされている賜だと思います。

介護療養病床は、在宅や他の介護保険施設では看ることができない方々が入院している施設なので、絶対に存続させないとはいけません。そうでないと行き場のない方々が出てくることになります。

**出射：**介護サービスの第三者評価事業は、国が介護サービス情報の公表制度を始める前に京都では積極的に動いていましたね。その辺のこともお聞かせいただけますか。

**清水：**京都における介護サービスの第三者評価は全国でトップレベルにあります。第三者評価事業が全国的に始まる2年前からモデル事業としてやっております。私病協の会員病院でモデル事業を受けていただいたところもあります。特徴は、私が京都府の介護サービス第三者評価を検討する会の委員であった関係もあるかもしれませんが、最初から医療が第三者評価事業の中に組み込まれたことです。他の府県では、医療は敷居が高いというか、評価が難しいということもありまして、医療系を除いた介護サービス事業所を対象に評価が実施されていました。

その後、平成18年4月に介護サービス情報の公表



清水 紘 前会長

将来の超高齢社会に向けて慢性期医療はますます必要となる。療養病床の存続を切に願う患者のためにあらゆる努力をする。

制度が施行されました。第三者評価事業が進まない府県が多くあったわけですが、介護保険法で介護サービスの質の確保をしなければならないことが定められているので、国はレベルを下げた介護サービス情報の公表制度という法律をつくり、形だけ整えた格好になりました。京都では第三者評価のレベルが高く評判も良いのですが、情報の公表はレベルも低く費用もかかり、本来の目的である「利用者の選択」にもあまり役立っていないため、事業所からは猛烈な反対が出ています。国には、第三者評価を受診すれば情報の公表が免除されるよう要望しています。

**出射：**私病協としては、年1回の京都病院学会の開催や、職員への各種研修、保健医療管理者養成講座なども行い、積極的に教育に取り組んでいます。この教育問題について大槻先生からお話いただけますでしょうか。

**大槻：**病院職員への各種の研修は私病協が大きな成果をあげている事業だと思います。職種別の研修、新入職員から幹部職員に至るまで、多くの研修事業が行われており、会員にとってなくてはならない研修として位置づけられています。

病院学会については、平成22年で45回目というわけですから、私病協創設時からと同じ長い歴史があります。特徴は、病院の全職種が一同に集まる学会ということです。第33回からはこの特徴を生かして、職種部門ごとの発表に加えて、一つのテーマを決めて各職種が同一会場で発表する要望演題部門をつくりました。今や演題数は400題を超え、参加者は2,000名近くにまでなっています。

保健医療管理者養成講座は、修了生が300名を超えています。私病協認定の保健医療管理士を取得す

ることができ、修了生は京都の私立病院等で幹部として、また中堅幹部、管理職として活躍中です。

京都私立病院報ですが、これも以前から内容の濃いものでしたが、平成21年6月からA4版へと一新して、活字も大きく読みやすくなって効果をあげていると思います。そのほか病院に関する問題、経営の問題から医事紛争まで、病院の全ての問題に対して解決に向かって取り組んでいるのが現状です。

## 2) 私病協の実績

**出射：**それでは「私病協の京都における実績」について真鍋会長からお話しいただきたいと思います。

**真鍋：**まず救急のメインテーマですが、昭和54年から始まりました京都市域二次病院群輪番制度の実績は、平成20年度は協力病院が66病院、うち小児協力が14病院です。輪番制の利用状況ですが、入院で78名、外来で1,275名の実績を残しています。しかし、京都市は実際の入院患者数が少ないという理由で、平成21年度からこの輪番制の補助金を半額にしました。補助金は2床確保に対して支払われており、1床確保にすれば半額で十分だろうということです。しかし、二次輪番制度は最後の拠り所ですから、空きベッドがあってはじめて機能するわけです。1床しか利用されないから1床分の補助金ということでは、二次輪番の意味がありません。京都市には強く抗議しましたが、財政状況が良くないので勘弁してほしいということでした。

他でも財政難の折に地方自治体がこのような補助金を削減しています。その分、救急や周産期の診療報酬を上げることで、何とか解決しようというのが今の国の方針のようです。

小児救急医療電話相談事業の実績は、20年度は4,211件もの電話相談に対応しています。相談がどんどん増えているので、対応する病院が困った状態になっています。しかし、これでコンビニ受診が少なくなったということで、事業の効果が出ています。

**出射：**私病協、いわゆる民間病院の救急医療に対する貢献は非常に大きいと思います。京都ではたらい回しがほとんどなく、しかも搬送時間が非常に短いと感謝されています。今後も私病協として救急には力を入れていきたいと思っています。

### Theme 3

## 京都私立病院協会のこれからの課題

**出射：**それでは、「私病協のこれからの課題」をテーマにお話をお願いしたいと思います。

### 1) 民間病院としての役割

**大川原：**わが国では医療費亡国論のもとに医療費抑制政策が長く続いてきました結果、医療崩壊と言われています。私は、医療や福祉は人の生命や生活を支えるものだから絶対に未来は明るいといつも言ってきました。最近、厚生労働白書に、医療は雇用を生み出し、経済の発展に寄与すると書かれるようになってきました。特に政権交代があってからは、医療や介護を充実させて経済の活性化を図るとはっきり言っていますし、日本の医療費はまだ低いからそれを国際水準並みに上げるとか、医者数を増やすということも言っています。今までの厳しい医療費抑制政策からやや解放されて、未来に希望が持てるのではないかと思います。世界的な不況で政治・経済が混迷しています。その中で財源をどう確保するのかという問題に突き当たっていますし、将来に対する不安は医療界だけではなく社会全般に広がっていますので、今まで通り私病協は地域医療を守るために頑張っていかなければなりません。

私病協は、組織力もしっかりしていますし、一つの物事に対応するときには一致協力してやってきた歴史があります。医療環境が変化する中で、それに対応するような教育研修や制度に対する提言などを今まで通り積極的にやっていくのが一番大事だと思います。

また、地域に根ざした民間病院としてそれぞれの専門性を高めて機能分化し、切れ目のない医療を提供できるよう各医療機関が連携して、地域の限られた医療資源を効率的、効果的に活用し、安心できる医療を提供することが民間病院の役割であると思います。

私は、少子高齢化が進んで将来的に労働力人口が減少していくのに、なぜ国は在宅医療・在宅介護を推し進めるのか、非常に不思議に思っています。少なくとも介護は組織介護をした方が良くと思いますし、公的病院は急性期医療にシフトしていますから、療養型の病床があることで非常に効率よく、社会のニーズにも対応できています。

**真鍋：**在宅が難しいことは厚労省も分かっています。

私病協の特徴は地域医療に必要なことを素早く決断して実行していること。今後は事務局の機能強化を図り、救急をはじめ会員の実績を把握しアピールしていく。



真鍋克次郎 会長

しかし、在宅が無理と認めれば施設をつくらないといけないわけですね。施設をつくと補助金等で国の出費も高まります。

**大川原：**子どもが親を家で看るのは理想的かもしれませんが、現実には難しいことです。それに今は核家族化していますし、一人でも在宅で医療や介護が必要な人がいれば外へ働きに行くこともできません。

**真鍋：**女性の社会進出と在宅介護はまったく矛盾します。

**出射：**ところで、清水絃先生が以前に、施設と在宅でどちらのコストが安いという試算をされています。その結果をお話いただけますか。

**清水：**要介護5で介護療養病床に入院する場合は、月に47万円程度、そのうち約9万円が自己負担になります。一方で、在宅で訪問診療や訪問看護、訪問介護、訪問入浴などのサービスを受けて、介護療養病床に近いサービスを受けるとすると、約80万円の自己負担がかかるという試算結果が出ました。この試算を国の社会保障審議会介護給付費分科会に出しました。これを分科会の委員が厚労省老健局の老人保健課長に説明を求めたところ、「これは極めて特殊な例です。」と逃げられてしまいました。

在宅で看られる人は在宅で看るべきだと思います。在宅で看られない人まで看ようと言うから話がおかしくなります。今後も高齢者がますます増え、在宅では看られない人のための施設がもっと必要です。

**大槻：**療養病床はほとんど行政からの補助金なしに自前で整備しています。これなら国が施設をつくるのにお金がかかるということになりません。それでも国は療養病床の削減を言い、在宅医療の報酬を新設したり点数を引き上げたりして誘導策を行って



出射靖生 副会長

お願いします。

**真鍋**：われわれ私病協は、名前の通り私立ということですので、当然、公立病院とは違った役割を分担しなければなりません。私病協はフットワークの良い、住民に密着した医療・介護サービスを担っています。その中で地域医療は民間病院が中心になって担っていこうという、この心意気が大切だと思います。

その良い例があります。平成21年12月に京都市から「新型インフルエンザワクチンの一斉接種をしたいが、私病協で何とかできないか」という相談がありました。即決即行し、平成22年1月から2月にかけて会員29病院の協力を得て約2,800人もの予防接種を実施することができました。京都市が私病協に話を持ちかけてきたのは、地域医療に必要なことを素早く決断して実行している今までの私病協の働きぶりを評価してくれていたからだと思います。

しかしながら、医療というのは不採算部門もありますから、例えば高度先進医療、特殊医療、僻地医療はやはり政策医療として公的病院に役割を分担してもらい、公私がお互いに医療を分担しながら、地域に密着した、地域で完結する医療体制の構築を目指していかなければならないと思っています。

**武田**：公のほうで強調しておきたいのは、京都府では地域医療再生交付金を北部の公的病院に出す計画など、公的病院への支援が目立ちますが、民間病院も同じ立場で考えてもらうべきです。

**真鍋**：このことは以前から京都府医療対策協議会で、民間病院も公的病院と同じ働きをしていて医師も不足しているので、民間病院にも支援すべきであると口酸っぱく言っていますが、なかなか取り上げられ

ません。粘り強く訴えていきたいと思っています。

### 3) 急性期医療

**出射**：それでは、「急性期医療」について武田先生からお話しいたします。

**武田**：急性期医療で特殊なものは公的病院の方が有利でしょうが、急性期医療のほとんどは民間病院でもやっていますので、それをアピールして、診療報酬についても物が言えるようにしていただきたいと思っています。

DPCは民間病院でも広がってきています。医療従事者の確保ですが、平成18年4月の診療報酬改定で7対1看護が新設されたときに、7対1を届出た公的病院に看護師が流れていくということがありました。看護師の数で診療報酬が決まるような仕組みは見直すべきだと思います。京都府では私病協関係の看護学校があり、4年生大学もできていますが、もう少し看護師不足の問題は続くでしょう。医師の方も増やすということですが、それまで病院が持ちこたえられるかどうか分かりません。患者数の確保については地域医療連携でうまくやっていかねばなりません。

### 4) 慢性期医療（介護も含めて）

**出射**：「慢性期医療」については清水先生にお願いします。療養病床再編、介護療養型医療施設の廃止に反対する署名をたくさん集められましたね。

**清水**：「介護療養型医療施設の存続を求める会」というのがありまして、私も発起人の一人として全国で署名運動をしました。1回目は約14万人分の署名を自由民主党に、2回目のときは約12万人分を民主党に提出しました。どちらも京都では1万人を超える署名が集まりました。

これから団塊の世代が高齢者となり、超高齢社会になるわけですが、そんなときに病床をなくすなんて、国は一体何を考えているのかと言いたくなります。ようやく国でも介護療養型医療施設の廃止を見直すような動きが出てきていますが、まだまだ注目していく必要がありますし、介護療養病床の存続が実現するように運動は続けていきたいと思っています。

医療従事者の不足も問題ですが、介護職員の不足も切実です。これに対して国は平成21年から介護職員の賃金の引き上げを目的とした介護職員処遇改善交付金制度を創設しました。しかし、病院は多職種がチームで動いているので介護職員だけ処遇を向上

させることは難しいのです。やはりこういう問題は、介護報酬で手当てされるべきです。

平成20年度からインドネシア人、平成21年度からフィリピン人の看護師・介護福祉士候補者の受け入れが始まりました。母国で資格があっても日本では無資格扱いで、看護師は上限3年、介護福祉士は4年の滞在期間内に国家試験に合格しなければ帰国しなければなりませんし、しかも看護師試験は年に1回、介護福祉士は4年間で1回の受験資格しかありません。また受入病院の負担も非常に大きいことにも注目する必要があります。

日本の若い人が介護の仕事を選ばないのも問題です。親が3Kというようなことを言っているのかもしれないかもしれません。また、学校でも介護の仕事に対する重要性を説かないといけないうし、我々も職場環境の改善をもっと考えていかねばならないと思います。

私病協は設立当初に比べて守備範囲がものすごく広がっていますので、重点項目をある程度決めないと。オールラウンドにやると中途半端になるような気がします。ただ、重点ばかり追いかけてしまうと足下をすくわれるでしょうし、その辺は柔軟に考えて、小回りが利く協会であるべきではないかと思えます。

今後、病院が増えていくことはありませんので、その中でどうやって協会運営をしていくのが課題です。会費の引き上げも避けては通れませんし、公益法人制度改革で新制度に対応しなければならないという課題もあります。

**出射：**療養病床の数については、急性期病床の平均在院日数が短縮され、療養病床が急性期後の患者を受け入れていくということになれば、個人的な見解としては、削減どころか50万床ぐらいは必要だと思いますが。

**清水：**国は療養病床を増やすとお金がかかるということがあると思います。それ以外の老健や特養、小規模多機能型居宅介護、グループホームなどを増やしていくつもりなのかもしれませんが、やはり医療は絶対必要だと思いますので、療養病床は最低でも40万床は必要だと思います。

**出射：**急性期後の高齢患者の受け入れ、及び慢性期医療の評価と地位の確立について、大槻先生からお願ひします。

**大槻：**急性期病院を退院してからの受け皿がないと、

急性期病床がすぐ満床になり機能不全になります。その受け皿を私立病院が、特にその地域の小規模の病院で受けていく必要があるのではないのでしょうか。それが生き残っていく道の一つだろうと思います。また、在宅療養している方の急性増悪に対応できる病院も必要です。

外に出ていく医療というのも生き残りの道ではないかと思ひます。平成22年度の診療報酬改定で在宅療養支援病院の要件が緩和されましたので、一つの選択肢でしょう。私病協でも検討していくべきことと考えています。

**出射：**それでは最後に、真鍋会長からまとめをお願いします。

**真鍋：**大変貴重な意見を聞かせていただきまして本当にありがとうございます。前々から思っていたことですが、会員病院の機能とともに、事務局の機能ももっと高めないといけません。事務局の仕事がたくさん増えている中で取捨選択しなければなりません。一つには事務局員を増員して機能を高めたいと思っています。もう一つは、その機能の中で私病協の現状と京都府での役割等をリアルタイムに見られるようなデータ集積を行いたいと考えています。その中で最も大事なものは、私病協の会員病院が救急患者をどの程度受け入れているのか、これを私病協でデータを保有し、リアルタイムにホームページ等でいつでも見ることができるようしていきたいですね。

今、医師会が行政に対して物が言えるのは、やはりそれだけの実績を積み重ねているからだと思ひます。私病協もそれに相当する実績をアピールしなければなりません。アピールをするためには実績をいつも自分たちで把握していなければなりません。かなりの実績を積んでいると思ひますので、そういう実績をいつも会員が共有し、自信をもって地域医療をやっているように事務局の機能強化を図っていきますので、ご協力をお願いいたします。

**出射：**今日は長時間にわたり京都私立病院協会創立45周年記念座談会にご出席いただきまして本当にありがとうございます。たいへん興味深い、有意義なお話を聞くことができ本当によかったです。それではこれにて座談会を終わらせていただきます。



# 1 協会組織の動き

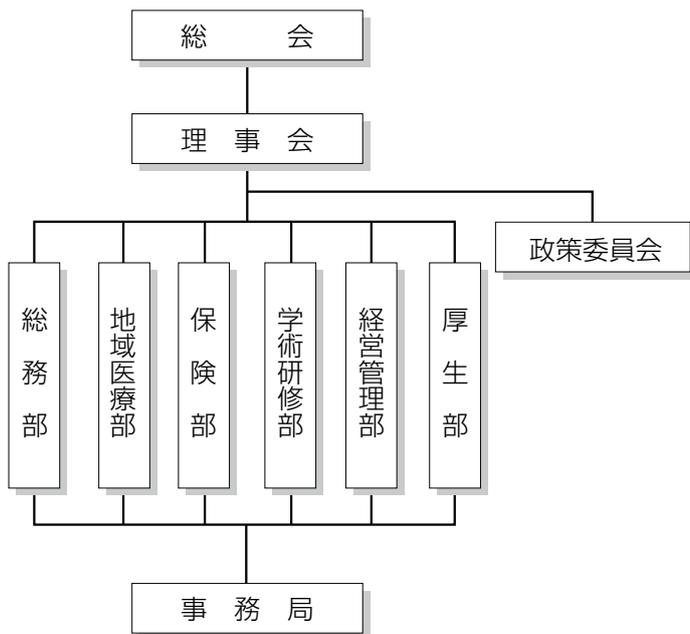
京都私立病院協会は、2009年に創立45周年を迎えた。正会員数（140施設）において大きな変化はないが、特別会員が27から22施設に減少している。病床数は2010年3月末時点で、一般病床が13,366床、療養病床6,080床、精神科病床5,852床、結核病棟60床、老健200床となっている。

2006年に始まった医療制度改革により、医療費適正化のための平均在院日数の短縮や療養病床の再編が行われ、度重なる診療報酬のマイナス改定の為に医師・看護師不足、救急のたらい回し、産科小児科問題が起こり社会的問題に発展している。療養病床の削減、介護療養病棟の廃止については、廃止の撤回を求めて京都療養病床協会と共に署名活動などを行っている。

今までの財政主導による医療費抑制策により医療崩壊が進みつつある中、2009年の総選挙において民主党政権が誕生し、10年ぶりの実質0.19というわずかではあるが、プラス改定が行われることになった。しかしこれでは、医療崩壊を止めることはできず、病院にとっては今後も厳しい経営を迫られることになる。

(副会長 出射靖生)

## 京都私立病院協会 組織図



理事会のもとにある6つの部会に所属する組織として、以下の委員会を設置している。(2010年3月31日現在)

この他、公益法人制度改革への対応、創立45周年記念事業の実施等のための委員会も時限的に設置している。

### 〈総務部〉

理事長・院長会、事務長会、看護部長会、薬剤師部会、放射線技師部会、臨床検査部会、栄養士部会、リハビリテーション部会、全体会議（旧：地区会議）、医療従事者無料職業紹介事業運営委員会、病院医療制度検討委員会

### 〈地域医療部〉

救急医療検討委員会、感染症対策委員会、院内感染対策推進事業運営委員会、医療安全対策委員会

### 〈保険部〉

診療報酬委員会、介護保険委員会、介護サービス第三者評価審査委員会

### 〈学術研修部〉

京都病院学会理事会、京都病院学会実行委員会、看護卒後教育検討委員会、保健医療管理者養成講座運営委員会

### 〈経営管理部〉

未収金対策委員会、環境問題委員会、病院機能向上委員会

### 〈厚生部〉

私病報編集委員会、野球大会実行委員会、バレーボール大会実行委員会、フットサル大会実行委員会

### 〈創立45周年記念事業の実施〉

創立45周年記念事業検討委員会、ボウリング大会実行委員会

### 〈公益法人制度改革への対応〉

公益法人制度改革検討委員会

### 〈会費検討〉

会費検討委員会

## 役員体制

2005年度は役員改選で会長は前任の大槻秧司から清水紘（嵯峨野病院）に交代した。清水会長のもと、副会長には出射靖生（京都回生病院）が加わり、理事が1名交代し役員25名が協会運営にあたった。監事には大川原康夫、武田隆男、高松恵美が就任した。

2006年度は前年度に改選された役員の残り1年の期間として、清水会長のもと役員25名が運営にあたった。

2007年、2008年度は清水体制の2期目であり、2007年度は理事が2名交代し、監事は武田隆男、大槻秧司、高松恵美が就任した。2008年度は理事が2名退任した。

2009年度は役員改選で真鍋克次郎（八幡中央病院）が新しく会長に就任した。副会長には久野成人（久野病院）、富士原正人（京都ルネス病院）、松井道宣（京都九条病院）、武田隆久（医仁会武田総合病院）が新たに加わり、執行部の体制が強化された。監事には、大槻秧司、清水紘、高松恵美が就任した。

## 総会

総会は会員の総意に基づき、事業計画の決定、事業報告の承認、その他の運営に関する重要事項を議決する最高議決機関である。

2005年度以降2009年度まで計5回の通常総会を開催した。

2009年度の第35回通常総会において、創立45周年にあたる当年度に「環境宣言」をおこない、人々の健康を守る立場として、地球環境問題の重要性を認

識し、環境の保全に向けて積極的に貢献することを宣言した。

### ◆第31回通常総会 2005年5月25日

ホテル日航プリンセス京都  
事業報告・決算、事業計画・予算、役員の選出、選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出、顧問の委嘱に関する件を審議し、可決した。

### ◆第32回通常総会 2006年5月24日

京都全日空ホテル  
事業報告・決算、事業計画・予算、選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出に関する件を審議、可決した。

### ◆第33回通常総会 2007年5月23日

京都ブライトンホテル  
事業報告・決算、事業計画・予算、役員の選出、選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出、顧問の委嘱に関する件を審議し、可決した。

### ◆第34回通常総会 2008年5月28日

京都ホテルオークラ  
事業報告・決算、事業計画・予算、選挙管理委員の選出に関する件を審議に関する件を審議、可決した。

### ◆第35回通常総会 2009年5月27日

リーガロイヤルホテル京都  
事業報告・決算、事業計画・予算、役員の選出、選挙管理委員・予備選挙管理委員の選出、顧問の委嘱、環境宣言採択に関する件を審議し、可決した。

## 理事会・政策委員会

理事会は、毎月第1、第3水曜日に定例開催している。協会の執行機関として、定款及び理事会規程

に則り、正確な情報と資料をもとに審議を尽くし、その役割を果たすよう努めている。また、民間病院が直面している医療・介護制度の諸問題、その他関係する事案について要望書・パブリックコメント等を協議し、厚生労働省・京都府・京都市等に対して積極的に意見・提言をおこなっている。

第16期 第1回理事会（2005年6月1日）  
～第42回理事会（2007年5月16日）

第17期 第1回理事会（2007年6月6日）  
～第41回理事会（2009年5月13日）

第18期 第1回理事会（2009年6月3日）  
～第17回理事会（2010年3月17日）

※第18期は2010年3月31日時点での開催実績。

政策委員会は理事会終了後を基本に開催し、理事会で一任された案件の審議や協会運営の重要案件について基本方針の検討などをおこなっている。

2005年度末（2006年3月31日）より2009年度末（2010年3月31日）までの種別病床数の動きは以下の通りである。

		2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末
会 員	一 般	11,914	12,912	12,992	13,030	13,366
	療 養	6,884	6,326	6,230	6,130	6,080
	精 神	5,938	5,860	5,858	5,858	5,852
	結 核	63	63	60	60	60
特 別 会 員	老 健	200	200	200	200	200
	一 般	84	75	74	61	59
	療 養	49	30	31	25	25
	計	25,132	25,466	25,445	25,364	25,642

## 会員のうごき

2005年度末（2006年3月31日）より2009年度末（2010年3月31日）までの会員数および病床数の動きは以下の通りである。

		2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末
会 員 数	会 員	137	139	139	140	140
	特別会員	27	25	24	24	22
	計	164	164	163	164	162
病 床 数	会 員	24,999	25,361	25,340	25,278	25,558
	特別会員	133	105	105	86	84
	計	25,132	25,466	25,445	25,364	25,642



## 2 会員相互の連携と組織強化

京都私立病院協会は理事会を中心に、事務長会、看護部長会、薬剤師部会、放射線技師部会、臨床検査部会、リハビリテーション部会、栄養士部会など、多様な職種が集結し委員会及び複数の部会を擁しており、会員病院間の情報を集積伝達し相互連携を図っている。医療崩壊が叫ばれる中、私立病院協会としては組織としての活動を強化して行くことが必要であり、特に事務局においては今まで以上に早期の情報取得・伝達が必要である。また、患者さんからの信頼を得るために、病院職員の質の向上を図るための教育や研修会が今まで以上に必要となってくる。

(副会長 出射靖生)

### 表彰

国や地方自治体では、医療の分野で顕著な功績のあった者に対し表彰の場を設けているが、その表彰事業の被表彰者の選出にあたり当協会から推薦を行っている。この間、会員関係では以下の方々が表彰された。(所属・職名は表彰日現在)

〈救急医療功労者・厚生労働大臣表彰〉 ※京都府医師会、京都府病院協会との合同推薦

- 2006年 都倉一郎 (都倉病院理事長)
- 2009年 真鍋克次郎 (八幡中央病院理事長)

〈公衆衛生事業功労者・厚生労働大臣表彰〉

- 2007年 大槻秧司 (亀岡病院理事長)
- 2010年 清水 紘 (京都南西病院理事長)

〈産科医療功労者・厚生労働大臣表彰〉 ※京都府医師会、京都府病院協会との合同推薦

- 2010年 伊藤誠一 (伊藤病院理事長)

〈精神科看護業務功労者・厚生労働大臣表彰〉 ※京都精神病院協会との合同推薦

- 2010年 加藤きみ子 (医療法人三幸会看護介護部顧問)

〈京都府救急医療功労者表彰〉

- 2005年 赤松春義 (宇治病院理事長)  
第二京都回生病院

- 2006年 久野敏人 (久野病院院長)  
相馬病院
- 2007年 清水鴻一郎 (京都伏見しみず病院理事長)  
愛生会山科病院
- 2008年 吉川順介 (吉川病院理事長)  
新河端病院
- 2009年 岡本豊洋 (第二岡本総合病院理事長)  
京都九条病院

〈京都府保健医療功労者表彰〉

- 2005年 地域保健医療部門／伊藤誠一 (伊藤病院理事長)  
地域保健医療部門／高雄病院
- 2006年 地域保健医療部門／内田 實 (内田病院理事長)  
地域保健医療部門／長岡病院
- 2007年 地域保健医療部門／清水 紘 (嵯峨野病院理事長)  
地域保健医療部門／京都四条病院
- 2008年 地域保健医療部門／真鍋克次郎 (八幡中央病院理事長)  
地域保健医療部門／なぎ辻病院
- 2009年 地域保健医療部門／近藤泰正 (堀川病院理事長)  
地域保健医療部門／京都南病院



厚生労働大臣表彰



京都府保健医療功労者表彰

#### 〈京都府看護功労者表彰〉

- 2005年 加藤きみ子（元 醍醐病院看護部長）
- 2006年 西岡和子（京都武田病院看護部長）
- 2007年 新井靖子（都倉病院総師長）
- 2008年 寺口淳子（京都南病院看護部長）
- 2009年 澤井利子（共和病院看護部長）

#### 〈公衆衛生事業功労者・財団法人日本公衆衛生協会会長表彰〉

- 2007年 清水正啓（愛生会山科病院常務理事）
- 2008年 戸津崎茂雄（元 京都南病院院長）

※以下の受賞は当協会以外の推薦による

#### 〈叙勲〉

- 2008年 瑞宝双光章／大槻秧司（亀岡病院理事長）
- 瑞宝小綬章／藤田洋一（元 公立南丹病院院長、京都保健衛生専門学校長）

#### 〈ヘルシーソサエティ賞〉

- 2008年 武田隆男（武田病院グループ会長）

## 事務長会

事務長会では常任委員会を中心に、事務長会独自の事業展開はもとより、理事会方針に基づいた各種事業にも積極的に参画し、協会内の各部会・委員会からの要請事項にも対応するなど活発な活動をおこなっている。

病院医療を取り巻く状況が厳しさを増すなか、事務長会では医療情勢の動向把握とそのための情報収集に努めるとともに、会員が直面する諸問題を事務的側面から捉え、その解決に尽力してきた。さらに、私病協の各委員会への事務長会代表委員を派遣して各種事業に参画し、協会の基本方針に対し全面的な協力体制をとっている。

常任委員会では、全委員が経営・保険・労務の3部会を構成し、それぞれの専門能力を活かしながら、有機的な連携のもと数多くの事業を企画している。

2009年度および2010年度は、京都が近畿2府4県の病院団体によって組織される近畿病院団体連合会事務長会の幹事となっており、2009年（平成21年）7月には同会での次回診療報酬改定に向けた要望書内容の決議を取りまとめた。

事務長会活動に求められる役割と期待は大きく、激動の医療情勢のもと、病院経営の安定化と効率化をめざす事務長会の取り組みは、今後益々多岐にわたるものと思われる。

5年間の主な事務長会活動を以下に記す。

※以降、開催場所の記載のないものは京都府医師会館での開催。

#### ◆常任委員長

中谷泰幸 2003年6月～現在（なぎ辻病院）

#### ◆事務長会総会（各年5月）

2005(平成17)年度 5月13日 京都全日空ホテル  
第16期役員選出、平成17年度事業計画の採択

2006(平成18)年度 5月12日  
ホテル日航プリンセス京都  
平成18年度事業計画の採択、診療報酬改定・介護報酬改定について研修会を開催

2007(平成19)年度 5月11日  
ホテル日航プリンセス京都  
第17期役員選出、平成19年度の事業計画の採択

2008(平成20)年度 5月9日  
京都ホテルオークラ  
平成20年度の事業計画の採択



事務長会総会



事務長会研修会

2009(平成21)年度 5月8日

ホテル日航プリンス京都  
第18期役員選出、平成21年度の事業計画の採択

◆事務長会全体会議（各年12月に上半期の事業報告と経営管理講演会を開催した。テーマについては後述）

2005(平成17)年度 12月9日

京都ブライトンホテル

2006(平成18)年度 12月8日

京都ブライトンホテル

2007(平成19)年度 12月14日

ホテル日航プリンス京都

2008(平成20)年度 12月12日

グランドプリンスホテル京都

2009(平成21)年度 12月11日

ホテル日航プリンス京都

◆研修会・拡大常任委員会

2005(平成17)年度

・10月11日（拡大常任委員会）

「病院経営とその対策～第5次医療法改正を受けて～」

講師／濱田光樹（アイマーク税理士法人）

・12月9日 京都ブライトンホテル(全体会議)

「医療法改正に伴う具体的戦略」

講師／船本智睦（京都紫明税理士法人・NPO法人公的病院を良くする会）

・2月23日 京都市リサーチパーク(バズホール)

(1) 「平成18年度介護報酬改定について」

講師／三浦公嗣（厚生労働省老健局老人保健課長）

(2) 「平成18年度診療報酬改定について」

講師／麦谷真里（厚生労働省保険局医療課長）

2006(平成18)年度

・4月14日（拡大常任委員会）

「職種別賃金実在者全数調査集計報告会」

解説／市場真澄（岩倉病院看護副部長）

・5月12日 ホテル日航プリンス京都(総会)

「今回の診療報酬改定・介護報酬改定と今後の課題」

講師／東山和富（愛生会山科病院医事課長）

村田昌史（京都博愛会病院医事課長）

安藤良彦（賀茂病院医事課長）

・6月14日

「医療事務担当者研修会」

講師／事務長会保険部会医療事務専門委員

・6月29日

「医療療養病床の診療報酬に関する説明会」

（京都療養病床協会・京都府医師会・京都府病院協会と共催）

講師／山本光子（宇治黄檗病院事務次長）

林よし子（京都きづ川病院事務次長）

・11月10日（拡大常任委員会）

「改正男女雇用機会均等法、仕事と家庭の両立」

解説／田嶋民江（京都労働局雇用均等室長）

「高年齢者雇用安定法施行への対応」調査結果報告（中間報告）

解説／滋岡嘉弘（宇治黄檗病院常務理事）

・12月8日 京都ブライトンホテル(全体会議)

「医療法改正等について」（経営部企画）

講師／中村博治（厚生労働省医政局総務課企画官）



事務長会全体会議拡大常任委員会

- ・ 2月24日 京都リサーチパーク（バズホール）  
（看護部長会と合同）  
「日本型医療の崩壊」  
講師／清水鴻一郎（衆議院議員・京都伏見し  
みず病院理事長）

#### 2007（平成19）年度

- ・ 11月9日（拡大常任委員会）  
「医療法人制度改革について」  
講師／真下信男（京都府医療室医務・看護担  
当係長）
- ・ 12月14日 ホテル日航プリンセス京都（全体  
会議）  
「医療提供体制のこれからを見据えて～病院  
経営はどう変わるべきか～」  
講師／西村周三（京都大学大学院経済学研究  
科教授）
- ・ 3月7日 ホテル日航プリンセス京都  
「平成20年度診療報酬改定について」  
講師／原 徳壽（厚生労働省保険局医療課長）

#### 2008（平成20）年度

- ・ 11月14日（拡大常任委員会）  
「改正パートタイム労働法について」  
講師／高木和男（社会保険労務士高木事務所  
所長）
- ・ 12月12日 グランドプリンスホテル京都（全  
体会議）  
「これからの医療政策・医療制度を占う～社  
会保障の現状と将来～」  
講師／川淵孝一（東京医科歯科大学大学院医  
療経済学分野教授）
- ・ 2月27日 京都全日空ホテル  
「平成21年度介護報酬改定について」

講師／鈴木康裕（厚生労働省老健局老人保健  
課長）

- ・ 3月13日（拡大常任委員会）  
「平成21年度税制改正のポイント解説」  
講師／西脇秀一（税理士法人トーマツ・税理士）

#### 2009（平成21）年度

- ・ 11月13日 京都府中小企業会館（拡大常任委  
員会）  
「京セラ式病院原価管理手法について」  
講師／森田直行（KCCSマネジメントコンサ  
ルティング株式会社代表取締役）
- ・ 12月11日 ホテル日航プリンセス京都（事務  
長会全体会議）  
「医療情勢の動向と民間病院の経営戦略の在  
り方について」  
講師／小山秀夫（静岡県立大学経営情報学部  
学部長・教授）
- ・ 3月20日 からすま京都ホテル（事務長会研  
修会）  
「平成22年度診療報酬改定について」  
講師／佐藤敏信（厚生労働省保険局医療課長）

#### ◆研修旅行

先進的な施設見学を通しての研修と、会員事務長  
間の親睦を図ることを目的に実施している

- 2005年度／呉共済病院（広島県呉市）
- 2006年度／佐久総合病院（長野県佐久市）
- 2007年度／済生会熊本病院（熊本県熊本市）
- 2008年度／倉敷中央病院（岡山県倉敷市）
- 2009年度／木沢記念病院（岐阜県美濃加茂市）



事務長会研修旅行



事務長会研修旅行

◆他府県病院協会事務長会との交流

1) 近畿病院団体連合会との交流

- ・2005（平成17）年度  
9月16日 大津プリンスホテル（滋賀県）
- ・2006（平成18）年度  
10月6日 大津プリンスホテル（滋賀県）  
3月15日 近江八幡市立総合医療センター（滋賀県）
- ・2007（平成19）年度  
9月14日 猿沢荘（奈良県）  
3月7日 春日野荘（奈良県）
- ・2008（平成20）年度  
10月17日 春日野荘（奈良県）  
3月6日 春日野荘（奈良県）
- ・2009（平成21）年度  
7月3日 ハイアットリージェンシー京都（京都府）

京都が幹事となつての開催。「病院医療の崩壊を食い止めるため次回の診療報酬で要望すべきこと！」をテーマに平成22年度診療報酬改定に向けて各府県の病院団体から出された要望事項をまとめ、近病連事務長会の見解として決議した。

3月5日 ホテルグランヴィア京都（京都府）「平成22年度診療報酬改定について」をテーマに中央社会保険医療協議会委員の安達秀樹氏が講演。

2) 他府県病院協会との交流

- ・2009（平成21）年度  
兵庫県民間病院協会事務長・看護部長合同研修会に出席  
10月3日 ノボテル甲子園（兵庫県）

◆経営部会の主な活動

- ・2005（平成17）年度
  - 1) 平成16年度分経営分析調査の実施とその集計。
  - 2) 新たな公益性の高い医療法人として創設される「社会医療法人」に関する研究を行った。
  - 3) 事務長会全体会議での経営管理講演会「医療法改正に伴う具体的戦略」の企画を行った。
- ・2006（平成18）年度
  - 1) 平成17年度分経営分析調査の実施とその集計。
  - 2) 前年度に引き続き社会医療法人に関する研究を行った。
  - 3) 事務長会全体会議での経営管理講演会「医療法改正等について」の企画を行った。
  - 4) 病院の原価計算に関する講演会の開催に向け、企画を行った。
- ・2007（平成19）年度
  - 1) 平成18年度分経営分析調査の実施とその集計。回収率の向上を図るべく、簡易版の調査も同時に実施。
  - 2) 福祉医療機構の融資条件緩和に向け、対応を検討した。
  - 3) 医療法人の定款変更に関する説明会の開催について企画を行った。
  - 4) 事務長会全体会議での経営管理講演会「医療提供体制のこれからの見据えて～病院経営はどう変わるべきか～」の企画を行った。
- ・2008（平成20）年度
  - 1) 平成19年度分経営分析調査の実施とその集計。事前に会員へアンケート調査実施し、ニーズの把握に努めたうえで調査項目の見直しを行った。



事務長会経営管理講演会

- 2) 事務長会全体会議での経営管理講演会「これからの医療政策・医療制度を占う～社会保障の現状と将来～」の企画を行った。
- ・2009（平成21）年度
  - 1) DPC導入に関する調査を実施。
  - 2) 平成20年度分経営分析調査を実施。
  - 3) 11月事務長会拡大常任委員会での研修「京セラ式病院原価管理手法について」を企画した。
  - 4) 12月の事務長会全体会議の経営管理講演会「医療情勢の動向と民間病院の経営戦略の在り方について」を企画した。
  - 5) 経費節減に関するアンケート調査を実施した。
- ◆保険部会の主な活動
  - ・2005（平成17）年度
    - 1) 事務長・看護部長合同研修会を企画。「平成18年度介護報酬改定について」と「平成18年度診療報酬改定について」のテーマで講演会を企画した。
    - 2) 会員からの医療事務に関する照会に対し、医事専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。
    - 3) 医療事務専門委員会議の運営  
平成17年度医療事務勉強会の開催  
10月12日～13日 コミュニティ嵯峨野
  - ・2006（平成18）年度
    - 1) 事務長・看護部長合同研修会を企画。「日本型医療の崩壊」のテーマで講演会を企画した。
    - 2) 会員からの医療事務に関する照会に対し、医事専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。
  - ・2007（平成19）年度
    - 1) 事務長会研修会を企画。「平成20年度診療報酬改定について」のテーマで講演会を企画した。
    - 2) 会員からの医療事務に関する照会に対し、医事専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。
    - 3) 医療事務専門委員会議の運営  
平成19年度医療事務勉強会の開催  
10月22日～23日 コミュニティ嵯峨野
  - ・2008（平成20）年度
    - 1) 事務長会研修会を企画。「平成21年度介護報酬改定について」のテーマで講演会を企画した。
    - 2) 会員からの医療事務に関する照会に対し、医事専門委員との連携により適切な情報提供に努めた。
    - 3) 医療事務専門委員会議の運営  
平成20年度医療事務勉強会の開催  
10月22日～23日 コミュニティ嵯峨野
  - ・2009（平成21）年度
    - 1) 会員からの保険請求に関する照会および近畿厚生局の適時調査の結果に対し、診療報酬委員会との連携のもと適切な情報提供に努めた。
    - 2) 平成21年度医療事務勉強会の企画・運営について委員の派遣等の協力を行った。
    - 3) 事務長会研修会「平成22年度診療報酬改定について」を企画した。



医療事務勉強会



賃金・労働条件等実態調査集計表

#### ◆労務部会の主な活動

##### ・2005（平成17）年度

- 1) 2005年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計
- 2) 退職金実態調査・役職手当調査・賃金実在者全数調査を実施。賃金実在者全数調査は拡大常任委員会における説明会を企画し、報告を行った。
- 3) 中堅幹部職員研修会の企画及び運営  
研修会 2月16日～17日 亀岡ハイッ
- 4) 2004年冬期・2005年夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集を行った。

##### ・2006（平成18）年度

- 1) 2006年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計
- 2) 高年齢者雇用安定法施行に伴う調査の実施
- 3) 4月の拡大常任委員会において前年度に調査を行った職種別賃金実在者全数調査についての説明会を企画し、報告をおこなった。
- 4) 11月の拡大常任委員会において男女雇用機会均等法の改正についての研修会を企画した。
- 5) 2005年冬期・2006年夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集を行った。

##### ・2007（平成19）年度

- 1) 2007年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計
- 2) 看護師確保対策としての院内保育施設に関するアンケートを実施。
- 3) 中堅幹部職員研修会の企画及び運営  
研修会 2月21日～22日 京都・烟河
- 4) 2006年冬期・2007年夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集を行った。

##### ・2008（平成20）年度

- 1) 2008年度分賃金・労働条件等実態調査の実施とその集計
- 2) 賃金実在者全数調査を実施。
- 3) 11月拡大常任委員会において「改正パートタイム労働法について」のテーマで、研修会を開催。
- 4) 2007年冬期・2008年夏期一時金および春の賃金改定、2008年冬期一時金に関する情報収集を行った。

##### ・2009（平成21）年度

- 1) 2009年度賃金・労働条件等実態調査を実施。
- 2) 定年再雇用に関する調査の実施。
- 3) 短時間正職員制度に関する研修会の企画を行った。
- 4) 中堅幹部職員研修会の開催に向けて検討を行った。  
研修会 2月18日～19日 京都・烟河
- 5) 2008年冬期・2009年夏期一時金および春の賃金改定に関する情報収集を行った。

#### ◆地区活動

##### ◆北部地区事務長会の活動

中丹、丹後地区の会員を対象とする北部地区事務長会で、経営管理に関する情報交換や北部地区固有の問題について協議・情報交換を行った。

##### ・2005（平成17）年度

- 9月27日 ホテル綾部（綾部市）
- 3月18日 かねみつ（京丹後市）

##### ・2006（平成18）年度

- 9月13日 ホテルロイヤルヒル福知山（福知山市）
- 2月16日 丹後おおみや（京丹後市）



北部地区事務長会

- ・ 2007（平成19）度
  - 9月21日 ホテル綾部（綾部市）
  - 2月15日 油屋（与謝郡伊根町）
- ・ 2008（平成20）度
  - 9月22日 ホテルロイヤルヒル福知山（福知山市）
  - 2月13日 油屋・和亭（与謝郡伊根町）
- ・ 2009（平成21）年度
  - 9月29日 ホテルロイヤルヒル福知山（福知山市）
  - 3月12日 炭平（京丹後市）

◆南部地区事務長会の活動

宇治・城陽・八幡・久御山・京田辺・精華地区の会員を対象とする南部地区事務長会で地域固有の話題をはじめ、病院経営に関わる様々な問題について協議・情報交換を行った。

- ・ 2005（平成17）年度
  - 4月28日 宇治市産業会館
- ・ 2006（平成18）年度
  - 4月27日 宇治市産業会館
  - 11月28日 宇治黄檗病院
- ・ 2007（平成19）年度
  - 4月26日 宇治武田病院
  - 10月11日 宇治市産業会館
- ・ 2008（平成20）年度
  - 4月23日 宇治市産業会館
  - 11月26日 宇治市産業会館
- ・ 2009（平成21）年度
  - 4月22日 宇治市産業会館
  - 11月25日 宇治市産業会館

## 看護部長会

当部会では原則、毎月1回定例会を開催している。会員病院の看護管理者であれば誰でも参加出来るオープン参加形式をとり、毎回平均50名前後の参加を得ている。

定例会では、各委員会および研修会、関係団体からの報告と日常業務などの疑問に即対応できるような情報交換を行っている。また、定例会後に実施する相互研修では、全体での情報交換やグループ討議、他部門から講師を招いての講義と様々な形式を取り入れ実施している。

◆総会

看護部長会の総会は毎年5月に開催し、前年度の事業報告と当該年度の事業方針、役員・委員の選出などを決定している。

- 2005年度 京都全日空ホテル
- 2006年度 京都全日空ホテル
- 2007年度 ホテル日航プリンセス京都
- 2008年度 ホテル日航プリンセス京都
- 2009年度 京都ロイヤルホテル&スパ

◆相互研修

2005（平成17）年度

4月「当世看護学生の気質～卒後の効果的な指導方法について～」

講師／池西静江（京都中央看護専門学校副校長）

6月「施設基準の最新情報と基本的知識」

講師／野村 浩（京都私立病院協会事務局長代理）



看護部長会総会

7月「看護管理者向けのリスクマネジメント」  
講師／稲葉一人（科学技術文明研究所特別研究員）

9月「労務管理～定時に仕事が終われるための工夫～」(グループワーク)

10月「継続教育～組織的な中間管理者の育成について～」(グループワーク)

11月「当院で使っている便利なグッズを紹介しあおう」(グループワーク)

3月「診療・介護報酬改定について」  
講師／野村 浩（京都私立病院協会事務局長代理）

#### 2006（平成18）年度

4月「新人教育～技術トレーニングの工夫～」(グループワーク)

6月「適時調査を踏まえた診療報酬改定後の動き」(情報交換)

8月、9月、11月「看護管理者の育成について」  
講師／岡部恵子（埼玉医科大学保健医療学部教授）

3月「看護必要度の導入と活用方法」  
講師／中島すま子（京都第二赤十字病院看護部長）

#### 2007（平成19）年度

7月「改正男女雇用機会均等法について」  
講師／田嶋民江（京都労働局雇用均等室長）

9月「労務管理」  
講師／滝川和信（事務長会労務部会部員）

11月「バランスト・スコアカード（BSC）」  
講師／熊川寿郎（国立保健医療科学院経営科学部部長）

#### 2008（平成20）年度

4月「診療報酬改定について～看護を中心に～」  
講師／東山和富（愛生会山科病院事務次長・医療事務専門委員会議代表委員）

6月「看護部長が抱える諸問題」(グループワーク)

7月「改正パートタイム労働法について」  
講師／中島則子（京都労働局雇用均等室長）

9月「看護部門管理者の感染対策への関わり」  
講師／林田真由美（亀岡市立病院看護部長）

11月「具体的な院内感染の取り組み（グループワーク）」

2月「医療安全管理者を支援する看護部責任者の役割」

講師／三嶋明子（京都桂病院医療安全管理室室長）

3月「医療安全管理について～各施設での取り組み～」(グループワーク)

#### 2009（平成21）年度

6月「看護部長が抱える諸問題」(グループワーク)

7月「新型インフルエンザ対策」  
講師／北島則子（京都府健康対策課参事）

9月「キャリア開発の仕組みづくりに向けた取り組み（認定看護師などへの支援）」(グループワーク)

10月「看護職員の定着に向けた取り組み」(グループワーク)

11月「看護管理者が考える院内感染対策～標準予防策 スタンダードプレコーション～」  
講師／目黒みどり（第二岡本総合病院 感染管理認定看護師）



事務長会・看護部長会合同研修会

### 3月「医療安全対策」

講師／三嶋明子（京都桂病院医療安全管理室室長）

#### ◆看護部長会総務委員会

看護部長会の運営について全般的に企画・調整を行っており、部会長と副部会長などで構成されている。主な活動として、定例会での相互研修の企画・運営を行い、グループワーク、全体での情報交換、講演会など研修形式についても検討している。その他、当委員は教育委員会・福利厚生委員会の委員も兼ねており、各委員会の企画・運営に関しても検討している。

#### ◆教育推進委員会 ※2009年より委員会名称を教育委員会に変更。

看護職員の教育の役割を担っており、主な活動としては看護職員を対象とした各種研修の企画・運営が挙げられる。看護研修では、専門的な分野について掘り下げた内容を、一般教養研修では看護部門に限らず全職種を対象にした幅広い分野をテーマに講師を招き、多くの参加者を得ている。

その他、看護主任や師長などを対象とした看護卒業後教育に関する研修の企画・運営も当委員会が行っている。

〈事務長・看護部長合同研修会〉 ※2006年度まで事務長会と合同で開催。いずれも京都リサーチパーク（バズホール）で開催。

2005（平成17）年度

2月（1）「平成18年度介護報酬改定について」  
講師／三浦公嗣（厚生労働省老健局老人保健課長）

（2）「平成18年度診療報酬改定について」

講師／麦谷真里（厚生労働省保険局医療課長）

2006（平成18）年度

2月「日本型医療の崩壊」

講師／清水鴻一郎（衆議院議員・京都私立病院協会理事）

〈看護研修〉 ※2007年度まで開催。

2005（平成17）年度

11月「看護にいかすアロマセラピー」

講師／ギル佳津江（ジャパン・エコール・デ・アロマセラピースクール京都校主任講師）

2006（平成18）年度

2月「在宅ホスピスの実践について」

講師／南 吉一（在宅ホスピスあおぞら所長）

2007年（平成19）年度

3月「エンゼルメイクケアについて」

講師／鎌田智広（関西エンゼルメイク研究会）

〈一般教養研修〉 ※2008年度まで看護中間管理者研修Ⅰと合同で開催。

2005（平成17）年度

12月「障害者とスポーツ」

講師／高橋 明（大阪市障害者福祉・スポーツ協会スポーツ振興部スポーツ課長）

2006（平成18）年度

12月「死をふくむ幸福～日本とブータンを通して～」

講師／本林靖久（大谷大学講師）

2007（平成19）年度

12月「ともに生きる～善人・悪人～」

講師／梶田真章（法然院貫主）



看護部長会研修旅行



看護部長会研修旅行

2008（平成20）年度

12月「私の国際協力 IN MYANMAR」

講師／舟橋智恵（ジャパンハート・海を越える看護団）

〈師長研修〉 ※2008年度まで看護中間管理者研修Ⅱと合同で開催。

2005年度～2008年度

9月「現場での部下の育成」

講師／多羅尾美智代（元 三木市民病院看護部長）

#### ◆福利厚生委員会

看護部長相互の親睦を深めることを目的とし、活動している。毎年1月に開催する新春懇親会や5月開催の総会での懇親会などの企画を担当している。また、毎年1度開催する一泊研修旅行の企画も行っている。

#### 〈研修旅行〉

- 2005年8月 刈谷総合病院（愛知県刈谷市）
- 2006年10月 白浜はまゆう病院（和歌山県西牟婁郡）
- 2007年10月 公立豊岡病院組合立豊岡病院（愛知県豊岡市）
- 2008年10月 医療法人近森会近森病院（高知県高知市）
- 2009年2月 徳島赤十字病院（徳島県徳島市）

#### 〈新春懇親会〉（毎年1月開催）

- 2005年 京都全日空ホテル
- 2006年 京都ロイヤルホテル&スパ
- 2007年 京都ブライトンホテル
- 2008年 京都ブライトンホテル

2009年 京都ロイヤルホテル&スパ

## 薬剤師部会

当部会は、医薬品の品質や薬剤師の日常業務改善のための情報交換、学術研修活動、医療制度の検討を目的として1982年（昭和57年）に薬局長会として発足し、2002年（平成14年）10月からは薬局長のみならず薬剤師も委員会に参加するようになり、薬剤師部会と名称を改めて現在に至っている。

この5年間に関しても引き続き、各種研修会を開催し、薬剤師の技能向上を図るための取り組みの一環として日頃の日常業務に役立つ研修をはじめ、チーム医療の中で薬の専門家として認知されるため、今後必要とされるコミュニケーション能力の向上を目的とした研修会も企画・開催した。当部会の研修会は、1994年（平成6年）に日本病院薬剤師会生涯研修制度による単位付与の認定研修となり、外部からも評価を受け今日まで定着している。

また、近年国が医療保険財政の改善を目的に後発医薬品の使用を推し進めていることを受けて2007年（平成19年）5月に後発医薬品の品質や情報提供、安定供給に対する不安を取り除くべく、ジェネリックの選択・評価のひとつの参考として事例やデータ、参考文献を収集し、「ジェネリック医薬品の知識と評価ポイント」としてまとめ、会員施設に配布した。

#### ◆講演会

第77回（2005年5月28日）

「病棟薬剤師職能の新しい展開と抗菌薬適正使用のあり方」



ジェネリック医薬品の知識と評価ポイント



薬剤師部会講演会



薬剤師部会施設見学

講師／森田邦彦（同志社女子大学薬学部教授薬学部長）

第78回（2005年11月26日）

「みんなで取り組もう無菌調製」

講師／中西弘和（京都桂病院薬剤科長）

第79回（2006年5月27日）

「サプリメントとは何だろう？～その概要と利用方法～」

講師／佐伯輝彦（大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業部、(独)国立健康・栄養研究所認定栄養情報担当）

第80回（2006年10月21日）

「これからの病院薬剤師に求められる役割とは～ジェネリック導入と薬剤師の役割」

講師／楠本正明（舞鶴共済病院薬剤部長）

第81回（2007年5月26日）

「薬剤師はどうやって緩和ケアに関わっていきべきなのかーサイエンスから緩和ケアを考える」

講師／成田 年（星薬科大学薬品毒性学教室准教授・日本緩和医療薬学会理事・事務局長）

第82回（2007年10月13日）

「麻薬管理マニュアルの改訂について」

講師／足立有佳里（京都府保健福祉部薬務室指導啓発担当主任）

第83回（2008年5月24日）

「急性期医療を取り巻く環境変化と2008年度診療報酬改定のポイント～DPCへの対応と薬剤師業務に与える影響を中心に～」

講師／土居勝弘（田辺三菱製薬株式会社営業本部営業統括部営業推進部販路促進グループ副主査）

第84回（2008年11月27日）

「患者とのコミュニケーションスキルについて」

講師／清野健太郎（Pure Field 代表）

#### ◆施設見学

2006年3月 京都桂病院

2007年5月 同志社女子大学

2009年8月 立命館大学

## 放射線技師部会

1989年（平成元年）にそれまで当協会の事業のひとつであったが活動を休止していた放射線技術研究会が名称変更を行い、放射線技師部会として発足した。従来からの活動を継承し、主に会員施設における放射線部門の業務の効率化を図るとともに、会員間で相互に親睦・交流を深めることを目的に活動を続けている。

当委員会の活動は講演会の企画・開催を主としており、講演会では広範囲のテーマを扱い、対象者を放射線技師に限定せず幅広い内容で開催している。その他、必要に応じて各種アンケート調査を実施するとともに、講演会の内容やアンケート結果、会員施設からの研究発表などを取りまとめた「放射線技師部会誌」を発行し、現在までに第8号の発行に至っている。

画像診断部門の技術は日進月歩であり、放射線技師には日々技術向上のための努力が求められる。そうした放射線技師のスキルアップを助力すべく、当部会では今後も活発に活動を行っていく所存である。



放射線技師部会誌



放射線技師部会講演会



放射線技師部会施設見学

## ◆講演会

第54回 (2005年7月21日)

「マルチスライスCTの技術と臨床～メーカー及び機種の違い・4列から64列まで～」

- ①「マルチスライスCTの技術と臨床」
- ②「当院における心臓CTについて」

講師／①(1)鎌田 歩 (東芝メディカルシステムズ株式会社関西支社営業推進部CT担当)

(2)小柳将人 (GE横河メディカルシステム株式会社CT営業部営業技術)

(3)早川 護 (シーメンス旭メディテック株式会社CTグループ)

②多富仁文 (三菱京都病院・放射線技師)

第55回 (2006年1月20日) 島津製作所研修センター  
「腫瘍PET-CTの基礎と臨床」

- ①「腫瘍PET-CTの基礎と臨床」
- ②「PETの最新情報」

講師／①巽 光朗 (武田病院画像診断センター副センター長)

②岡 均 (株式会社島津製作所医用販売促進課係長)

第56回 (2006年6月6日)

「64スライスCTの技術と臨床」

講師／森下 浩 (もりした循環器科クリニック院長)

第57回 (2007年1月26日) 島津製作所研修センター  
「電子カルテと画像配信」

- ①「島津製作所における医療情報システムへの取り組み」
- ②「電子カルテの導入は私たちに何をもたらしたのか」

③「電子カルテ導入で問題となったこと」

講師／①金谷章秀 (株式会社島津製作所医療情報システムグループ主任)

②井上博志 (洛和会丸太町病院管理部長代理)

③小西秀昌 (第二岡本総合病院情報システム課課長)

第58回 (2007年7月20日)

「医療従事者が知っておくべきこと」

- ①「医療機器に関する安全管理について」
- ②「医療従事者のセクハラ問題について」

講師／①真下信男 (京都府保健福祉部医療室医務看護担当係長)

②滝川和信 (岩倉病院事務長)

第59回 (2008年1月18日) 島津製作所研修センター  
「知って安心医療ひばく」

- ①「X線ひばくに対する島津製作所の取り組み」
- ②「放射線ひばくについて」

講師／①田中修二 (株式会社島津製作所医用機器事業部マーケティング部部長)

②西谷源展 (京都医療科学大学医療科学部教授)

第60回 (2008年7月4日) 京都中央看護保健専門学校  
「放射線技師のための医療経営戦略～診療報酬改定、DPC等を含めて～」

講師／井上博志 (洛和会丸太町病院管理部長)

第61回 (2009年1月30日) 島津製作所研修センター  
「3 TMR装置の使用経験」

- ①「FPDアプリケーションの現状と将来展開」
- ②「3 TMR装置の使用経験」

講師／①塩見 剛 (株式会社島津製作所医用機器事業部マーケティング部課長)



臨床検査部会講演会

②清水哲也(蘇生会総合病院放射線技師)

第62回 (2009年7月10日) 京都府医師会館

「320列CT Aquilion ONEの使用経験」

①「ADCT Aquilion ONEのご紹介」

②「320列CT Aquilion ONEの使用経験」

講師/①浦西歩美(東芝メディカルシステムズ株式会社関西支社 CTアプリケーション担当)

②井手田英樹(坂崎診療所放射線技師長)

第64回 (2010年1月29日) 島津製作所研修センター

「フィルムレス時代へ向けて～院内PACS構築から広域ネットワーク連携へ～」

①「X線モニタ診断の現状と課題～X線画像のデジタル化～」

②「フィルムレス時代へ向けて～院内PACS構築から広域ネットワーク連携へ～」

講師/①田中修二(株式会社島津製作所医用機器事業部マーケティング部部长)

②河上 聡(京都ProMed株式会社代表取締役社長・画像診断センター長)

#### ◆施設見学

2008年5月 宇治武田病院

#### ◆アンケート調査

2005年9月 放射線部門運営に関する動向調査

#### ◆その他

2010年1月 「放射線技師部会誌第8号」発行

## 臨床検査部会

臨床検査技師として幅広い知識を習得することにより、病院で働く一人の医療従事者として、更なる資質の向上を図るための活動を行っている。

これまでに、数多くの講演会や研修会を開催し、日常の検査業務に求められる専門知識の習得や検査室運営にとって重要な情報交換を行ってきた。また、会員病院検査室の交流にとどまらず、京都府臨床検査技師会などとも連携しながら、全職種を対象にパソコン講座等の企画を進めている。近年では、医療保険からの経済的な締め付けが一段と厳しくなりつつあり、将来を見据えた検査室の管理運営やシステム化の推進などをテーマにした取り組みを中心に運営している。その他、感染症・血液製剤・検体の取り扱いなど、他職種との連携を必要とする問題についても積極的に取り組んでいる。

運営委員会は隔月で開催し、ますます厳しさを増す医療環境、検査室運営について討議し、業務の改善に向けた啓発活動を行いつつ、京都府臨床検査技師会との連携に努めている。また、委員会で検討した議事については、その内容を「検査部会FAX通信」として取りまとめ、会員病院の検査室宛に送信している。

#### ◆講演会

第40回 (2005年12月8日)

「患者と医療者のためのカルテ開示」

講師/勝村久司(大阪府立高校教員)

第41回 (2007年2月15日)

「アンチエイジング医学の基礎と実践～アンチ



臨床検査部会パソコン講座



臨床検査部会施設見学

エイジングドックを中心に～」

講師／渡邊尚美（武田病院健診センター係長）

第42回（2008年2月7日）

「食の安全について ～私たちを取り巻く食品の  
危害～」

講師／田中明子（株式会社ファルコライフサイ  
エンス学術インフォメーションリーダー）

第43回（2010年3月11日）

「睡眠時無呼吸症候群の検査とCPAP療法につ  
いて」

講師／田中奈緒（帝人在宅医療株式会社 臨床  
検査技師）

#### ◆パソコン講座

2005年10月・11月「Power Point（初級）講習会」  
株式会社三笑堂システム管理部

2006年10月・11月「Power Point（初級）講習会」  
株式会社三笑堂システム管理部

2007年10月・11月「Power Point（初級）講習会」  
京都大学医学部附属病院検査部（京都府臨床検  
査技師会情報システム分野）

2008年3月「Excel（初級）講習会」京都大学医  
学部附属病院検査部（京都府臨床検査技師会情  
報システム分野）

2008年9月・11月「Power Point（初級）講習会」  
京都大学医学部附属病院検査部（京都府臨床検  
査技師会情報システム分野）

2009年2月・8月「Excel（初級）講習会」伊藤  
昇平（堀川病院事務）

2010年1月・3月「Power Point（初級）講習会」  
京都大学医学部附属病院検査部（京都府臨床検  
査技師会情報システム分野）

#### ◆施設見学

2006年2月 先端医療センター

2007年2月 アークレイ株式会社

2008年3月 京都微生物研究所総合科学分析セン  
ター

2009年3月 株式会社堀場製作所

2010年2月 株式会社京都科学

#### ◆FAX通信

2005年度 No.60～No.69

2006年度 No.70～No.79

2007年度 No.80～No.84

2008年度 No.85～No.90

2009年度 No.90～No.94

#### ◆その他

2006年2月 京都府赤十字血液センターにおける  
受託検査業務終了への対応（会員病院への影響  
に関するアンケート調査、要望書の提出）

## 栄養士部会

当部会は1986年（昭和61年）に設置された。病院  
入院中の食事療養が疾病治療の直接的手段の一部で  
あることを常に意識しながら、管理栄養士・栄養  
士・調理師の質的向上と安全かつ良質な食事の提供、  
栄養管理業務のさらなる効率化と改善に向けた活動  
を展開している。

研修会の開催に特に力を入れており、毎回多くの  
参加を得ている。研修会では食中毒予防対策や栄養  
食事指導の方法、NSTなどをテーマにあげ、実践  
的なスキルアップが期待できる内容としているほか、



栄養士部会全体会議



栄養士部会全体会議

合わせてグループワークを開催するなど会員職員間での情報交換の場としても機能するよう心がけている。

2006年（平成18年）4月には診療報酬改定により入院時食事療養費・特別食加算が1食あたりの算定となり、特別管理加算が廃止される一方、栄養管理実施加算が新設され、病院栄養士にはより一層の専門性や技術が求められることになった。食事療養の捉え方が変化する中、当部会では運営委員会の活動の一つとして診療報酬・介護報酬改定等の相互学習や情報交換を行い、栄養部門を取り巻く状況を的確に把握し、会員に有用な情報提供ができるよう研鑽に努めている。

第46回（2005年5月20日）

「食中毒予防対策～基本にたちもどろう～」

講師／辻 尚信（京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課担当係長）

第47回（2005年11月11日）

「NST（栄養サポートチーム）とその役割」

講師／世古容子（尾鷲総合病院医事課栄養管理係管理栄養士）

第48回（2006年2月20日）

「栄養指導のためのコミュニケーション技法を学ぼう」

講師／蘆田良博（栄養士部会運営委員）

第49回（2006年5月18日）

「食中毒予防対策～あなたの気持ちですべてです～」

講師／今江清朝（京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課担当係長）

第50回（2006年11月2日）

「医師が求める栄養管理」

講師／野崎 明（京都市民医連中央病院消化器内科医師・NSTディレクター）

第51回（2007年2月24日）

「患者をやる気にさせる栄養指導」

講師／坂根直樹（京都医療センター臨床研究センター予防医学研究部室長）

第52回（2007年5月9日）

「食中毒予防対策について」

講師／辻 尚信（京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課食品衛生係長）

第53回（2007年11月22日）

「栄養管理実施加算の実際」

講師／木村美枝子（西陣病院栄養科長）

第54回（2008年2月21日）

「栄養指導における接遇やマナーを学ぼう」

講師／茂木治子（アルフレッサ株式会社コンサルティング部）

第55回（2008年5月15日）

「食中毒予防対策について」

講師／辻 尚信（京都市保健福祉局保健衛生推進室生活衛生課食品衛生第一係長）

第56回（2008年10月16日）

「冬の食中毒予防対策について～ノロウイルス対策を中心に～」

講師／信吉真理子（サラヤ株式会社食品衛生インストラクター）

第57回（2009年2月12日）

「高齢者の栄養管理－摂食・嚥下障害から－」

講師／三田村啓子（京都府言語聴覚士会会長・臨床心理士）

第58回（2009年5月21日）

「食中毒予防対策について」



リハビリテーション  
帳票マニュアル



リハビリテーション部会講演会



リハビリテーション部会施設見学

講師／中木恵造(京都市中京保健所衛生課課長補佐)

第59回 (2009年10月22日)

「自己摂取10割を目指した嚥下食の工夫」

講師／房 晴美 (青山第二病院栄養科長)

第60回 (2010年3月30日)

「明日から役立つ媒体を用いた効果的な集団指導  
～心が動けば、体も動く～」

講師／松岡幸代 (京都医療センター臨床研究セン  
ター予防医学研究部研究員・管理栄養士)

## リハビリテーション部会

当部会は2004年(平成16年)8月に会員施設に勤務する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリ職員が専門職としての資質の向上を図ること及びリハビリ関連の医療保険・介護保険等に関する情報を迅速に収集・分析し、会員へ提供することを目的に準備委員会を立ち上げた。その同年11月にはリハビリテーション部会となり、現在まで活発な活動を展開している。

活動内容としては日頃の業務の充実を図るための講演会と施設見学を毎年企画・開催している。

また、2005年(平成17年)に作成された「リハビリテーション帳票マニュアル」を、2007年(平成19年)には一部改訂、2008年(平成20年)には全面改訂を行い、会員施設の日常業務において当マニュアルを参考にしてもらうように当協会のホームページに掲載する等してその周知を行った。

リハビリテーションは今後、高齢化社会や脳血管障害等の増加により、医療施設だけでなく現在ほとんど配置されていない介護施設や福祉施設においてもその重要性は爆発的に高まってくるものと思わ

れる。会員施設のリハビリテーション部門の技能向上に向けて、リハビリテーション部会の今後の活動への期待は非常に大きいと思われる。

### ◆講演会

第1回 (2005年4月23日)

「高齢者リハビリテーションのあるべき方向」

講師／大川弥生 (国立長寿医療センター研究所  
生活機能賦活研究部長)

第2回 (2006年5月26日)

「リハビリ部門における診療報酬改定・介護報酬改定について」

講師／東山和富 (愛生会山科病院医事課長・医療事務専門委員会議代表委員) 安藤良彦 (賀茂病院医事課長・介護報酬委員会委員長)

第3回 (2006年11月11日)

「リハ9単位取得にどう取り組むか？」

講師／伊藤隆夫 (初台リハビリテーション病院  
理学療法士)

第4回 (2007年11月24日)

「話を聞くことの可能性」

講師／吉川左紀子 (京都大学こころの未来研究  
センター長)

第5回 (2008年10月25日)

「脳卒中に対する神経リハビリテーションの進歩」

講師／宮井一郎 (森之宮病院院長代理)

第6回 (2009年11月21日)

「脳画像からみる脳機能とリハビリテーション」

講師／吉尾雅春 (千里リハビリテーション病院  
副院長)



京都私立病院協会全体会議



京都私立病院協会全体会議（講演会）

#### ◆施設見学

- 2006年7月 京都第二赤十字病院
- 2007年12月 森之宮病院
- 2008年12月 千里リハビリテーション病院
- 2009年12月 京都障害者職業センター

- 開 催／10月19日 宇治市生涯学習センター
- 11月18日 亀甲家（綾部市）
- 11月21日 ぱ・る・るプラザ京都  
（現メルパルク京都）

## 地区会議

会員相互の連帯を深め、執行部と会員との情報交換と親睦を図る場として、毎秋に京都市域・南部地区・北部地区の3地区に分けて開催してきたが、2009年(平成21年)からは会議名称を「京都私立病院協会全体会議」に改め、3地区合同で開催し、会議終了後に続いて講演会・懇親会もおこない、より一層の充実を図った。会議には理事長、院長、事務長などの管理者が出席し、執行部から当協会の取組状況を説明するとともに、直近の医療・介護情報や地区固有の問題を取り上げ、意見交換をおこなっている。

#### 2007（平成19）年度

テーマ／療養病床の再編問題、未収金対策の取り組み、平成20年度診療報酬改定に向けて、協会の取り組み

- 開 催／10月10日 京都府医師会館
- 10月18日 宇治市生涯学習センター
- 12月8日 亀甲家（綾部市）

#### 2008（平成20）年度

テーマ／療養病床の再編問題、脳卒中後遺症患者と認知症患者の問題、平成20年度診療報酬改定の影響について、救急医療問題、協会の取り組み

- 開 催／10月8日 京都府医師会館
- 10月18日 宇治市生涯学習センター
- 11月29日 亀甲家（綾部市）

#### 2005（平成17）年度

テーマ／医療保険・医療制度関係、介護保険関係、地球環境問題について、協会の取り組み

- 開 催／10月20日 文化パルク城陽
- 10月25日 京都リサーチパーク
- 11月26日 亀甲家（綾部市）

#### 2009（平成21）年度

##### 第1部 全体会議

テーマ／平成22年度診療報酬改定について、平成21年度介護報酬改定の影響について、新型インフルエンザ（A/H1N1）について、療養病床の再編問題について、協会の取り組み

##### 第2部 講演会

テーマ／「平成22年度診療報酬改定の動向～中医協の議論を踏まえて～」

講 師／西澤寛俊（社団法人全日本病院協会会長・特別医療法人恵和会理事長）

##### 第3部 懇親会

#### 2006（平成18）年度

テーマ／療養病床の再編問題、医療制度改革等、VREの対応について、年末融資制度（北部地区）、HBS抗体検査の定性と精密定量の使い分けの保健診療上の扱いについて（北部地区）、看護師の採用について（北部地区）、協会の取り組み



創立記念式典



創立記念祝賀会



新春会員懇親会

開催／9月12日 京都・烟河（亀岡市）  
※京都市域・南部地区・北部地区合同

## ■ 創立記念式典

1964年（昭和39年）10月16日に京都府内44病院が参加して京都私立病院協会が設立されたのを記念して、毎年11月に式典を催している。

式典には京都府知事や京都市長をはじめ府市行政、府議会議員、医療関係団体の方々もご臨席いただき、会員病院の参加者とともに協会のあゆみを振り返りながら今後のさらなる発展を祈念する会となっている。式典では、会員病院で日頃活躍されている優良職員・永年勤続の方々の表彰とともに、当協会が養成している保健医療管理士の認定式もおこなっている。創立45周年記念式典では、例年の内容に加え、記念事業のメインである環境キャンペーンの中間報告をおこなった。

式典後のパーティーでは、歌や演奏、京都府病院協同組合の協賛によるお楽しみ抽選会など各種アトラクションも盛り込み、華やかな雰囲気の中で会員職員同士が一層の懇親を深めている。

創立41周年記念式典 2005年11月25日

リーガロイヤルホテル京都

優良職員・永年勤続職員表彰 146名

創立42周年記念式典 2006年11月17日

京都ホテルオークラ

優良職員・永年勤続職員表彰 146名

創立43周年記念式典 2007年11月16日

京都全日空ホテル

優良職員・永年勤続職員表彰 137名

創立44周年記念式典 2008年11月21日

京都ホテルオークラ

優良職員・永年勤続職員表彰 163名

創立45周年記念式典 2009年11月20日

京都ホテルオークラ

優良職員・永年勤続職員表彰 179名

## ■ 新春会員懇親会

1984年（昭和59年）に「名刺交換会」として始まった年頭行事も今では「新春会員講演会・懇親会」として定着し、会員病院と関係団体、または医療と特に関係の深い行政担当者や新年の挨拶を交わすことで、さらに親睦を深めているところである。また、懇親会の前には幅広いテーマで専門家や著名人を招いて講演会も開催しており、趣向を凝らした講演会にも毎年多数の参加を得ている。

第23回 2006年1月21日 京都プライトンホテル

「小話&落語」桂都丸

第24回 2007年1月20日 京都全日空ホテル

「箏・尺八演奏」福原左和子、藤田天山

第25回 2008年1月19日 京都プライトンホテル

「狂言披露」茂山千五郎、佐々木千吉、鈴木実

第26回 2009年1月17日 京都プライトンホテル

「新春金融経済展望」新免慶憲（日本銀行京都支店支店長）

第27回 2010年1月16日 京都プライトンホテル

「平成22年度診療報酬改定について」安達秀樹（中央社会保険医療協議会委員）



ハワイ医療・介護事情視察旅行



ハワイ医療・介護事情視察旅行

## ■ 創立45周年記念事業

1964(昭和39)年11月16日に発足した当協会は2009年(平成21年)秋に創立45周年を迎えた。そこで各種記念事業の企画を行うための検討委員会を2008年(平成20年)10月に設置し、事業の実施に向けて具体的検討をおこなってきた。

そして、2009年度に会員ならびに関係各方面からの協力を得ながら創立45周年を祝う以下の記念事業を実施した。

### (1) 環境キャンペーン

実施目的／京都議定書の締結された京都から、常に人々の健康を願うわれわれ医療人が率先して環境保全への取り組みを行う。

実施目標／1) 会員施設における省エネ、省資源、リサイクルなどに取り組む。  
2) 会員施設の職員一人ひとりが温室効果ガス削減に取り組む。

環境宣言／第35回通常総会で宣言(2009年5月27日)  
「京都私立病院協会は、人々の健康を守る立場として、地球環境問題の重要性を認識し、環境の保全に向けて積極的に貢献することを第35回通常総会において宣言します。」

- 1 私たちは、資源エネルギーの節約に努めます。
- 2 私たちは、廃棄物の減量と再資源化に努めます。

- 3 私たちは、地球環境問題に関し、地域社会との連携を推進し、社会への啓発に努めます。

環境宣言施設／88施設(2010年3月31日時点)

京都エコポイントモデル事業への参加世帯／1,159世帯(2010年3月31日時点)

活動内容／

- ・環境キャンペーンの案内(環境宣言施設の募集・京都エコポイントモデル事業への参加世帯募集2009年5月18日)
- ・環境への取り組みをサポートし、会員からの問い合わせ等に対応
- ・環境宣言施設での温室効果ガス使用量に関する報告の取りまとめと削減量の検証
- ・キャンペーンポスター(地球環境の保全をやさしく訴えるデザイン)の募集(2009年3月1日～4月10日)
- ・キャンペーンポスター・プレート・シールの製作・配布
- ・京都エコポイントモデル事業説明会の開催(2009年6月11日)
- ・京都私立病院報に環境宣言施設・環境宣言実施施設の体験報告・講演会・調査結果等を掲載
- ・環境キャンペーン座談会の開催(2009年10月30日京都府知事室)  
真鍋克次郎会長、山田啓二知事、池坊由紀華道家元池坊次期家元  
司会／松井道宣副会長  
2009年11月20日 京都新聞に掲載。
- ・環境キャンペーン講演会の開催(2009年11月6日京都府医師会館大ホール)  
テーマ／「病院が広める環境意識」



病院対抗ボウリング大会（京都市域）



病院対抗ボウリング大会（北部地区）

講師／竹内佐和子(京都大学工学研究科 教授)

参加者／269名

・環境キャンペーンにおける取り組み状況についての調査（2009年10月8日）

回答数／66施設（回収率40%）

・創立45周年記念式典において中間報告（2009年11月20日）

・京都私立病院報環境キャンペーン特集の作成

(2) ハワイ医療・介護事情視察旅行

日程／2009年10月9日～14日 4泊6日 ハワイ・ホノルル

視察先／①クィーンズ・メディカルセンター、②カハラヌイ、③聖ルカクリニック、④クアキニメディカルセンター

参加者／60名

(3) 創立45周年記念式典

日時／2009年11月20日 京都ホテルオークラ

参加者／350名

優良職員・永年勤続職員表彰／179名

第18期保健医療管理者養成講座 保健医療管理士認定／17名

(4) 創立45周年記念病院対抗ボウリング大会

創立45周年記念の会員向け事業のひとつとして創立40周年でも好評であった病院対抗ボウリング大会を開催した。今回は京都市域に加えて北部地区でも大会を実施した。

[京都市域・南部]

日時／2009年10月25日 しょうざんボウル（京都市）

参加／58チーム（34施設）232名

結果／団体の部 優勝 岩倉病院Bチーム  
準優勝 京都南病院Aチーム

第三位 西京都病院

個人の部 優勝 河本光子

（京都南西病院）

準優勝 柳生裕幸

（京都南病院Aチーム）

第三位 大谷行雄

（岩倉病院Bチーム）

[北部地区]

日時／2009年11月15日 サンケイボウル（福知山市）

参加／11チーム（6施設）44名

結果／団体の部 優勝 綾部ルネス病院

準優勝 宮津武田病院Bチーム

第三位 丹後中央病院Aチーム

個人の部 優勝 姫野絵梨

（綾部ルネス病院）

準優勝 梶江満寿美

（宮津武田病院Bチーム）

第三位 大木康嘉

（丹後中央病院Bチーム）

(5) 創立45周年記念誌の発刊（本誌）



## 3 広報と情報活動

京都私立病院協会報は創立以来毎月発行されている、協会の基幹広報誌である。

情報の伝達はIT化の進歩により、紙媒体に代わって、ホームページやEメール等デジタル化が進み、より正確・敏速になった。その一方情報のIT化は重要な情報が簡単に流入する危険性をはらんでいる。このような時代背景の下、個人情報保護の重要性が増し、2005年4月には個人情報保護法が全面施行された。私たち医療機関も個人情報取り扱い事業者として、個人情報の利用目的、開示義務等慎重な取り扱いが求められる。

(副会長 中野種樹)

### ■ 京都私立病院報

『京都私立病院報』（私病報）は1964年（昭和39年）11月15日に第1号が創刊されて以来、当協会の基幹広報誌として役割を果たしている。定期号は毎月1回、1日付で発行しているほか、新年特別号、総会号などを臨時に増刊しており、2010年（平成22年）3月31日現在で発行回数は568号を数える。

内容は当協会の活動を中心に、医療・介護に関するニュース、私的病院をとりまく重要事項、各種講演会・委員会の報告、会員職員からの投稿記事・絵画作品・写真、会員の消息などを掲載しており、会員間のコミュニケーションを図る場にもなっている。

編集には、担当副会長、担当理事のほか、事務長会・看護部長会からの委員で構成される「私病報編集委員会」があたり、編集会議を毎月開催している。

現在の発行部数は2,350部であり、会員施設には病床規模に応じた冊数を送付している（購読料は会費に含まれている）ほか、行政・関係諸団体・購読希望者に販売している。2009年6月号（558号）より、従来モノクロであった表紙をカラーに、B5版をA4版に変更した。

毎月1日発行 2,350部

A4版 約40～70頁 第三種郵便物認可

(1983年9月5日)

### ■ 私病協ホームページ

当協会の活動や会員の情報を広く紹介するとともに、行政からの医療・介護に関する通知など会員に有益な情報をタイムリーに提供するため、1999年（平成11年）12月にホームページを開設して運営をおこなっている。

2007年（平成19年）11月に全面リニューアルを行い、ホームページをより見やすく内容の充実に努めるとともに、2009年（平成21年）1月にはホームページの一部にCMS（Contents Management System）を導入し、会員への情報提供の迅速化を図った。

協会の事業活動や医療界の最新情報、行政からの医療・介護関連通知、診療報酬・介護報酬改定情報、催しの案内、会員施設の紹介、無料職業紹介事業など多岐にわたる内容を掲載している。今後は、会員同士あるいは会員と協会とのコミュニケーションツールとしても十分に活用できるよう更なる内容の充実が求められる。

京都私立病院協会ホームページ

<http://www.khosp.or.jp>

京都私立病院協会メールアドレス

[info@khosp.or.jp](mailto:info@khosp.or.jp)



京都私立病院報

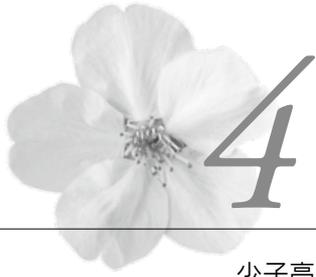


京都私立病院協会ホームページ

## ファックス通信

全会員施設あるいは特定のグループ宛の緊急性を要する連絡などは必要に応じてファクシミリを利用して、情報を発信している。また、会員病院からの連絡等でも日常的に活用されている。(専用2回線使用)

2008年度からは無料職業紹介事業において、新規の求職登録があれば直ちにファクシミリで会員に情報提供をおこなうことに改めてから、紹介件数の増加に繋がっている。また、2009年度に発生した新型インフルエンザ関係の情報や連絡を迅速に伝えるための手段としても活用した。



## 4 病院職員の確保対策

少子高齢化の進展、医療ニーズの多様化などに伴い、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、安心・安全な医療サービスの提供を実現するためには、医師、看護師等の医療従事者の確保対策が急務となっている。こうした状況の中、関係団体の京都保健衛生専門学校と京都中央看護保健専門学校では教育内容を充実させ、質の高い医療従事者の養成に努めている。京都保健衛生専門学校では、准看護師の減少に伴い、2006年度に二年課程全日制、2008年度に二年課程定時制を閉科し、臨床検査学科においても定員の確保が難しい状況ではあるが、診療情報管理士やME2種、健康食品管理士等の資格も取得できるよう取り組んでいる。京都中央看護保健専門学校は、2007年度に四年制の統合カリキュラムによる教育、保健師の養成を開始し、現在の校名に名称を改めた。両校ともに今後も会員施設の人材確保に寄与するべく更なる充実を図っていききたい。

医療従事者無料職業紹介所は主に会員病院における人材確保を目的として、様々な職種の求職登録を受け付け、紹介しているが、近年は紹介件数が伸び悩んでいることから、徐々にではあるが紹介事業のあり方を見直す取り組みをしている。高齢化の進展に伴い、介護労働者の確保も課題となっていることから、2009年度からは行政や関係団体とも協働して人材確保に取り組んでおり（きょうと介護・福祉ジョブネット）、そのイベント等において当協会が求職登録を受け付け、会員施設への就職に繋げている。今後は人材派遣会社等の民間会社のノウハウも吸収し、会員にとって拠り所となる紹介所になるよう努めていく所存である。

（副会長 吉川順介）

### 医療従事者の養成

#### 1) 看護師の養成

1969年（昭和44年）に堀川高等看護学院（現“京都保健衛生専門学校二年課程”の前身）の運営を開始し、1983年に京都中央看護専門学校を開校した。この間、両学校を卒業した数多くの看護師は、現在、会員施設の第一線で活躍しており、会員施設の看護の充実、技術の向上に寄与している。

京都保健衛生専門学校では少子化と高学歴化の進行に伴い准看護師の養成が極端に減少し、準看を正看にする二年課程の受験生が減少、二年課程全日制については2006年度に、また二年課程定時制については2008年度の卒業生を最後に閉科となった。

京都中央看護専門学校では、看護師養成においてより専門性の高い教育が求められる中、2007年度生から京都中央看護保健専門学校と校名を改め、四年制の統合カリキュラムによる教育が開始され、保健師の養成も開始した。

2009年（平成21年）では、京都保健衛生専門学校は三年課程1クラス40名定員、京都中央看護保健専門学校は四年課程2クラス80名の計120名の看護師を養成している。今後、大学の看護学科が増えていく中で、看護専門学校として魅力ある存在価値を発揮できる学校となるよう、これからも時代のニーズに合わせた学校運営が求められている。

## 2) 臨床検査技師・臨床工学技士の養成

1973年（昭和48年）4月、京都保健衛生学院として出発した臨床検査技師の養成は、夜間課程の第1期生31名の入学でスタートし、1985年（昭和60年）4月には、看護学科、検査学科を統合した京都保健衛生学院、1986年（昭和61年）7月には専修学校の認可を受けて京都保健衛生専門学校となり、9月には昼間部を新設して昼夜の養成を行なってきた。近年は昼間・夜間を併せて80名の定員を確保することが難しい状況となっており、付加価値を付けることによって受験生の確保と就職活動を有利にするために、臨床工学技士・診療情報管理士・ME2種などの資格が取得できるよう取り組んでいる。

臨床工学技士専攻科は定員20名と少数であるが、1997年（平成9年）の設置以来国家試験合格率100%を維持している。

### 学校の在り方検討委員会

京都保健衛生専門学校と京都中央看護専門学校（現：京都中央看護保健専門学校）の将来的な方向性や展望について、当協会会員の考え方や要望との整合性を図りつつ検討をおこなう場として2003年（平成15年）に設置された。

看護師養成をとりまく問題は、少子化の進展、高学歴化の広がり、職業意識の多様化など社会の動向に大きく左右されるが、会員病院にとって看護職員は充足しているとは言い難く、両学校にはいかに質の高い学生を入学させ、看護師として送り出せるかが求められている。

京都保健衛生専門学校では喫緊の課題である定時制二年課程の閉科（全日制二年課程は既に閉科）について、それぞれの立場で意見交換を行い、会員病院への十分な説明と私病協理事会への理解を得る方向でまとまった。

京都中央看護専門学校については、四年制の統合カリキュラムの実現に向け、検討を行い、2007年（平成19年）4月からの開設に向けての準備を進める方針を確認し、当委員会は2005年度をもって終了した。

### 医療従事者無料職業紹介事業

会員施設を中心に京都府内の医療機関の人材確保に寄与することを目的に、1988年（昭和63年）1月より、厚生労働大臣の認可を受けて京都私立病院協会医療従事者無料職業紹介所を設置している。

職種別の需給状況は、医師、薬剤師、看護師、リハビリ専門職の求職登録が極めて少なく、逆に求職



福祉職場就職フェア（説明会）



福祉職場就職フェア（セミナー）



福祉職場就職フェア  
（就業相談・求職登録コーナー）

者が比較的多い放射線技師、管理栄養士などの職種は求人が少ない状況であり、求職者と求人者とのマッチングが難しい。

このような状況の中、2008年度には経済不況による雇用不安で京都府が介護・福祉現場への就労希望者に就職斡旋を行う「福祉の仕事」緊急就職相談会を開催し、当紹介所も参加して就職相談に応じるとともに、登録を受け付けた求職者を会員施設等への就職に結び付けている。また、2009年度からは介護・福祉の仕事の社会的評価の向上や人材の確保・定着のために関係者が連携・協働して取り組む「きょうと介護・福祉ジョブネット」に参画し、ジョブネットが参加する就職フェア等でも会員の人材確保に資するべく、求職者の登録増に努めている。更には紹介責任者を2名体制に変更するなどした結果、若干ではあるが、紹介件数が向上しつつある。

求職者の情報は毎月発行している京都私立病院報に掲載するとともに、当協会ホームページにも紹介事業の専用ページを設けており、そこで求職者や求人者の一部情報を閲覧できるようにしている。これに加え、2008年度より新規の求職登録の都度、会員にFAXで情報提供している。また、これまで登録希望者は事務局に来訪しての求職登録が必要であったが、2009年度よりWeb上での登録を可能にした。

#### ◆過去5年間の紹介状況

2005（平成17）年度

紹介件数4件 就職者数3件

2006（平成18）年度

紹介件数7件 就職者数3件

2007（平成19）年度

紹介件数6件 就職者数2件

2008（平成20）年度

紹介件数10件 就職者数4件

2009（平成21）年度

紹介件数13件 就職者数10件

#### ◆無料職業紹介事業運営委員会

担当理事および事務長会、看護部長会からの委員、事務局紹介責任者で運営委員会を組織し、紹介事業を担当している。また、運営委員以外に当協会の職能別組織から運営協力委員を定め、情報提供を受けている。

委員会では、紹介状況報告、職種別需給状況の分析、求人・求職開拓に関する活動方針などを検討している。

#### ◆医療・介護職の人材確保のための連携

2009年1月17日・21日（京都テルサ）・

31日（京都府立中丹勤労者福祉会館）

京都府主催「福祉の仕事」緊急就職相談会

就職相談・求職登録コーナーを設置

2010年2月12日 みよこめっせ

京都労働局等主催「福祉職場就職フェア」

就職相談・求職登録コーナーを設置

看護職・介護職対象セミナーでパネリストを派遣、病院での仕事内容や魅力を発信



## 5 他団体との交流・連携

医療費抑制政策のもと、民間病院の経営は年々苦しさを増してきている。京都私立病院協会は民間病院の抱える問題点を改善するために、中央の病院団体（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会、日本慢性期医療協会など）への役員派遣、近畿病院団体連合会での委員会参加などにより、情報の収集・問題点の共有・情報発信を積極的に取り組んできた。また、京都府医師会や京都府、京都市をはじめとする行政とも連携をはかり、地域医療や公衆衛生の質の向上にも取り組んでいる。

近年は地域医療崩壊が現実のものとなりつつあり、医療団体だけの問題ではなく地域住民・行政にとっても大問題になりつつある。とりわけ地域の救急対策や感染対策は民間病院が担う役割は大きく、民間病院の役割の重要性や事業継続の必要性を再認識してもらうためにも関係各団体との情報交換、連携を密にはかつていく必要性が高まってきている。

(副会長 武田隆久)

### 近畿病院団体連合会

近畿病院団体連合会は近畿2府4県の病院団体が集まって組織しており、1977年（昭和52年）10月22日に第1回目が開催されて以降、今日まで至っている。医療を取り巻く諸情勢が厳しさを増すなかで、近畿の病院団体が大同団結し、行動を起こす重要性はますます高くなっている。医療・介護の制度改革や消費税問題などの大きな課題については認識の共有化を図り、国に要望するなど、共に運動を展開していく活動をしている。また、各々の団体が先進的に取り組んでいる問題について提供される情報は、他の団体の活動に有用となっている。

組織は中核となる委員会とそれをサポートする事務長会から成り、委員会は1年、事務長会は2年を1期とし、各府県が持ち回りで運営している。

#### ◆委員会の主な活動

2005（平成17）年度 当番／京都私立病院協会

第1回 7月8日 ホテルグランヴィア京都

主な議題：①医療に関する消費税取扱の変更に対

する推進運動の展開 ②医師確保について③第5次医療法改正について（病床規制の撤廃論議）  
講演「医療保険の将来像」麦谷真里（厚生労働省保険局医療課長）

第2回 3月30日 ホテルグランヴィア京都

主な議題：①消費税問題への対応 ②診療報酬改定について ③介護報酬の改定について ④介護療養型医療施設の廃止、療養病床の再編成について

2006（平成18）年度 当番／大阪府病院協会

第1回 7月18日 ウェスティンホテル大阪

主な議題：①診療報酬改定に関する影響度について ②療養病床再編による影響度について ③手術の施設基準について ④リハビリ算定日数の上限問題

講演「医療制度改革について」清水鴻一郎（衆議院議員・京都私立病院協会理事）

第2回 2月22日 KKRホテル大阪

主な議題：①平成18年度療養病床再編による影響



近畿病院団体連合会委員会

度について ②次期診療報酬改定への要望につ  
いて ③看護体制見直しにかかる要望

講演「医療制度改革の展望」福島 豊（衆議院議  
員）

2007（平成19）年度 当番／兵庫県病院協会

第1回 8月3日 クラウンプラザ神戸

主な議題：①病院勤務医の立ち去り防止に向けて  
一勤務医の労働環境の実態調査と医療事故発生  
時の取調べに関する要望— ②看護師不足問題  
について ③療養病床転換に関する緊急アンケ  
ート結果について ④崩壊する救急医療につい  
て

講演「防ごう病院医療の崩壊—今、中医協等で議  
論されていること—」邊見公雄（中医協委員・  
赤穂市民病院長）

第2回 2月29日 クラウンプラザ神戸

主な議題：①診療関連死・死因究明制度（医師法  
21条関係等）に対する意見 ②今、早期研修医  
の望む臨床研修体制について ③療養病床につ  
いて ④救急医療について

講演「持続可能な病院経営を目指して」長 隆（公  
認会計士・総務省公立病院改革懇談会座長）

2008（平成20）年度 当番／和歌山県病院協会

第1回 7月18日 ダイワロイネットホテル和歌山

主な議題：①社会保険診療報酬等に対する消費税  
の非課税制度を正常課税にもどすこと ②平成  
20年度診療報酬改定への対応について ③医師  
確保対策（特に産科・小児科医）について ④  
救急医療の問題について ⑤療養病床への対応  
について ⑥災害時透析患者支援について ⑦  
「医療安全全国共同行動キックオフ・フォーラ  
ムin関西」について

講演「平成20年度診療報酬改定と今後の病院経営」

西澤寛俊（全日本病院協会会長・中医協委員）

第2回 2月19日 ホテルアバローム紀の国

主な議題：①臨床研修医制度の見直しについて  
②各府県における救急関係の補助金の状況につ  
いて ③近畿厚生局と医療監視 ④入院時医学  
管理料について ⑤医師確保対策について ⑥  
新地域医療計画について

講演「これからの医療制度の在り方」間 隆一郎  
（厚生労働省医政局総務課企画官）

2009（平成21）年度 当番／奈良県病院協会

第1回 7月30日 奈良ロイヤルホテル

主な議題：①平成22年度診療報酬改定への要望に  
ついて ②新型インフルエンザの対応について  
③平成21年度介護報酬改定の影響と介護職員の  
処遇改善の問題について ④勤務医確保の現状  
と対策について

講演「激動下の病院経営—今、必要なのは経営戦  
略とチーム力—」正木義博（済生会熊本病院副  
院長）

第2回 2月24日 ホテル日航奈良

主な議題：平成22年度診療報酬改定に係る要望書  
との整合の検証

#### ◆事務長会の主な活動

2005（平成17）年度

当番／滋賀県病院協会・滋賀県私立病院協会

第1回 9月16日 大津プリンスホテル

主な議題：①病院の未収金対策について ②病院  
の食費自己負担の導入反対

2006（平成18）年度

当番／滋賀県病院協会・滋賀県私立病院協会



近畿病院団体連合会事務長会

第1回 10月6日 大津プリンスホテル  
 主な議題：①事務長会の平成18年度事業活動状況について

第2回 3月15日 近江八幡市立総合医療センター  
 主な議題：①看護師確保対策について ②職種別賃金の実態と病院経営について一人材確保と賃金一

2007（平成19）年度 当番／奈良県病院協会

第1回 9月14日 猿沢荘  
 主な議題：①「平成19年度賃金・労働条件実態調査」結果報告  
 ②未収金対策における取組みなど

特別講演：「21世紀における経営者のあり方について考える」

講師／山本太治（株式会社三輪そうめん山本 代表取締役社長）

第2回 3月7日 春日野荘  
 主な議題：①NHK受信料の支払いについて  
 ②公益法人制度改革についてなど

特別講演：「4月診療報酬改定と医療費の総枠拡大を考える」

講師／谷田一久（広島国際大学医療福祉学部医療経営学科准教授）

2008（平成20）年度 当番／奈良県病院協会

第1回 10月17日 春日野荘  
 主な議題：①今後のDPC対象病院における運営  
 ②公立病院改革と民間病院など

特別講演：「変革期における病院経営について考える～東大病院の経営を参考に～」

講師／今村知明（奈良県立医科大学健康政策医学講座教授）

第2回 3月6日 春日野荘

主な議題：①「平成21年度介護報酬改定に係る影響度調査」結果について

②「介護職員給与処遇調査」についてなど

特別講演：「崩壊しつつある地域医療・病院医療について考える」

講師／小山秀夫（静岡県立大学経営情報学部学部長・教授）

2009（平成21）年度 当番／京都私立病院協会

第1回 7月3日 ハイアットリージェンシー京都  
 主な議題：①「病院医療の崩壊を食い止めるため  
 次回の診療報酬改定で要望すべきこと！」

特別講演：「これからの医療政策・医療制度を占う」

講師／川渕孝一（東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授）

第2回 3月5日 ホテルグランヴィア京都  
 主な議題：①平成22年度診療報酬改定の置き換え調査について

②平成22年度診療報酬改定に関する要望事項の決議文の結果検証について

特別講演：「平成22年度診療報酬改定について」

講師／安達秀樹（中央社会保険医療協議会委員）

## 中央における病院団体

2000年（平成12年）7月に四病院団体協議会が発足し、日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会による全国組織の病院団体の連合体として、全国の病院の意見集約をし、国の医療政策等に対して積極的に意見・提言をおこなっており、対外的にもその存在が認知されている。当協会からは役員を派遣し、情報収集や意見具申をしている。

また、2005年（平成17年）4月には、上記病院団体を含む11団体による日本病院団体協議会が発足し、国への要望活動や調査・研究活動を中心に活発な活動を展開している。

日本病院会

役員派遣／常任理事：武田隆久

代議員：清水 紘・真鍋克次郎

全日本病院協会

役員派遣／理事：清水 紘

京都府支部長：出射靖生

日本医療法人協会

役員派遣／常務理事：武田隆久・小森直之

## 京都における医療・介護関連団体

京都府医師会とは、医療介護に関わる様々な課題や諸問題について、日常より情報交換、意見交換を密にし、相互の立場を理解し合いながら協力・連携して活動をおこなっている。两会役員懇談会、京都府医療推進協議会、病院長会議、保険医療協議会等への参加や医師会の各委員会への委員派遣を通じて、共通の認識に立って問題解決を図るよう心がけている。

京都府病院協会とは、京都病院学会を年1回共同して開催しているが、年々演題数や参加者も増加しており、京都府内の病院の医療人が日頃の医療介護の実践や研究の成果を発表する場として定着している。また、病院における禁煙推進活動に協働して取り組むとともに近畿病院団体連合会を組織する団体として共に参加し、病院を取り巻く共通の課題に取り組んでいる。

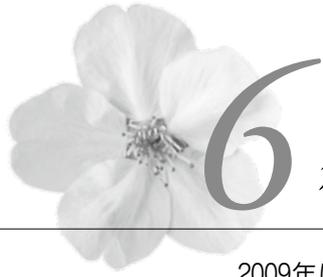
京都療養病床協会とは、1998年（平成10年）11月に

京都介護療養型医療施設連絡協議会として設立された当初から2006年（平成18年）3月11日に現在の協会名称へ変更後も京都私立病院協会内に事務局を置き、互いに情報を共有しながら活動をおこなっている。療養病床の再編問題など療養病床に係わる諸問題については共同声明として国に要望書等を提出しているほか、京都府の介護サービス第三者評価については、医療側として望まれる第三者評価のあり方を協力して提言するとともに、第三者評価調査者の養成にも力を入れている。医療と介護の連携についても共通した課題として取り組んでいる。

そのほか、京都府看護協会をはじめとする医療職能団体や介護・福祉関連団体とも友好関係を結び、京都の医療・介護の充実に貢献できるよう心がけてきた。

## 関係団体

当協会には、京都保健衛生専門学校、京都中央看護保健専門学校の2つの学校と京都府病院協同組合、京都府病院厚生年金基金の合わせて4つの関係団体がある。それぞれの団体は、協会活動のなかから必然的に生まれた組織であり、当協会も含め5つの団体が連携を取りながら業務を進めていくことを念頭に置いた組織運営に努めている。



## 行政や政党への対応

2009年に民主党政権が誕生したことにより、今までの自民党一辺倒の関係ではなく、これからは政権与党である民主党との連携が必要となってくる。既に、一部の民主党議員との顔合わせは行っているが、今までの自民党議員と同様に意見交換、勉強会等が必要となっている。行政への対応については、2009年の新型インフルエンザの発生により緻密な連携を取り、発生を最小限に抑えることができ、インフルエンザワクチンの接種も比較的スムーズに行うことができた。また、行政側からも十分なインフルエンザ対策事業が行われた。救急告示病院に対する補助金のカット、看護学校運営に対する大幅な補助金カットが行われたが、行政との話し合いの結果ある程度激変を緩和することができた。また、療養病床の削減問題については、京都府から僅かではあるが、補助金を得ることができた。さらに、介護職員処遇改善問題については、国から交付金が出されることとなったが、これは一部の介護職者のみで、チーム医療・介護を行う現場では、大きな不公平感が生じる結果となった。そのため、協会としては京都府に対し介護に携わる者全員が平等に恩恵を受けられる支援方法をお願いした。

民主党のマニフェストがどの程度実行されるかは現時点では不明であるが、議員との関係、行政との連携は今後さらに密にしていくことが望まれる。

(副会長 出射靖生)

### 行政への対応

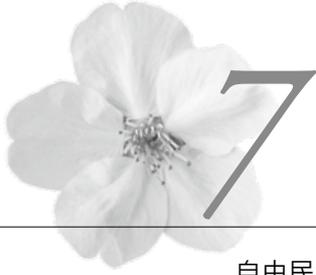
長期にわたる医療費抑制政策や度重なる診療報酬のマイナス改定、地域における医師の偏在の問題と病院に勤務する医師の不足、7対1入院基本料の導入により引き起こした看護師不足などの影響を受け、地域医療は崩壊の一途をたどっている。また、突然に打ち出された療養病床削減計画では、2011年度末をもって介護療養型医療施設の廃止と医療療養病床の削減が行われるなど、医療界は激しい荒波にさらされた。そのような中、京都府民への医療・介護に対する安心と安全を確保するために、当協会は地域の医療を守る民間病院に必要な財政措置等を毎年度の予算要望活動等で求めるとともに、あらゆる病院を取り巻く諸問題に立ち向かい、厚生労働省、京都府、京都市その他行政全般に対して積極的に要望活動、提言などを行った。

### 政党への対応

2008年度より京都府への毎年度の予算要望の際に、京都府私立病院振興議員連盟の役員の同席のもと、要望活動を行っている。同連盟には民間病院が抱える諸問題に対して、理解を求め、またさまざまな協力をお願いしている。国政においては2009年（平成21年）8月に長年続いた自民党から新しく民主党へ政権交代が起こるなど、今後の方向性が定まらない中、当協会としては政党にこだわることなく、京都府民の医療を守ることに主眼をおき活動してきた。



京都府知事に要望書を提出



## 病院をめぐる医療制度の検討

自由民主党政権（小泉純一郎内閣）のもとで2006年6月に成立した医療制度改革関連法案により、平均在院日数の短縮など医療費の適正化、療養病床の再編、後期高齢者医療制度の創設をはじめとした改革が実行された。総額の診療報酬改定率は小泉政権下の医療制度改革と平行してマイナス改定が続けられ、財政主導による医療費抑制政策により、医療の質の低下、地域医療の荒廃をもたらした。これに医師・看護師不足の問題も加わり、少子化対策が叫ばれる中、病院でも産科や小児科の医療体制が崩れ始めており、救急医療も救急告示の取り下げや、たらい回し等の問題がおこっている。高齢者医療に関しては在宅のインフラ整備が不十分なまま療養病床の再編が進められており、医療難民・介護難民が出はじめている。高齢者介護を支える介護職員の不足も深刻化している。

このような医療崩壊が進みつつある中、2009年に衆議院総選挙がおこなわれ、与野党ともに診療報酬のプラス改定を約束、民主党政権が誕生し、2010年4月の診療報酬改定は10年ぶりにマイナス改定から脱することになった。医療界は医療再生のために過去の引下げ分以上の改定率（10%以上）を期待したが、期待に反して0.19%の引き上げに止まった。医療崩壊を防ぐための手当てとしては極めて低い改定率であり、病院経営は今後もなお厳しい状況が続くことになろう。

有効となる医療政策は未だ模索中であり、早く手を打たなければ一度崩壊した医療制度を回復するには多大な費用と長い時間が必要となる。当協会では、病院経営の危機的状況からの真の脱却と国民に必要な医療・介護サービスを保障し、安心と安全を確保するために行政をはじめ関係各方面に対して積極的に意見・提言活動を行っている。

（副会長 出射靖生）

## 病院医療制度検討委員会

近年の財政主導による医療制度改革や社会経済情勢の変化により、病院運営は更に厳しい状況下に置かれており、その変化を素早く察知し、自院の状況に適切に対応させていくことが求められる。

この委員会では、協会執行部より検討を委託された問題や、時事問題について、民間病院の立場から分析し、検討をおこなった結果は理事会などで報告・提案したほか、必要な情報については広報誌（京都私立病院報）でニュース記事として会員に提供している。

### ◆過去5年間の主な取り組みと検討テーマ

#### 2005（平成17）年度

1. 介護保険制度改正
2. 医療保険適時調査立ち会い中止問題
3. 医療計画制度の見直し
4. 慢性期入院医療の包括評価
5. 中医協の病院代表委員
6. 医療費の総枠規制論議
7. 厚労省医療制度構造改革試案
8. 医療制度改革大綱案
9. 診療報酬改定・介護報酬改定
10. 地域医療支援病院

#### 2006（平成18）年度

1. 診療報酬改定
2. 福島県立大野病院問題
3. 新人看護職員の臨床実践能力の向上（看護部長会）
4. 看護師の募集活動
5. 厚労省予算概算要求
6. 施設基準の届出状況
7. 診療報酬改定と病院栄養部の現状（栄養士部会）
8. 医療制度改革と京都府保健医療計画の見直し
9. 患者の安全管理と病院への経済的貢献（薬剤師部会）
10. 医療法に係る京都府医療機能調査案

#### 2007（平成19）年度

1. 医師・看護師・准看護師不足問題
2. 2008年度診療報酬改定
3. 療養病床再編問題
4. 後期高齢者医療制度
5. 有料老人ホームと高齢者専用賃貸住宅
6. 犯罪性が絡む場合の保険給付の問題（事務長会）
7. 過去3年間における医師・看護師・准看護師数に関する緊急アンケートの実施

#### 2008（平成20）年度

1. 医師・看護師不足問題
2. 臨床研修医制度の見直し
3. 2008年度診療報酬改定
4. 障害者病棟における脳卒中の後遺症患者と認知症患者の問題
5. 後期高齢者医療制度
6. 療養病床再編問題
7. 救急医療問題
8. 2009年度介護報酬改定
9. 社会保障費2,200億円の抑制問題
10. 消費税問題
11. 未収金問題

#### 2009（平成21）年度

1. レセプトオンライン請求義務化
2. 臨床研修医制度の見直し
3. 2010年度診療報酬改定
4. 適時調査の近畿厚生局への移管
5. 2009年度介護報酬改定に伴う収支への影響
6. 第5次京都府高齢者健康福祉計画
7. 介護職員の処遇改善
8. 新型インフルエンザへの対応
9. 療養病床再編問題
10. 民主党政権の医療・介護政策



# 8 医療保険制度への対応

小泉構造改革以来続いてきた医療費抑制政策が医療の崩壊を招き、その結果、2009年8月の政権交代へと政治の流れが変わってきた。ただし、今現在の時点では、いまだ前政権の政策から脱しきれない状態であり、今後の医療政策が楽観を許さない状況である事には変わらない。特に、中央官僚の思考は何も改善されているわけではないので、個々の施策において、旧来型のもので出てくる可能性がある。しかし、医療政策の失敗による結果が、決して小さなものではない事が多くの政治家に認識されたものと思われる。

我が国の皆保険制度は日本国民が有する最も大きな財産であり、これを維持発展させる事が、我々私立病院協会にとって最も大切な仕事である。政権交代が現実となった今日では、広く各政党に正しい医療制度のあり方について提言し又協議しながら理解を深める事により、安定的で着実な医療制度の真の改革を進めていかねばならないのではないかと考える。真に、国民のためになる医療制度の構築に向けて、医師会や関係諸機関との調整、協議を進め、会員病院が安心して医療に専心できるように努力していく。

(副会長 富士原正人)

## 医療保険をとりまく情勢

当協会は従来から、医療保険における施設基準関係の適時調査にはこれまで事務局員が立ち会いを行ってきたが、2005年(平成17年)4月以降は認められなくなった。また、2008年(平成20年)10月には社会保険庁が解体され、社会保険事務局による指導・監査の権限が地方厚生局へ移管されたことに伴い、今後は全国で統一したルールに基づいて適時調査を実施することを理由に2009年(平成21年)4月以降は医師会の立ち会いも認められなくなった。

これにより、会員施設が施設基準の届出後の運営上で病院機能の強化および患者サービスなどに支障を来さぬよう、調査のあった施設から積極的に情報を集約し、会員に新しい情報を発信するようになっている。

近年、施設基準はその種類や算定要件が改定の度、複雑多様化し、かつ改定後にもその解釈が変更されることが多くなっている。加えて、届け出た施設基準に対する適時調査も施設基準に定められている要

件に沿って細部にわたりチェックがおこなわれている。

このような状況の中で、当協会は2005年度以降も、社会保険制度への対応を重要な事業のひとつとして位置づけ、会員施設の施設基準の運営が円滑にできるよう努めてきた。具体的には、会員からの相談の随時受け付け、届出前のチェックとアドバイス、社会保険事務局(現在は近畿厚生局京都事務所)や京都府等の関係部局との調整、調査後の改善報告書作成の協力などを行っている。

2006年度と2008年度の診療報酬改定は、マイナス改定が続いており、病院経営は益々厳しい状況となっている。ただ、医療機関においては、各々の病院機能に合った施設基準の届出状況が今後の病院経営における大きなターニングポイントになってくる。より多くの施設基準を算定できることが病院経営を維持する上で重要なポイントとなるので、当協会としても全ての会員に、医療保険全般にわたる効果的

なアドバイスと価値のある情報提供を行えるよう早急な業務体制の充実を図りたいと考えている。

#### 《医療保険に関する主な事業》

- ・事務長会保険部会および医療事務専門委員会議
- ・診療報酬委員会
- ・各種施設基準に係る相談
- ・各種施設基準に関する情報提供
- ・実施状況報告書（月報）の点検
- ・生活保護法指定医療機関に対する個別指導への立ち会い

## 医療保険をめぐる日常活動

### 1 施設基準等に関する相談・情報提供

会員が届け出た施設基準等について、届け出後の施設基準の運営上における問題や質問に対応している。また、新たに出された通知、変更事項等の情報をいち早くキャッチし、協会のホームページ等で積極的に周知するようにしている。

### 2 適時調査に関する情報収集

社会保険事務局（現在は近畿厚生局京都事務所）が届出を行った医療機関に施設基準の運営が適切に行われているかを確認するために実施する適時調査では、2009年4月より京都府医師会の立ち会いも認められなくなったため、当協会は適時調査を受けた会員病院から調査内容・結果の情報収集に努め、会員病院が適切な施設基準運営ができるよう積極的に支援している。

### 3 生活保護法指定医療機関に対する個別指導への立ち会い

2005年度以降も生保指定医療機関に実施される個

別指導への立ち会いに参加している。医師による立ち会いは府医または地区医師会担当理事が行い、当協会会員病院の調査には全て事務局担当者が立ち会うようにしている。

## 診療報酬委員会

当委員会は組織変更に伴い2009年（平成21年）6月に医療事務専門委員会議と合併し、医療保険関係全般について担当することになった。主な活動として医療保険に関する情報の収集及び会員への情報提供、医療事務専門委員会議から引き継いだ医療事務勉強会の運営、さらには行政及び関係諸機関への要望活動等が挙げられる。最近では2008年度に同年度診療報酬改定における会員施設の影響度調査を行った。

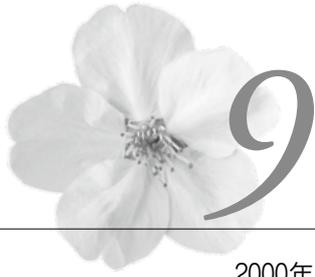
また、2009年度にはDPCに関する講演会の企画・運営、2010年度診療報酬改定に向けて入院基本料を中心とした診療報酬の大幅な引き上げを求める要望書を作成し、厚生労働大臣に提出する等幅広く活動を展開してきた。

2012年度には診療報酬・介護報酬の同時改定が控えており、今後はその対策も含めて、引き続き情報収集を怠らず、会員に価値のある情報を提供できるよう努めていく。

### ◆講演会

第1回（2009年11月26日）キャンパスプラザ京都「DPC最近の話題～機能評価の行方と医薬品の評価について～」

講師／谷澤正明（田辺三菱製薬株式会社営業推進部グループマネジャー）



## 介護保険制度への対応

2000年に介護保険制度が発足されると同時に、当協会では行政や府医師会の担当者を交えての介護保険委員会が設置され、制度の問題点の検討や情報交換を行ってきた。会員施設のケアマネジャーの交流、情報交換、研修会を中心に行ってきたケアマネジャー委員会が2007年に介護保険委員会と統合され、2009年には介護報酬に関わる情報収集と分析を中心に行ってきた介護報酬委員会が統合され、現在介護保険委員会がそれらの機能を引き継ぎ幅広く活動している。

介護サービス第三者評価事業においては、2004年9月に当協会も評価機関の認定を受け、第三者評価の推進に努めている。2005年10月には、京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構が発足し、当協会より理事を派遣している。また、2006年4月より介護サービス情報の公表が始まると同時に情報の公表の調査機関の指定を受け、訪問調査を実施すると共に、調査員の養成にも力を入れている。

2006年4月より新規の要介護認定調査は市町村が実施する事となり、京都市から当協会に外部委託の依頼があり、2007年11月に市町村事務受託法人の指定を受け、会員施設の介護支援専門員を中心とした協力体制のもと、認定調査を実施している。

一方、2005年12月に厚生労働省は突然、介護療養型医療施設の廃止と医療療養病床の削減を打ち出した。当協会では厚生労働大臣等に「療養病床の再編成の再考を求める要望書」などを提出。2007年に「介護療養型老人保健施設の施設要件、介護報酬の見直しと療養病床の存続を求める緊急要望」を提出し、療養病床の存続と再考を求めた。2007年9月には京都療養病床協会と共に府民フォーラム「療養病床を斬る！だから療養病床は必要だ！」を開催。2009年7月には介護療養型医療施設の存続を求める会と共に京都国民会議を開催し広く府民等に対し療養病床の必要性を訴えた。同時に介護療養型医療施設の存続を求める会の署名運動に参加し、会員病院の協力により15,000筆を越える署名が集まり、介護療養病床廃止の反対運動を全国的に広める取り組みにも努めた。

2009年度には介護職員処遇改善交付金を実施されたが、アンケート調査により問題点を指摘した。

(副会長 久野成人)

### 介護保険をとりまく情勢

介護保険施行後5年が経過した2005年度は、10月に介護保険施設等の食住費が自己負担となり、施設および利用者に大きな影響を与えた。また12月には、厚生労働省が介護療養型医療施設（13万床）を2011年度末で廃止し、医療療養病床（25万床）について

も対象患者を現行より限定する方針を打ち出し、関係機関に衝撃が走った。

療養病床再編を進めるために、国は療養病床の転換意向や患者の状態等に関する全国調査を2006年（平成18年）10月に実施し、その結果を踏まえた「地

域ケア整備構想」の策定を都道府県に求めた。これを受けて京都府では同年に「京都府地域ケアあり方検討会議」が発足、議論が重ねられ、2008年（平成20年）3月には「京都府地域ケア確保推進指針」が策定された。指針には、府内約6,469床（2007年4月1日）の療養病床が2012年度末には3,660床となる見通しが明記された。

しかし、この間、医療療養病床での医療区分1の患者の診療報酬が引き下げられるなど、療養病床を有する医療機関にとっては今なお、今後の方向性を決定するには不安材料が多く残されており、慎重にならざるを得ない状況である。2009年（平成21年）、衆議院選挙により民主党が与党第一党となったが、マニフェストに掲げた「療養病床再編計画の凍結」が実現されるかは未だ不確かであり、今後も動向を注視していく必要がある。

介護保険制度改正については、2006年度の一部改正で中重度者への各サービスの充実と在宅生活継続のための支援強化、新たな介護予防システムの構築、地域密着型サービスの導入などが行われ、報酬面は全体として0.5%、2005年10月の改定分を含めると2.4%のマイナス改定となった。2009年度の介護報酬改定は改定率3%アップとなったが、介護療養型医療施設ではリハビリテーションの評価の引下げや重度療養管理の廃止など厳しい内容となった。2009年（平成21年）7月に実施した会員施設での影響度調査では全体で0.58%のプラスに留まった。

当協会では、国に対する要望活動も継続して行った。厚生労働大臣等に療養病床の再編成の再考を求める要望書を提出するなどを行ったほか、2007年度には「特殊疾患療養病棟入院料及び障害者施設等入院基本料に関する要望」、「介護療養型老人保健施設

の施設要件、介護報酬の見直しと療養病床の存続を求める緊急要望」を提出し、療養病床の存続、現行の施設基準と診療報酬の維持、介護報酬の見直しを求めた。

また、介護療養型医療施設の存続を求める会の署名運動への協力など、療養病床削減の反対運動を全国的に広める取り組みも行った。署名は全国で約14万7千人を超え、そのうち京都では会員の協力により1万5千人を超える署名が集まった。

2009年度には、介護職員処遇改善交付金の事業が開始されたが、医療療養病床、介護療養病床の両方を有する医療機関にとっては同一職種間での給与格差や他職種との給与バランスが崩れることなど問題点が指摘されているところである。当協会では今後も介護保険制度および関連事業が会員にとってよりよいものとなるよう情報収集や要望活動を行っていきたいと考えている。

## ■ 介護保険をめぐる日常活動

### 1 施設基準等に関する相談・情報提供

会員からの施設基準等に関する質問・相談に対応している。新たに出された通知や変更事項等の情報を文書などで通知するほか、ホームページに掲載している。その他、実施状況報告書の月報点検も行っている。

### 2 実地指導への立ち会い

京都府や府内各保健所が定期的に行う実地指導では、調査が適切に行われるよう、制度発足当初から立ち会っている。実地指導で指摘が多くみられる点については会員へ情報を提供している。



介護保険委員会研修会(ケアマネジャー研修会)

## 介護保険委員会

介護と医療の密接な関係を重視する観点から、介護保険制度が医療に及ぼす影響を的確に把握・予測するとともに、介護保険制度下における問題点を解決し、介護サービス事業を行う会員が円滑に事業運営できるよう活動を行っている。この間、介護保険制度、報酬改定時の情報収集と会員への情報提供、療養病床再編における情報収集や意見・提言などの活動を行ってきた。

委員会では行政当局（京都府・京都市）及び京都府医師会の担当者も交え、現行の介護保険制度や介護制度改革の諸問題について情報交換や討議を行い、それぞれの立場から意見・要望を取り交わしていく中で、制度の適切な運用と安定的な運営が図られるよう努めている。

また、委員会では情報の公表制度や介護サービス第三者評価事業の課題の分析や意見・提言を行っているほか、京都市から当協会が委託を受け実施している京都市新規介護認定調査事業の運営の在り方についての検討も行っている。

2007年（平成19年）にはケアマネジャー委員会と統合し、ケアマネジャーを対象とした研修会の開催などの各種事業を引き継いだ。更に2009年（平成21年）には介護報酬委員会を統合し介護保険に関わる幅広い活動を展開する場として、ますます重要な役割を担うことになった。

### ◆研修会

2007（平成19）年度

- ・施設ケアマネジャーの役割とそれに伴う業務について（11月21日）

講師／川崎千鶴子（みずべの苑施設長）

2008（平成20）年度

- ・利用者本位のケア実践のために～ケアプランの考え方と工夫～（11月12日）

参加者からの事例発表、グループワークの後、当委員会委員より解説

- ・施設ケアマネジャー研修会（3月3日）

当委員会委員より発表後、グループワークを実施

2009年（平成21）年度

- ・介護療養型医療施設のケアプランと記録（3月16日）

当委員会委員より発表後、グループワークを実施

### ◆その他の活動

2005（平成17）年度

- ・介護保険施設等における居住費・食費の徴収にかかる説明用パンフレット、同意書の参考モデルの作成

- ・居住費・食費の徴収に関するアンケート調査の実施

2009（平成21）年度

- ・平成21年度介護報酬改定に係る影響度調査の実施

## 介護報酬委員会

介護報酬に関わる情報収集と分析、会員施設職員の請求事務能力の向上等を運営方針に掲げて活動を行ってきた。

2005年度は、10月に介護保険施設等での居住費・食費が利用者負担となったことに伴い、改定前後の情報収集を行い、対応を検討した。2006年度および2008年度はそれぞれ翌年度に控えた介護報酬改定に



介護報酬チェック  
リスト (Ver.3)



ケアマネジャー委員会研修会  
(ケアマネジャー意見交換会)

関する情報収集に努めた。また、2006年度には介護療養型を対象とした介護報酬の算定についてのマニュアル（介護報酬チェックリスト）を作成、介護療養病床を有する会員施設へ提供した。その他、他委員会の実施する報酬改定に関する研修会等へ講師を派遣した。

2009年度からは介護保険委員会と統合し、当委員会がそれまで果たしてきた機能が介護保険委員会に引き継がれることになった。

#### ◆主な活動

2006（平成18）年度

介護報酬チェックリスト（介護療養型医療施設版 Ver.3）の作成

2008（平成20）年度

平成21年度介護報酬改定に係る影響度調査の実施

表し合った。介護保険制度発足から一定期間を経て、各施設でのサービスが充実してきたことを実感するとともに、現場で創出された工夫がいかに有益であるかを再認識できるよい機会となった。

2007年度からは介護保険委員会と統合し、当委員会がそれまで行っていた取り組みを介護保険委員会が引き継ぐことになった。

#### ◆研修会等

2005（平成17）年度

・ICFの理解とケアプラン作成～介護療養型医療施設での活用～（7月20日）

講師／川添チエミ（嵯峨野病院 看護師・介護支援専門員）

・ケアマネジャー意見交換会（2月17日）

2006（平成18）年度

・ケアマネジャー勉強会（10月13日）

## ケアマネジャー委員会

会員医療機関に所属するケアマネジャーが抱える問題について情報収集を行うとともに、研修会等での会員間での交流や情報交換を通じて、業務を円滑に行うための取り組みを共有し、ケアマネジャーが抱える問題が解決されるようケアマネジャー委員会が設置されている。

2005年度は、特に介護療養型医療施設のケアマネジャーが抱える問題・課題に焦点をあて、ICFを活用したケアプランの作成をテーマに研修会を開催したほか、当委員会として初の試みであるケアマネジャーによる意見交換会を開催した。

2006年度は、ケアマネジャー勉強会と題し、事前に設定したテーマについて会員施設の取り組みを発

## 介護サービス第三者評価事業

事業者による介護サービスの質の向上を促進し、同時にサービスを受ける利用者の選択の利便を図るために有効である介護サービス第三者評価は、京都府で2002年度から全国に先駆けて試行実施事業が行われ、2005年（平成17年）10月には、関係団体、行政等で組織する「京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構」が発足し、福祉サービスも含めた第三者評価への本格実施へと移った。

京都府では現在介護分野で16機関が評価機関として認定を受けており、当協会も試行期間の2004年（平成16年）9月に介護サービス第三者評価機関の認定を受けた。

調査は当協会所属の調査者が行い、評価の最終決定機関として設置されている評価審査委員会では、当協会以外の団体等も交え、公平且つ適正な評価になるよう努めた。また、調査者の質の向上を図るため、各種研修への参加や新規調査者の養成にも力を入れている。

#### 評価実施施設・事業所

2005（平成17）年度／嵯峨野病院、北山病院、嵯峨野病院居宅介護支援事業所、嵯峨野病院上野橋デイサービスセンター、京都博愛会病院、京都南西病院、なごみの里病院、渡辺病院、京都東山老年サナトリウム

計9事業所

2006（平成18）年度／まほろば老人デイサービスセンター、嵯峨野病院、京都南西病院、長岡病院、ヘルパーステーション南西

計5事業所

2007（平成19）年度／柏野デイサービス、居宅支援京都民医連中央病院、渡辺医院通所リハビリテーションすこやか倶楽部、ふれあいステーションゆきわり、神部整形外科、総合ケアステーションわかば、うずまさ診療所、在宅ケアステーションげんき、第二久野病院、あやべ協立診療所、介護老人保健施設陽生苑、北陵デイサービスセンター、松ヶ崎記念病院、特別養護老人ホームサンフラワーガーデン、介護老人保健施設綾部さくらホーム、特別養護老人ホームまほろば、宮津武田病院、渡辺病院

計18事業所

2008（平成20）年度／通所リハビリテーション小野、介護老人保健施設やすらぎ苑、ケアプランセンタ

ー飛鳥井、訪問看護ステーション神川、まいづる協立診療所、久世診療所、高安デイサービス、木津屋橋武田病院、訪問看護ステーションゆたかの、上京病院デイサービス、春日診療所、訪問看護ステーションつくし居宅介護支援事業所、北病院、西陣病院介護保険相談室、訪問介護事業所さかの

計15事業所

2009（平成21）年度／五木田病院、京都南西病院、ヘルパーステーション南西、京都民医連第二中央病院通所リハビリテーションなの花、株式会社ケア・サポート紫明事務所、株式会社ケア・サポート鞍馬口事務所、あやべ協立診療所、荒木クリニック居宅介護支援センター、安心ライフ株式会社、株式会社三笑堂

計10事業所

## 介護サービス情報の公表事業

2006年（平成18年）年4月に介護保険制度の一部改正により、利用者による事業者の選択に資することを目的として「介護サービス情報の公表」事業が発足し、全ての介護サービス事業者に毎年の情報公開が義務付けられた。2009年度からは全ての介護保険サービスが公表の対象となっている。

京都府においては、介護サービス第三者評価の一層の推進と調査員の質を担保するため、第三者評価調査機関のうち16機関が情報の公表の調査機関として指定されており、第三者評価機関である当協会も、京都府からの要請により2006年（平成18年）7月に情報の公表の調査機関として指定を受け、当協会所属の調査員が各事業所へ訪問調査を実施している。また、京都府全体の調査員の質の向上を図るため、

新規調査員養成のための指導者の養成などにも力を入れている。

訪問調査実績（介護サービス種別：事業所数）

2006（平成18）年度／訪問介護：10、訪問入浴介護：

- 1、訪問看護：6、通所介護：11、福祉用具貸与：1、居宅介護支援：19、介護老人福祉施設：7、介護老人保健施設：1

計56事業所

2007（平成19）年度／訪問介：4、訪問入浴介護：

- 1、訪問看護：10、通所介護：6、福祉用具貸与：1、居宅介護支援：18、介護老人福祉施設：1、介護老人保健施設：3、介護療養型医療施設：48、訪問リハビリテーション：13、通所リハビリテーション：15

計120事業所

2008（平成20）年度／訪問介護：4、訪問入浴介護：

- 2、訪問看護：12、通所介護：5、居宅介護支援：23、介護老人保健施設：2、介護療養型医療施設：45、短期入所療養介護：4、短期入所生活介護：1、訪問リハビリテーション：18、通所リハビリテーション：14

計130事業所

2009（平成21）年度／訪問介護：1、訪問入浴介護：

- 1、訪問看護：11、通所介護：2、居宅介護支援：14、介護老人保健施設：1、介護療養型医療施設：40、短期入所療養介護：3、短期入所生活介護：1、訪問リハビリテーション：13、通所リハビリテーション：13

計100事業所

## 京都市新規介護認定調査事業

2006年（平成18年）4月の介護保険制度改正により、これまで居宅介護支援事業者や介護保険施設への委託が可能であった新規の要介護認定調査は市町村（または市町村から委託を受けた法人：指定市町村事務受託法人）が実施することとなった。

京都市では毎月1,000～1,200件程度、新規の要介護（要支援）認定に係る申請があるのに対し、現在、各区役所・支所に配置されている認定調査嘱託員だけでは全件の調査は困難であり、また財政事情や有資格者の確保の点からも京都市だけでは実施が困難な状況となっていた。

こうした事情のもと、京都市は中立・公正な介護認定調査の実施という観点から、当協会をはじめとする居宅サービス等を提供していない法人への外部委託を依頼し、当協会が受託した。2007年（平成19年）11月1日付で市町村事務受託法人の指定を受け、認定調査員については、会員施設の介護支援専門員を中心とした協力の下、月間200～250件程度の認定調査を実施している。

### ◆認定調査実績

2007（平成19）年度	161件
2008（平成20）年度	1,999件
2009（平成21）年度	2,662件



## 10 救急医療体制の確保と推進

近年、たび重なる医療費抑制政策の結果、病院医療崩壊が現実のものとなり各地域で救急医療体制の崩壊がおり社会問題となっている。

しかし、京都府下における救急医療体制は行政や医師会、京都府病院協会などとの協力で他府県に比べて比較的安定した体制を保つことができている。これは、京都市域二次病院群輪番制、山城北二次病院群輪番制、中丹二次病院群輪番制を継続し京都府下の二次救急の円滑な運営に協力してきていることによる。

しかし、繰り返される診療報酬の引き下げや医師・看護師不足の影響で輪番参加病院は徐々に減少してきている。さらに、京都市が財政難を理由に2009年度から補助金額を半減したことにより、さらに輪番参加病院が減少することが懸念されている。

今後、消防法の改正により傷病者の受け入れ実施基準が作成されるが、京都私立病院協会会員病院をはじめとした府下の二次救急の担い手である民間病院の適正な評価を求めていく必要がある。

京都府小児救急医療電話相談事業については、京都府から2005年に京都私立病院協会が運営委託を受けて運用されている。#8000の利用回数は順調に増加してきているが、協力病院数が運用開始当初から制限されているため参加病院に大きな負担がかかってきている。今後、京都府と協議して協力病院の枠を増やしてもらい、会員病院で参加可能な病院には積極的に参加してもらうことで、スムーズな運用に努める。

また、気管挿管や薬剤投与など救急救命士の業務拡大がさらに進んできているが、京都私立病院協会としても実習受け入れ等で救急救命士養成の協力を努めている。

(副会長 武田隆久)

### 京都市における二次病院群輪番体制

京都市（乙訓2市1町含む）の二次病院群輪番制度は、初期救急医療機関から転送された主に入院治療を必要とする重症患者の診療を協力病院が交代で担う制度である。制度開始当初にあった様々な問題も今は克服され、協力病院が輪番制方式による平日の夜間・休日における急患発生時の対応に高い効果を上げてきた。協力病院数は若干減少してはいるが、日頃からの協力病院の地域医療を守るという強い使命感に支えられ、一般・小児輪番ともに現在も安定した制度の運営がなされており、年2回開催の当番編成会議も滞りなく順調に行われている。

病院群輪番制事業は、1979年(昭和54年)に国庫補助金制度として創設された。京都市の二次病院群輪番制度については制度発足時から取り組まれている。

一方、山城北医療圏においては、当初は病院群輪番制事業としては何も制度が立ち上げられていない状態であった。その後、1992年(平成4年)に策定された京都府保健医療計画に、病院群輪番制事業が整備されていない地域へ拡充する旨の記載がなされ、山城北医療圏の行政機関からの要請もあり、関係医療機関も交えた協議の結果、平成7年より山城北医療圏（宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山

町、井手町、宇治田原町)を対象とした山城北二次病院群輪番制度が発足した。現在、山城北医療圏の輪番制度は休日や年末年始における救急医療体制の確保と充実につながっており、山城北医療圏の救急医療に大きく貢献している。

また、舞鶴市、綾部市、福知山市を対象とした中丹地区の二次病院群輪番制度は、休日や年末年始を対象に夜間の体制が整備されている。その運営や編成などについて当協会は直接関わっていないが、広域地域における救急輪番体制がより一層充実されるよう北部の会員とともに引き続き制度の運営に協力していきたい。

#### ◆京都市域二次病院群輪番制度の推移

当協会協力病院数

年 度	一般協力病院	小児協力病院
2005	64	8
2006	63	8
2007	63	8
2008	63	8
2009	63	8

搬送患者数

年 度	入 院	外 来
2005	511	3,008
2006	652	3,674
2007	609	4,012
2008	666	4,694
2009	909	6,511

補助金の推移 (当協会会員協力病院分)

2005年度	¥115,226,880
2006年度	¥107,608,000
2007年度	¥107,160,000
2008年度	¥107,016,000
2009年度	¥62,572,000

#### ◆山城北二次病院群輪番制度の推移

当協会協力病院数

年 度	会員協力病院	会員外協力病院
2005	13	2
2006	13	2
2007	13	2
2008	13	2
2009	13	2

搬送患者数

年 度	入 院	外 来
2005	65	1,110
2006	64	1,318
2007	102	1,338
2008	78	1,197
2009	95	1,127

補助金の推移 (当協会会員協力病院分)

2005年度	¥9,377,280
2006年度	¥9,177,920
2007年度	¥10,709,760
2008年度	¥9,888,320
2009年度	¥9,888,320

## 京都府小児救急医療電話相談事業

子供の急な病気、発熱やけが等について保護者からの相談に対応するために京都府が2005年（平成17年）1月に当事業を開始した。本事業は毎夜間（午後7時～11時、土曜のみ午後3時～11時）電話対応可能な体制を整備し、対象である京都府内在住の15歳未満の子供とその家族等からの相談を受け付けている。相談件数は事業の周知により徐々にではあるが増えつつあり、2009年（平成21年）3月現在では1日平均14件という状況。

小児救急医療については、軽症の場合でも直ちに特定の救急医療機関や救命救急センターを受診する傾向にあり、それが小児科当直医に過剰な負担をもたらしているとも言われる。そこから生じる諸問題が少しでも解消に向かうことも期待されている。京都府内の固定電話から#8000を回すことによって、担当者につながる。

当協会は京都府から事務委託を受け、当番の編成や事務手続きなどを行っている。事業開始時の2005年度と比較して2009年度の相談実績は大幅に増加している。相談には、府内で小児科当直体制をとる病院の看護師・医師らが交代で対応する。2009年度は11病院が協力し、うち当協会の会員は5病院となっている。

2009年度には新型インフルエンザの流行により相談件数も増え、現場の職員の負担が増した。また、土日祝担当病院が少ないことなどが今後の課題となっている。

### 相談実績

2005年度	1,311件
2006年度	2,080件
2007年度	2,650件
2008年度	4,211件
2009年度	5,569件

### 補助金の推移

2005年度	8,466,000円	（1当番単価20,400円）
2006年度	8,445,600円	（1当番単価20,400円）
2007年度	8,466,400円	（1当番単価20,400円）
2008年度	8,486,400円	（1当番単価20,400円）
2009年度	8,486,400円	（1当番単価20,400円）

## 京都府内の救急医療システム

2002年（平成14年）4月よりインターネットを利用し府民にも公開されている京都府救急医療情報システムは、府民のアクセス別利用状況は374,335件（2009年度実績）、関係者（消防機関・医療機関の検索状況は96,170件（同）で、利用件数は着実に増加している。同システムは救急搬送先の減少による患者受け入れ困難が懸念されるなか、今後も有効な手段のひとつとして期待される。なお、救急医療情報システムは健康情報などを掲載するサイト「京都健康医療よろずネット」内に統合されることにより、府民により親しみやすくなっている。

京都府では救急医療情報システム以外で、周産期医療情報を24時間体制で一元管理し、母胎・新生児の生命を守る周産期医療情報システムが稼働しているほか、土曜・休日・夜間に精神科医療が必要となった患者を対象に、京都府を北部と南部にわけ、そ

れぞれをセンターが窓口対応する精神科救急医療システムが2003年（平成15年）より開始されている。

## 救急医療をめぐる諸問題への対応

医師・看護師不足が深刻化するなか、東京など

の都市部でも救急車の受入困難の事例が発生しマスコミで報道されるなど、救急医療崩壊が社会問題として認識されるようになった。

京都府においても、政府の三位一体の改革により、従来からの救急医療体制に係る補助金制度の存続が危ぶまれる状況となっている。京都府では、各地域で輪番制が稼動しており、円滑に機能しているところではあるが、京都市においては、財源不足の中、2009年度より輪番参加病院への補助金が減額されることになった。民間病院においては、資金面はもちろんのこと、現場の士気にも影響することであり、当協会としても今後より一層、救急医療の存続にむけて活動を行わなければならない。

多くの病院が抱える問題点として、医師、看護師不足や診療報酬引き下げなどによる病院の収入減がある。こうした事態が、救急医療の中心を担う二次救急医療機関で起きている。緊急度の低い患者が三次救急医療機関に流れ、高度医療を必要な重症患者を三次救急医療機関が満床で受入れられなくなっており、抜本的な対策が必要と思われる。特に中小の

民間病院では医師、看護師確保が困難となっており、当協会は、救急現場の窮状を訴えるべく国への要望活動も行なっている。

また、この間、JR福知山線の事故を教訓とし災害医療体制の在り方について検討され、院内体制の問題や行政と消防の連携における課題や大災害時の受け入れ体制のマニュアル整備の必要性が話し合われた。

救急医療分野における地道な活動も続いている。ACLS京都、JPTEC（病院前外傷教育プログラム）や公的機関等へのAEDの配置により、社会全体の救命救急への意識は向上に貢献している。

その他、自賠責保険をめぐることは、京都府医師会（京都私立病院協会、京都府病院協会代表含む）と日本損害保険協会近畿支部、損害保険料率算出機構京都調査事務所三者による京都府交通事故医療連絡協議会での協議が進み、2003年（平成15年）4月から自賠責保険診療費算定基準（ガイドライン）実施要項に基づいた請求が各病院で選択できるようになり、定着に向けた継続的な取り組みが行われている。



京都救急医療研究会

## 救急医療検討委員会

協会において救急医療問題を全般的に担当する当委員会は、担当理事と会員医師、事務長会代表および看護部長会代表によって構成されており、概ね2か月に1度開催している。

委員会では、当協会から委員推薦を行っている京都医師会の救急委員会の協議内容を確認しているほか、京都府・京都市等が設置する救急関係の各協議会の進捗状況が報告され、検討を行っている。

また、京都府内の救急医療に携わる者が一同に集まり、学術研鑽の場とする趣旨で「京都救急医療研究会」（当協会、京都府医師会、京都府病院協会との共催）が毎年開催されているが、開催テーマなどについて検討を行っている。

2005年度からの5年間では、小児救急医療電話相談事業の受託に関する問題等の検討、救急搬送の受け入れ問題への対策の検討、京都市二次病院群輪番制度の補助金減額への対応、要望書の提出などを行った。

### ◆主な事業

#### 2005（平成17）年度

救急救命士等の応急処置の実施のあり方を検討

#### 2006（平成18）年度

小児救急医療電話相談事業の問題等について検討

#### 2007（平成19）年度

救急搬送の受け入れ問題について対策などを検討

#### 2008（平成20）年度

京都市二次病院群輪番制度の補助金減額への対応などを検討

#### 2009（平成21）年度

救急医療の現状把握のための調査を行ったほか、調査結果をもとに診療報酬の救急部門への評価などを厚生労働大臣へ要望。その他、交通事故担当者名簿を改訂した。

## 京都救急医療研究会

京都で救急医療を担う方々のための生涯教育の場となるよう2002年（平成14年）に京都救急医療研究会が発足した。毎年11月頃に、京都府医師会、京都府病院協会との三者共催で開催している。後援団体として、京都府消防長会、京都市消防局、京都府看護協会、京都府救急救命士会の協力を得ている。

#### 第4回 2005年（平成17年）

- ・シンポジウム「標準化プログラムの普及とシステムの整備について」
- ・特別講演「Preventable Trauma Deathを回避するために—外傷患者に対するメディカルコントロールの重要性と外傷初期診療に求められるもの」  
講師／松岡哲也（大阪府立泉州救命救急センター 所長）

#### 第5回 2006年（平成18年）

- ・シンポジウム「市民除細動について—各界の立場からどのように対応するか」
- ・特別講演「新しい心肺蘇生法について—2005年ガイドライン改訂に学ぶ」  
講師／野々木宏（国立循環器病センター緊急部長、  
心臓血管内科部長）

第6回 2007年(平成19年)

- ・シンポジウム「京都大震災への対応」
- ・特別講演「京都大震災の特徴と災害対応の課題」  
講師／河田恵昭（京大防災研究所教授・附属巨大  
災害研究センター長）

第7回 2008年(平成20年)

- ・シンポジウム「京都の救急医療体制は維持できる  
か」
- ・特別講演「埼玉県における救急医療の現状と問題  
点、そして、今後」  
講師／堤 晴彦（埼玉医科大学総合医療センター・  
高度救命救急センター教授）

第8回 2009年(平成21年)

- ・シンポジウム「京都におけるドクターヘリの導入  
とその運用」
- ・特別講演「これまでのドクターヘリ・これからの  
ドクターヘリ」  
講師／岡田真人（聖隷三方原病院救命救急センター  
院長補佐）



## 11 感染症対策への対応

感染症は、抗生剤の発明や抗ウイルス薬の出現があつたにもかかわらず、依然として人類の脅威に変わりはありません。また新型インフルエンザに代表されるように、新しい感染症が次々と出現し、その対策を取ることがますます重要になってきています。また感染症予防についても、標準的予防策や感染経路別予防策など、新しい知見がどんどん出現してきています。さらに新しいワクチンの開発も行われています。私たち医療従事者は、感染症に対して予防から治療までこのような最新の情報を入手し、整理し、そして現場に迅速に反映しなければなりません。これをお手伝いするために、京都私立病院協会は、感染症対策委員会と、院内感染対策推進事業運営委員会との二つの大きな柱を基に、感染症対策の活動をしてまいりました。それぞれの活動内容の詳細は後述しておりますが、まだまだ感染症対策の対応は十分とはいえません。今後さらに委員会活動を実りのあるものにしていくためには、会員みなさまの感染症対策活動に対するご理解とご協力が欠かせません。どうかよろしく申し上げます。

この活動を通して、京都府下の協会加盟病院、診療所での感染症対策が、充実していくことを願っています。

(理事 清水 聡)

### ■ 感染症対策委員会

1998年(平成10年)より「感染症対策委員会」を設置し、感染症に係る諸問題への対応と院内感染防止の諸対策に向けて取り組んできた。

委員会は理事会・看護部長会・臨床検査部会、会員内の専門医師による構成で開催している。

近年の取り組みとしては、感染症対策に関するアンケート調査や、会員施設におけるVRE発生状況に関する実態調査を行うなど、情報収集に努めてきた。

2005年(平成17年)には感染症対策に必要な事項をチェック形式にまとめた「ICTパトロールチェック表」を作成し、会員施設へ資料提供を行った。

その他の取り組みとして、病院の全職種を対象とした感染対策研修会の開催や、毎月の京都私立病院報への感染症情報の掲載やその他感染対策に関する必要な情報を迅速に会員へ伝達した。

さらには、2003年(平成15年)に「感染症対策マニュアル」を作成したが、感染症を取り巻く変化に即応した内容とするため、2006年(平成18年)と2007年(平成19年)に一部改訂を行い、2009年(平成21年)に全面改訂版を完成させた。また、新型インフルエンザの発生に対し、二次入院受入体制や年末年始の診療体制の強化に努め、京都市では市内会員29病院の協力を得て新型インフルエンザワクチンの一斉接種を実施するなど、市民への安心、安全の確保に尽力した。

#### ◆主な活動

2005(平成17)年度

- ・「過去3年間における便検査に関する実態調査」の実施、ICTパトロールチェック表の作成



感染症対策委員会  
感染症対策研修会



感染症対策マニュアル

## 2006（平成18）年度

- ・感染症対策マニュアル（2006年一部改訂版）の発行

## 2007（平成19）年度

- ・感染対策研修会（11月13日）
  - ①「予防接種について～麻しん・風しんを中心に～」
  - ②「結核について～最新の情報～」
 講師／①清水恒広（京都市立病院感染症科部長）  
 ②倉澤卓也（独立行政法人国立病院機構  
 南京都病院院長）
- ・HIVに関するアンケート調査の実施
- ・感染症対策マニュアル(2007年一部改訂版)の発行

## 2008（平成20）年度

- ・感染症対策マニュアルの全面改訂に向けた検討

## 2009（平成21）年度

- ・感染症対策マニュアル(2009年全面改訂版)の発行
- ・新型インフルエンザに関するアンケート調査の実施
- ・京都府による新型インフルエンザ患者の入院医療提供体制の構築及び新型インフルエンザ対応のための診療設備整備拡充への協力
- ・京都市の年末年始における新型インフルエンザ等診療への協力

協力病院／京都市内会員49病院

- ・京都市の新型インフルエンザワクチン一斉接種への協力

協力病院／京都市内会員29病院

### 一斉接種結果

回	接種期間 [平日夜間、土曜日、日曜日]	定員数	接種者数			
			小学生	中学生	高校生	合計
1回目	1月16日～24日	2,842	836	622	499	1,957
2回目	2月13日～21日	2,761	655	76	99	830
合計		5,603	1,491	698	598	2,787

## 院内感染対策推進事業運営委員会

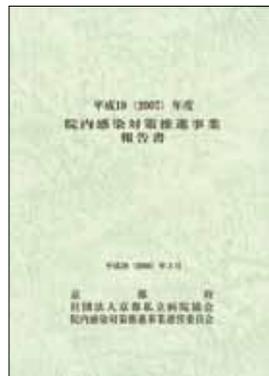
院内感染対策推進事業は、安全で質の高い医療の提供体制を整備し、院内感染の発生及び拡大防止を図るため、2004年（平成16年）に京都府により3年間の事業として策定され、当協会に事業の運営が委託された。府内の感染対策の普及・啓発に大きな成果をあげたことから、2007年（平成19年）からの3年間についても京都府の委託により、引き続き当協会が事業を推進した。

事業の企画・運営は、当協会の感染症対策委員、感染対策の専門家、関係団体、行政で構成する当委員会と、専門部会として医療機関等への実地支援や相談対応を行う「院内感染対策相談支援部会」を設置し、合同で事業に取り組んだ。

主な事業は、2005年（平成17年）から、推進事業の医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師からなる感染対策チームを病院に派遣し、感染防止対策の支援や助言を行う支援事業を2009年（平成21年）までに合計36施設に実施した。

相談事業としては、年度を通じて医療機関等からの感染対策の相談に対応する体制を整え、書面による相談にも迅速に対応した。

その他、医療機関等の全職種を対象にした各種研修会を開催するとともに医療機関等施設向けと府民向けの感染対策Q&Aなどを作成し、医療機関や介護老人保健施設等に広く配布し、感染対策の普及啓発にも努めた。



京都府における院内感染対策の整備状況に関する調査報告書

医療機関・介護施設職員のための感染対策Q&A

府民のための感染対策Q&A

院内感染対策推進事業報告書

◆主な活動

2005（平成17）年度

- ・院内感染対策支援事業（4施設）
- ・院内感染対策相談事業（相談回答件数／3件）
- ・感染症対策マニュアル(2003年5月発行)の発行
- ・院内感染対策研修会（11月17日）
  - ①「インフルエンザの行政対応」
  - ②「インフルエンザワクチンとその合併症」
 講師／①中村泰三（京都府中丹東保健所長）  
 ②森島恒雄（岡山大学大学院医歯学総合研究科小児医科学教授）

2006（平成18）年度

- ・院内感染対策支援事業（8施設）
- ・院内感染対策相談事業（相談回答件数／6件）
- ・感染症対策マニュアル(2006年3月一部改訂版)の発行
- ・院内感染対策研修会（11月24日）
  - ①「平成18年度京都府・京都市域におけるVREの保菌状況に関する疫学調査結果について」
  - ②「病院感染制御に関する動向と新しい考え方」
 講師／①一山 智（京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学教授）  
 ②大久保 憲（東京保健医療大学医療情報学科感染制御学教授）

- ・医療機関及び府民向け感染対策Q&Aの作成・発行
- ・院内感染対策に係る参考書類の作成・発行

2007（平成19）年度

- ・院内感染対策支援事業（8施設）
- ・院内感染対策支援後の取組に関する調査事業  
 調査対象／12施設（平成17年度支援実施4施設、平成18年度支援実施8施設）

- ・京都府における院内感染対策の整備状況に関する調査事業

調査対象／440施設（京都府内病院177施設、有床診療所・透析施設209施設、介護老人保健施設54施設）

- ・院内感染対策相談事業（相談回答件数／2件）

2008（平成20）年度

- ・院内感染対策評価支援事業（8施設）
- ・院内感染対策支援後の取組に関する調査事業  
 調査対象／8施設（平成19年度評価支援実施8施設）

- ・院内感染対策相談事業（相談回答件数／9件）

全職種対象感染対策研修会（10月11日）  
 「感染症診療の基本的アプローチ」  
 講師／一山 智（京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学教授）

「院内感染対策の標準的アプローチ」  
 講師／藤田直久（京都府立医科大学感染制御・検査医学准教授）

「院内感染対策における感染対策チーム（ICT）の役割」  
 講師／飯沼由嗣（京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学准教授）

「感染症における行政との連携」  
 講師／清水恒広（京都市立病院感染症科部長）

- ・薬剤師対象感染対策研修会（11月29日）

1. 「京都府内における院内感染対策の取組について」  
 講師／大野仁嗣(医仁会武田総合病院副院長)
2. ワークショップ  
 「薬剤師が身につけておくべき感染制御」



院内感染対策推進事業  
新型インフルエンザ対策研修会



院内感染対策推進事業  
感染対策研修会（薬剤師対象）



院内感染対策推進事業  
感染対策研修会（看護職員対象）

講師／甲斐純子（院内感染対策推進事業運営委員）

「抗菌薬の適正使用にむけて～実際にTDM解析（抗MRSA薬）を行ってみましょう！」

講師／西川靖之（院内感染対策推進事業相談支援部員）

### 3. SGD (Small Group Discussion)

「院内感染制御に対する問題点 ～薬剤師の立場から～」

#### ・看護職員対象感染対策研修会（11月20日）

##### 第1部 講義

1. 各部署感染対策委員（リンクナース等）の役割

2. 隔離予防策（基礎知識）

1) 標準予防策と感染経路予防策

2) 個人防護用具の適正活用

3) 患者配置と環境整備

4) 効果的な手指衛生

講師／林田真由美（亀岡市立病院看護部長）

##### 第2部 実習

1. 隔離予防策の実践

1) 個人防護用具の着脱方法

2) オムツ交換の実際

#### ・臨床検査技師・ICT対象感染対策研修会（11月22日）

「検査技師のための実践感染対策セミナー～感染対策ケーススタディ～」

##### 講義／

「Q&Aで学ぶ ICT活動に必要な臨床微生物の知識」

講師／小森敏明（京都府立医科大学附属病院臨床検査部）

感染管理ケーススタディ／

「施設内感染が発生した際のICT活動に関連した検査室の対応と実践」

グループディスカッションの発表・解説、総合討論

#### 2009（平成21）年度

・院内感染対策評価支援事業（8施設）

・院内感染対策支援後の取組に関する調査事業  
調査対象／8施設（平成20年度評価支援実施8施設）

・院内感染対策相談事業（相談回答件数／2件）

・新型インフルエンザ対策研修会（10月4日）

「新型インフルエンザに係る京都府の取組について」

講師／川野一男（京都府健康福祉部健康対策課課長）

「新型インフルエンザ対応～各医療機関はいかに準備すべきか～」

講師／清水恒広（京都市立病院感染症科部長）

「新型インフルエンザ流行時の医療関連施設における感染防止～一般診療の中での対応ポイント～」

講師／林田真由美（亀岡市立病院看護部長）



## 12 医療安全対策への対応

医療安全に対する委員会活動は2000年から活動している。医療安全対策委員会としては手始めに「医療安全マニュアル」の作成を行い、その後、医療安全に関する職員研修のための講演会開催、「医療安全対策チェックシート」、「インシデント・アクシデント統計分析シート」の作成などを行ってきた。マニュアルに関しては時代のニーズに合わせてとともに新たな項目についても織り込んで2009年に改定を行った。

近年、医療安全に対する概念も広がりつつあり、施設セキュリティ管理や医療従事者へのセクハラ、暴力等についても医療機関が配慮する必要性が求められている。毎年、当委員会で開催している医療安全対策講演会では、新人向けの教育内容を織り込むとともに、こうしたタイムリーな内容に対する講演会を開催してきた。また今後は、地震、洪水などの自然災害時における社会資源としての医療提供の事業継続に係る対応・対策についても検討していく。

先にも述べたように、医療安全に関しては幅広い概念での対応が要求されてきており、また死因究明などの医療制度の変化に対しても深くかかわっている。今後とも医療安全対策委員会として、幅広く情報収集を行い、タイムリーな情報提供・対策に取り組んでいく。

(副会長 武田隆久)

### 医療安全対策委員会

2000年（平成12年）より「医療安全対策委員会」を設置し、委員会を中心に会員病院における医療安全対策の促進に向けた取り組みを行ってきた。

2002年（平成14年）10月には医療法施行規則が一部改正され、全ての病院及び有床診療所について、4項目の医療安全管理体制が義務づけられたが、その中の1つに医療に係る安全管理のための職員研修の実施があり、当委員会としても会員施設の職員を対象にした講演会・研修会の開催に力を注いだ。

また2002年に医療安全対策マニュアルを作成したが、日々進歩を続ける医療界にあって、より実態に即した内容となるように2008年（平成20年）より改訂作業をはじめ、2009年（平成21年）6月に改訂版を完成させ、会員施設へ配布した。

#### ◆講演会

2005（平成17）年度（2月13日）

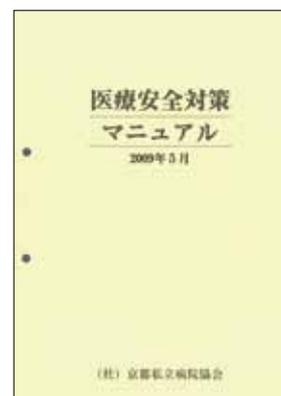
「患者参加の事故防止の取り組み～アメリカで進んでいること、日本で始まっていること～」  
講師／鮎澤純子（九州大学大学院医学研究院  
医療経営・管理学講座助教授）

2006（平成18）年度（10月25日）

「弁護士から見た医療事故対策の基本～患者家族参加型対策を中心に～」  
講師／鈴木利廣（明治大学法科大学院教授・す  
ずかけ法律事務所弁護士）



医療安全対策委員会講演会



医療安全対策マニュアル

2007（平成19）年度（2月14日）

「医療安全と院内暴力」

講師／仁木智織（医療法人三世会河内総合病院  
看護部長）

2008（平成20）年度（11月11日）

「今あらためて考える医療安全～身近に起こる  
事例から～」

講師／工藤千佳（東京海上日動メディカルサー  
ビス株式会社企画部メディカルリスクマ  
ネジメント室課長代理）

2009（平成21）年度（9月28日）

「事例から学ぶリスクマネジメント ～医療事  
故を防ぐために～」

講師／恩田清美（東京海上日動メディカルサー  
ビス株式会社企画部メディカルリスクマ  
ネジメント室上席研究員・看護師）

#### ◆その他

2009年

医療安全対策マニュアル（2009年版）の発行  
1,000部



# 13 医療情報の在り方についての対応

第4次医療法改正の論議の中で、カルテの開示の法制化をすすめる強い動きがある中、日本医師会は、法制化ではなく倫理規範として対応すべきとして1999年4月に『診療情報の提供に関する指針』を発表した。この一連の動きが我々のカルテに対する意識を大きく変え、当協会では「診療情報は開示される」を前提に、各医療機関における『診療録の記載の適切性』『診療情報の安全管理』『開示要求への対応体制』について検討が重ねられてきた。

一方で2003年5月に『個人情報保護法』が成立し、『個人情報保護法』の時代を迎え、カルテのみでなく更に幅広く、患者情報の在り方や取扱いに関して検討し、対策を立てていく必要が生じてきた。

また、個人情報にとどまらず、新しい地域医療計画が進む中、各医療機関の医療機能情報の開示が求められるところとなり、『医療機能情報提供制度』が制定され、2008年より各医療機関の医療機能情報の公開が義務化されることになった。さらに医療における広告規制の緩和にともなう各医療機関のインターネット上での情報提供の在り方にも検討すべき課題が生じている。

カルテの電子化が進む中、各医療機関の情報管理の組織的管理体制が問われるまでに至っており、取り分け『診療情報管理』については原点に立ち返り、診療情報管理をする組織体制、即ち『診療情報管理士の役割』を再認識する必要性も忘れてはならない。

今後、IT化が一層進む中、臨床の現場における記録としての診療情報のみならず、診療の質の評価（アウトカム評価）や経営指標による分析なども注目されることとなるであろう。これらについての具体的な取り組みも、透明性と説明義務が要請される時代における今後の重要な課題である。

（理事 岡本豊洋）

## 医療情報の在り方検討委員会

カルテ開示等の研究を行う機関として設置されていた情報開示委員会を前身とする医療情報の在り方検討委員会は、診療情報の開示を含め、医療に関わる情報の取り扱いを検討するべく2003年（平成15年）に設置された。

2005年（平成17年）4月に施行された個人情報保護法の取扱いについては施行前より情報収集に努め、説明会を開催するなどの活動を行ってきたが、施行後も各医療機関での対応などに関しアンケート調査

を行うなど、情報管理の在り方について継続して検討を行った。医療の現場に情報公開が強く求められてくるなか、2008年度より病院の医療機能情報の公表が義務化されることになり、その対応について検討した。

また2007年度には診療情報管理の在り方の検討を主たる活動として位置づけ、講演会の開催や会員病院の実態調査などを行ったほか、医療機関の広告規制の見直しへの対応について検討した。



医療情報の在り方検討委員会講演会

#### ◆講演会

2006（平成18）年度（5月19日）

※病院機能向上対策委員会と共催

「個人情報保護法施行後の病院における情報管理の在り方～医療機能評価機構の立場も踏まえて～」

講師／大道 久（日本大学医学部医療管理学教室教授、日本医療機能評価機構理事・評価委員長）

2007（平成19）年度（2月15日）

「これからの診療情報管理について～診療情報管理士の役割を含めて～」

講師／大井利夫（日本診療録管理学会理事長）

2008（平成20）年度（10月17日）

「医療計画10年後のビジョン」

①「患者が求める医療情報とは？」

講師／川端眞一（元京都新聞編集委員兼論説委員）

②「医療政策と医療機能情報提供制度について」

講師／西村周三（京都大学大学院経済学研究科教授）

#### ◆その他

2005年 個人情報保護法施行への対応に関するアンケート調査の実施

2007年 診療情報管理部門（業務）の状況に関するアンケート調査の実施



## 14 京都病院学会の開催

京都病院学会は、京都私立病院協会の学術研修事業の一環として、1965年に第1回地方病院学会として発足した。1977年の第13回から京都府病院協会との共催となり、京都病院学会の名称に改めて今日に至っている。

本学会は、京都府内のほぼ全ての病院を対象にしており、そこに所属する全職種が日頃の医療活動や研究の成果等を発表する他に例を見ない学会として既に定着している。それ故、演題数も増加の一途を辿っており、今や400題を超える演題発表が行われる学会に成長している。

演題数の増加による発表時間の制約、参加者増や2010年の京都府医師会館移転による会場の確保等の検討課題もあるが、今後も本学会が京都における病院医療の質の向上に寄与するよう受け継いでいく所存である。

(副会長 吉川順介)

### 京都病院学会

京都病院学会は、学術研究の場として1965年（昭和40年）に初めて開催されて以降、毎年その内容、規模ともに発展、拡大しながら回を重ねている。当協会と京都府病院協会との共催で6月に開催され、両会から選出された役員で構成する理事会、職能別に両会及び関係団体から派遣された委員で構成する実行委員会が企画・運営を担当している。学会前日・当日には両会から準備委員としてさらに多くの職種が運営を支え、円滑に進行されている。

この学会は、両会に加盟する病院の従事者が日常の医療活動のなかで第一線の臨床現場の研究成果や身近な問題も取り上げて発表しあう場として、また、病院間、職種間の垣根を取り払って交流できる貴重な場として内外ともに高い評価を得ている。毎年、京都府・京都市・京都府医師会からも後援を受けている。

演題数、参加者はともに年々増加をたどり、第38回からは京都府医師会館に京都市立看護短期大学も会場に加えて開催している。

学会当日は各部門の演題発表のほか、学会のテー

マについて各部門の発表者が一同に会する要望演題の発表やシンポジウム、さらには専門家や著名人を招いて基調講演や特別講演が行われている。

第40回 2005年（平成17年）6月12日

学会長／梶田芳弘（公立南丹病院）  
実行委員長／吉田 章（三菱京都病院）  
特別講演「映画で描かれた病気」  
講師／大森一樹（映画監督）

第41回 2006年（平成18年）6月11日

学会長／真鍋克次郎（八幡中央病院）  
実行委員長／富田哲也（富田病院）  
特別講演「愛があるなら叱りなさい」  
講師／井村雅代（アテネオリンピック・シンクロ  
ナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ）



京都病院学会特別講演  
(京都府医師会館大ホール)



京都病院学会 (京都府医師会館会場)



京都病院学会 (京都市立看護短期大学会場)

第42回 2007年(平成19年) 6月10日

学会長／倉澤卓也 (国立病院機構南京都病院)  
実行委員長／能見伸一郎 (社会保険京都病院)  
特別講演「医療の質と安全について」  
講師／上原鳴夫 (東北大学大学院医学系研究科・  
国際保健学分野教授)

第43回 2008年(平成20年) 6月8日

学会長／出射靖生 (京都回生病院)  
実行委員長／吉川順介 (吉川病院)  
特別講演「患者サイドから見た医療の連携」  
講師／山折哲雄 (宗教学者・元国際日本文化研究  
センター長)

第44回 2009年(平成21年) 6月14日

学会長／能見伸一郎 (社会保険京都病院)  
実行委員長／野口雅滋 (京都桂病院)  
特別講演「認知症の今とこれから」  
講師／長谷川和夫 (社会福祉法人浴風会認知症介  
護研究・研修東京センター名誉センター長)





## 15 教育・研修活動

会員施設職員の資質向上は協会の目的である「病院の向上発展」、また当協会の発展に不可欠である。

そのために当協会は設立以来「教育・研修活動」を重要課題の一つとして力を入れてきた。それぞれの参加職員が積極的に取り組むことで参加職員自身、そして病院の向上発展を現実のものとし、その効果が協会全体の発展に繋がっているといえるだろう。

現在、開講・開設されている教育研修活動には、教育研修基礎コース、中堅幹部職員研修（隔年）、看護卒後教育（看護中間管理者研修Ⅰ主任コース、同Ⅱ師長コース、看護リーダーシップ研修、准看護師研修、看護補助者研修）、保健医療管理者養成講座があり、あらゆるレベルの教育・研修を行っている。

いずれも毎年内容の充実を図るために見直しを行い、所期の目的を達成するために努力を重ねている。

（副会長 吉川順介）

### 教育研修基礎コース （旧：教育訓練初級コース）

当コースは会員医療機関の新入職員に対する接遇・対応能力の向上を目的に、1965年（昭和40年）より開催している。病院職員としての基本的知識と心得を修得し、一日も早く医療機関における組織人としての自覚を持つことを目的としたこの研修会も、現在では会員施設に定着し、毎年多数の参加を得ている。講義は接遇・対応の基本を中心にしたものから、参加者によるグループワークも盛り込まれており、実践的な技術の習得のほか受講者同士のコミュニケーションが図れる内容となっている。

毎年、京都市内では5月頃に、北部地区では6～7月頃に毎年開催している。北部地区の開催においては、福知山医師会、舞鶴医師会の共催を得て、隔年で会場を変えて開催している。北部地区の開催では医師会会員施設の職員へも門戸を開放し、毎年参加を得ている。

#### 2005（平成17）年度

##### ①京都市内開催

5月17日 京都府医師会館

講師／井上羊美（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

5月24日 京都府医師会館

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

##### ②北部地区開催

7月23日 中丹勤労者福祉会館

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

#### 2006（平成18）年度

##### ①京都市内開催

5月16日 京都府医師会館

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

5月25日 京都府医師会館



教育研修基礎コース（京都市内）



教育研修基礎コース（北部地区）

講師／井上羊美（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

②北部地区開催

7月22日 舞鶴メディカルセンター

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

2007（平成19）年度

①京都市内開催

5月25日・5月29日 京都府医師会館

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

※北部地区の研修は天候の事情により中止

2008（平成20）年度

①京都市内開催

5月12日・5月22日 京都府医師会館

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

②北部地区開催

7月12日 舞鶴メディカルセンター

講師／本田妃世（株式会社ウィズネス・教育コンサルタント）

2009（平成21）年度

①京都市内開催

5月15日・5月22日 京都府医師会館

講師／櫻井悦子（オムロンパーソネル株式会社・コミュニケーションコンサルタント）

②北部地区開催

7月25日 中丹勤労者福祉会館

講師／櫻井悦子（オムロンパーソネル株式会社・コミュニケーションコンサルタント）

## 中堅幹部職員研修

事務長会労務部会が中心となって企画・運営し、病院内各部門の中堅幹部職員を対象に隔年2月に開催している。本研修会は中堅幹部としての資質の向上、病院経営に関する知識の充実、病院の経営方針に基づいた業務の遂行、部下の育成・指導というリーダーとしての自覚の促進を目的とし、また参加者相互の親睦を深めるため、一泊二日を原則として実施している。講師は事務長会からの内部講師および1998年（平成10年）以降は外部講師も加わり、病院の日常業務に沿った具体的な内容を中心に、討議の時間に重点をおいたカリキュラムで、毎回活発な討論が繰り返され充実した内容となっている。今後も病院を取り巻く医療の動向を熟知し、経営に貢献できる中堅幹部職員を育成する場として、本研修会への期待はさらに大きくなると思われる。

2006年（平成18年）

2月16日・17日 京都・畑河（亀岡市）

研修内容／①コミュニケーションゲーム ②医療情勢 ③職場のメンタルヘルス ④次期診療報酬・介護報酬改定について ⑤管理者の知っておくべき労働法 ⑥中堅幹部の心得 ⑦グループワーク ⑧参加者交流会 ⑨その他

講師・スタッフ／清水 紘、真鍋克次郎、中谷泰幸、滋岡嘉弘、中江美隆、岡野昌夫、村上武司、山田正明、渡辺高志、谷 直介（内部講師／北山病院院長）、東山和富（内部講師／愛生会山科病院医事課長）、安藤良彦（内部講師／賀茂病院医事課長）



中堅幹部職員研修（講演）



中堅幹部職員研修（グループワーク）

## 2008年(平成20年)

2月21日・22日 京都・烟河（亀岡市）

研修内容／①コミュニケーションゲーム ②DPCへの対応 ③管理者の知っておくべき労働法 ④職場のメンタルヘルス ⑤中堅幹部の心得と経営管理 ⑥今後の医療展望 ⑦グループワーク ⑧参加者交流会 ⑨その他

講師・スタッフ／清水 紘、中谷泰幸、滋岡嘉弘、中江美隆、北岸智志、滝川和信、中井洋一、山田正明、小川 忍（外部講師／日本看護協会常務理事）、片桐陽子（内部講師／宇治おうばく病院復職トレーニング専門デイケアバックアップセンター・きょうと係長）、野口雅滋（内部講師／京都桂病院院長）

## 2010年(平成22年)

2月18日・19日 京都・烟河（亀岡市）

研修内容／①コミュニケーションゲーム ②中堅幹部の心得と経営管理 ③職場のメンタルヘルス ④看取りの医療 ⑤知っておきたい労働法 ⑥診療報酬改定 ⑦グループワーク ⑧参加者交流会 ⑨その他

講師・スタッフ／中野種樹、中谷泰幸、滋岡嘉弘、中江美隆、北岸智志、滝川和信、田口健治、中井洋一、山田正明、片桐陽子（内部講師／宇治おうばく病院復職トレーニング専門デイケアバックアップセンター・きょうと係長）、桜井 隆（外部講師／さくらクリニック院長）

## 看護卒後教育への取組み

看護部門における卒後教育は、看護部長会教育委員会で企画、運営されている。現在の活動としては、

看護主任・臨床指導者を対象とした「看護中間管理者研修Ⅰ（主任コース）」、看護師長を対象とした「看護中間管理者研修Ⅱ（師長コース）」がある。その他、看護卒後教育の一環として、卒後3年目の看護職員対象コースと参加対象限定なしのコースの「看護リーダーシップ研修」や「准看護師研修」、「看護補助者研修」があり、各研修とも毎年多くの参加を得て、大きな成果を挙げている。

各研修のテーマや講師の選定は、当委員会で毎年検討を行っている。2009年度は各研修プログラムに即した目的を設定の上、プログラムの大幅な見直しを行うことで、より充実したものとなった。

### ◆看護中間管理者研修

#### Ⅰ（主任コース）・Ⅱ（師長コース）

主任コースは毎月1回、全11回（4月～2月）、師長コースは9月～11月の3ヶ月間に各月2回ずつ計6回のカリキュラムで、9時30分から16時（一部14時～16時）まで講義し、その後30分間グループ討議を行っている。

受講者に年間を通して担当を決め、レポートを提出してもらうことで、講義を聴講するだけでなく、話し合いやレポート等を通じて問題意識や理解を深めてもらっている。会場は、京都中央看護保健専門学校との協力も得て開催している。

#### ◆看護中間管理者研修Ⅰ（主任コース）

2005（平成17）年度 参加者／63名

第1回 4月28日

「そして私はここにいる～生物としての人～」

講師／西沢いづみ（生命倫理学・生物学講師）

第2回 5月20日「看護研究」

講師／赤澤千春（京都大学医学部保健学科看

- 護学専攻助教授)、星野明子(京都大学医学部保健学科看護学専攻助教授)
- 第3回 6月24日「自分たちのメンタルヘルス」  
講師/荊木義比古(宇治黄檗病院リハビリテーション部管理室係長)
- 第4回 7月29日「交流分析」  
講師/水野正憲(岡山大学教授)
- 第5回 8月9日「看護診断」  
講師/江川隆子(京都大学医学部保健学科看護学専攻教授)
- 第6回 9月27日「コーチング」  
講師/坂井慶子(オフィスMONAMI代表)
- 第7回 10月25日「看護記録の実際」  
講師/樋口京子(岐阜大学医学部看護学科助教授)
- 第8回 11月29日「看護管理」  
講師/服部玲子(三菱神戸病院看護部長)
- 第9回 12月26日「障害者とスポーツ」  
講師/高橋 明(大阪市障害者福祉・スポーツ協会スポーツ振興部スポーツ課長)
- 第10回 1月24日「グループワーク(1)」  
講師/藤田敬一郎(地域活動研究所代表)
- 第11回 2月21日「グループワーク(2)」  
講師/藤田敬一郎(地域活動研究所代表)
- 2006(平成18)年度 参加者/70名  
※以下前年度と異なる研修のみ記載
- 第3回 6月27日「自分たちのメンタルヘルス」  
※講師を変更  
講師/片桐陽子(宇治黄檗病院復職トレーニング専門デイケアバックアップセンター・きょうと主任)
- 第6回 9月12日「コーチング」※講師を変更

- 講師/清野健太郎(Pure Field代表)
- 第9回 12月5日「死をふくむ幸福～日本とブータンを通して～」  
講師/本林靖久(大谷大学講師)
- 第10回 1月30日  
「診療報酬について」  
講師/福井満弘(元医療事務専門委員会議委員)
- 「介護報酬について」  
講師/安藤良彦(介護報酬委員会委員長)
- 2007(平成19)年度 参加者/54名  
※以下前年度と異なる研修のみ記載
- 第5回 8月29日「コーチング」  
※開催順序を変更  
講師/清野健太郎(Pure Field代表)
- 第6回 9月11日「看護診断」  
※開催順序を変更  
講師/江川隆子(京都大学医学部保健学科看護学専攻教授)
- 第9回 12月4日「ともに生きる～善人・悪人～」  
講師/梶田真章(法然院貫主)
- 第10回 1/29日「診療報酬について」  
※テーマを変更  
講師/福井満弘(元医療事務専門委員会議委員)
- 2008(平成20)年度 参加者/59名  
※以下前年度と異なる研修のみ記載
- 第6回 9月25日「看護診断」  
講師/鷹井清吉(看護アセスメント研究会代表)
- 第9回 12月12日「私の国際協力IN MYANMAR」  
講師/舟橋智恵(ジャパンハート・海を越える看護団)

2009（平成21）年度 参加者／54名

※以下前年度と異なる研修のみ記載

第1回 4月27日

「看護の動向」

講師／西岡和子（京都私立病院協会看護部長  
会部会長）

「そして私はここにいる～生物としての人～」

講師／西沢いづみ（生命倫理学・生物学講師）

第2回 9月3日「コーチング・セルフサポ  
ートコーチング」

※5月休講のため9月に開催

講師／清野健太郎（Pure Field代表）

第3回 6月18日「看護研究」

※開催順序を変更

講師／赤澤千春（京都大学医学研究科人間健  
康科学系専攻准教授）、星野明子（京  
都大学医学研究科人間健康科学系専攻  
准教授）

第5回 8月5日「人を育てる看護実践～リフ  
レクション～」

講師／池西悦子（園田学園女子大学人間健康  
学部人間看護学科准教授）

第7回 10月25日「看護記録の実際・看護記録  
の法的責務」

講師／樋口京子（大阪市立大学医学部看護学  
科教授）

第8回 11月27日「看護管理の実際」

講師／前田三枝子（関西看護医療大学看護学  
部看護学科教授）

第9回 12月7日「診療報酬」 ※開催順序を  
変更

講師／福井満弘（流通科学大学講師）

第10回 1月28日「正しい認知症の知識と看  
護のポイント」

講師／赤井信太郎氏（長浜赤十字病院認知症  
看護認定看護師）、後藤麻衣子氏（大  
阪労災病院認知症看護認定看護師）、  
濱中恵子氏（甲南介護老人保健施設認  
知症看護認定看護師）、藤井裕子氏（京  
都南病院認知症看護認定看護師）

第11回 2月26日「小集団活動～グループワー  
クのあり方～」

講師／小野澤みさを氏（日本心理福祉教育研  
究所代表）

#### ◆看護中間管理者研修Ⅱ（師長コース）

2005（平成17）年度 参加者／41名

第1回 9月8日「病院組織と看護組織および  
職場の活性化」

講師／林 三夫（ハヤシ経営研究所代表取締役）

第2回 9月29日「現場での部下の育成」

講師／多羅尾美智代（元 三木市立三木市民  
病院看護部長）

第3回 10月20日「各種会議・カンファレンス  
の持ち方、助言のしかた」

講師／杉野元子（看護組織開発研究所代表）

第4回 11月9日

「今後の医療情勢と医療運営」

講師／天野 圓（特定医療法人大道会常務理事）

「師長のリーダーシップ（最後の総まとめの意  
味で）判断・決断等」

講師／杉野元子（看護組織開発研究所代表）

第5回 11月28日「病棟管理等の評価」

講師／服部玲子（三菱神戸病院看護部長）

第6回 12月1日「看護管理」  
 講師／林 千冬（神戸市看護大学教授）  
 2006（平成18）年度 参加者／39名  
 ※以下前年度と異なる研修のみ記載

第1回 9月7日「現場での部下の育成」  
 講師／多羅尾美智代（元 三木市民病院看護部長）  
 ※開催順序を変更

第2回 9月27日「看護管理」※開催順変更  
 講師／林 千冬（神戸市看護大学教授）

第3回 10月13日「病院組織と看護組織および  
 職場の活性化」※講師、開催順序を変更  
 講師／川島英樹（社団法人病院管理研究協会  
 調査部長）

第4回 10月25日「各種会議・カンファレンス  
 の持ち方、助言のしかた」※開催順序を変更  
 講師／杉野元子（看護組織開発研究所代表）

第5回 11月8日  
 「今後の医療情勢と医療運営」※講師、開催順  
 序を変更  
 講師／星 北斗（財団法人星総合病院副理事長）  
 「師長のリーダーシップ（最後の総まとめの意  
 味で）判断・決断等」※開催順序を変更  
 講師／杉野元子（看護組織開発研究所代表）

第6回 11月22日「病棟管理等の評価」※開催  
 順序を変更  
 講師／服部玲子（兵庫県看護協会常務理事）  
 2007（平成19）年度 参加者／36名  
 ※以下前年度と異なる研修のみ記載

第2回 9月28日「病棟管理等の評価」  
 ※開催順序を変更  
 講師／服部玲子（兵庫県看護協会常務理事）

第3回 10月19日  
 「病院組織と看護組織および職場の活性化」  
 ※講師を変更  
 講師／川島英樹（社団法人病院管理研究協会  
 調査部長）  
 講師／大蔵サチ子（元 関西医科大学附属男  
 山病院看護部長）

第6回 11月30日「看護管理」  
 ※開催順序を変更  
 講師／林 千冬（神戸市看護大学教授）  
 2008（平成20）年度 参加者／44名  
 ※以下前年度と異なる研修のみ記載

第3回 10月7日「病院組織と看護組織および  
 職場の活性化」※講師を変更  
 講師／大蔵サチ子（元 関西医科大学附属男  
 山病院看護部長）

第5回 11月12日「今後の医療情勢と医療運営」  
 ※講師を変更  
 講師／山岡義生（財団法人田附興風会医学研  
 究所北野病院院長）

2009（平成21）年度 参加者／44名

第1回 9月10日「目標管理」  
 講師／多羅尾美智代（元 三木市民病院看護部長）

第2回 10月14日「看護管理概論」  
 講師／林 千冬（神戸市看護大学教授）

第3回 10月30日「看護サービス」  
 講師／前田三枝子（関西看護医療大学看護学  
 部看護学科教授）

第4回 11月9日「看護組織論」  
 講師／大蔵サチ子（元 三木市民病院看護部長）



看護リーダーシップ研修

第5回 11月24日「師長のリーダーシップ」  
講師／杉野元子（看護組織開発研究所代表）

第6回 12月18日  
「医療情勢と医療運営」  
講師／行本百合子（第一東和会病院事務次長）

「医療安全」  
講師／三嶋明子（京都桂病院医療安全管理室  
室長）

◆看護リーダーシップ研修

2005（平成17）年度

卒後3年目限定コース

6月3日・6月14日 参加者／77名

講師／黒木保博（同志社大学文学部社会学部教授）

参加対象限定なしコース

6月30日・7月7日 参加者／82名

講師／立川義博（人材育成研究所所長）

2006（平成18）年度

卒後3年目限定コース

6月7日・6月16日 参加者／81名

参加対象限定なしコース

6月29日・7月6日 参加者／75名

※前年度と講師同じ

2007（平成19）年度

卒後3年目限定コース

6月8日・6月15日 参加者／80名

参加対象限定なしコース 7月5日・7月12日

参加者／79名

※前年度と講師同じ

2008（平成20）年度

卒後3年目限定コース

6月12日・6月19日 参加者／71名

講師／清野健太郎（Pure Field代表）

参加対象限定なしコース

7月1日・7月8日 参加者／89名

※前年度と講師同じ

2009（平成21）年度

卒後3年目限定コース

6月1日・6月9日 参加者／77名

参加対象限定なしコース

6月29日・7月6日 参加者／90名

※前年度と講師同じ

◆准看護師研修

2005（平成17）年度

8月23日 参加者／147名

「看護の動向」

講師／西城嘉子（京都府看護協会会長）

「コミュニケーション技法」

講師／多羅尾美智代（元 三木市民病院看護部長）

2006（平成18）年度

8月23日 参加者／94名

「看護の動向」

※前年度と講師同じ

「看護職としてのモチベーションを高めるために」

講師／多羅尾美智代（元 三木市民病院看護部長）

2007（平成19）年度

8月7日 参加者／97名

※前年度とテーマ・講師同じ

2008（平成20）年度

8月5日 参加者／122名

※前年度とテーマ・講師同じ

2009（平成21）年度

8月10日 参加者／115名



保健医療管理者養成講座入講式



管理者養成講座終講式

「看護の動向」

講師／杉田鈴子（京都府看護協会常任理事）

「看護職としてのモチベーションを高めるために」

※前年度と講師同じ

#### ◆看護補助者研修

※2005～2009年度までテーマ・講師が同じため、開催月・参加者数のみ記載

2005年度

4月11日 「接遇について」 参加者／84名

講師／立川義博（人材育成研究所所長）

2006年度 4月21日 参加者／82名

2007年度 4月18日 参加者／81名

2008年度 4月14日 参加者／92名

2009年度 4月14日 参加者／105名

## 保健医療管理者養成講座

病院管理の重責を担う管理職の経営・管理の技法の向上が強く求められるとともに、量的な充実も必要となってきている。その一方で、わが国では医療機関管理者の養成機関が少なく、特に働きながら学べる場が不足していることが現実である。

当協会では、会員施設の職員を対象とした経営管理に必要な基礎知識の習得と実践に役立つ応用能力を養う教育を継続実施することを目的に運営委員会を設け、大学教授のほか各分野における専門家を講師に迎え、専門的・実践的な講座を実施している。講座を開講して19年目を迎えた現在、345名が修了の認定を受けている。また、認定証の授与式を当協会の創立記念式典の際に執り行っている。

また、本講座を修了した保健医療管理士の組織「水

土会」が1998年（平成10年）の10月に発足し、活動を展開している。

〈カリキュラム〉

基礎／医療経済学、医療経営学、保健医療関連法規、保健医療政策、介護保険制度、社会保障、社会福祉、医学（療）概論、統計学、情報管理学、パソコン講座

経営（病院）管理／病院経営、病院組織、人事管理、財務管理、経営分析、医療紛争、リスクマネジメント、コーチング、医療物品管理

ヘルスケア管理／医療管理（総論・各論）

建築・設備／医療施設の建築・設備、医療施設

特別講座／医療をめぐる諸問題（5講座程度実施）

〈受講要綱〉

修業年限／1年

講義時間／水曜日（18：00～21：10）・土曜日（15：00～18：10）

応募資格／医療・福祉の経営・管理に関心のある者  
出願書類／願書・推薦書

納入金／年間360,000円（分納可）

受講会場／京都保健衛生専門学校

2005（平成17）年度

①第15期生入講式 4月16日 京都アスニー  
入講生 20名

入講記念特別講座 「顧客価値のブランドを高める医療管理者とは」

講師／高柳和江（日本医科大学医療管理学教室助教授）

- ②保健医療管理士認定式 11月25日 リーガロイヤルホテル京都  
第14期生23名に保健医療管理士の認定証を授与。
  - ③認定委員会 3月1日 京都府医師会館  
第15期受講生20名のうち、19名の修了を認定（うち1名は留年）。
  - ④終講式 3月25日 京都全日空ホテル
- 2006（平成18）年度
- ①第16期生入講式 4月15日 京都府医師会館  
入講生19名  
入講記念特別講座「日本医学の先達たち」  
講師／佐野 豊（京都中央看護専門学校学校長）
  - ②保健医療管理士認定式 11月17日 京都ホテルオークラ  
第15期生19名に保健医療管理士の認定証を授与。
  - ③認定委員会 3月7日 京都府医師会館  
第16期受講生19名の修了を認定。
  - ④終講式 3月24日 京都全日空ホテル
- 2007（平成19）年度
- ①第17期生入講式 4月21日 京都府医師会館  
入講生22名  
入講記念特別講座「コミュニケーションについて」  
講師／寺谷一紀（元NHKアナウンサー）
  - ②保健医療管理士認定式 11月16日 京都全日空ホテル  
第16期生19名に保健医療管理士の認定証を授与。
  - ③認定委員会 3月5日 京都府医師会館  
第17期受講生22名の修了を認定。
  - ④終講式 3月22日 京都全日空ホテル

- 2008（平成20）年度
- ①第18期生入講式 4月19日 京都府医師会館  
入講生17名  
入講記念特別講座「がんの予防医学」  
講師／渡邊 決（京都中央看護保健専門学校  
学校長）
  - ②保健医療管理士認定式 11月21日 京都ホテルオークラ  
第17期生22名に保健医療管理士の認定証を授与。
  - ③認定委員会 3月4日 京都府医師会館  
第18期受講生17名の修了を認定。
  - ④終講式 3月28日 京都全日空ホテル
- 2009（平成21）年度
- ①第19期生入講式 4月18日 京都府医師会館  
入講生25名  
入講記念特別講座「医療制度と京都府医師会活動」  
講師／森 洋一氏（京都府医師会会長）
  - ②保健医療管理士認定式 11月20日 京都ホテルオークラ  
第18期生17名に保健医療管理士の認定証を授与。
  - ③認定委員会 3月3日 京都府医師会館  
第19期受講生18名の修了を認定。
  - ④終講式 3月27日 京都全日空ホテル

## 医師臨床研修

2004年度に導入された医師臨床研修制度を一つの契機として、医師の地域や診療科ごとの偏在が顕在化してきており、これを是正するべく、厚生労働省は2010年度の実施に向けて同制度の見直しをおこない、2009年（平成21年）4月に改正省令を交付した。

しかし、見直しでは研修医定員総数の削減に加え、人口や医学部定員数などに基づき都道府県単位での研修医定員の上限枠が設定され、研修医の都市部から地方への誘導が図られることとなり、その結果、京都府では削減率が約30%にもなることが判明した。当協会が参画し、府内の医師不足への対応を協議している京都府医療対策協議会においても大変憂慮すべき問題として国に要望書を提出し、当協会としても、本見直しが特に京都府北部地域等の病院勤務医の不足に深刻な影響を与え、更に臨床研修病院の指定基準の見直しにより、地域医療を担う民間病院での臨床研修の機会が奪われるとして、国に再検討するようパブリックコメントを提出した。(内容は以下の通り)

このほか、京都府医療対策協議会では公的病院を中心に医師不足の対応が検討されているが、当協会は民間病院における医師不足対策の検討を求めている。また、京都府医師会の臨床研修制度検討委員会では研修医の育成を中心に検討がおこなわれており、委員を派遣して民間病院の立場から意見を述べている。

◆医師臨床研修制度の見直し(案)に対する意見・提言(2009年4月15日)

(序文略)

- 1 広域に医師を派遣している国立大学や地域の医師確保に貢献している公立医科大学などの医師派遣加算については、派遣実績(他府県を含む)を考慮した数とするとともに、募集定員の純増とすること。
- 2 臨床研修病院となっている民間病院の定員の削減は行わないこと。

- 3 近畿圏等のブロック単位で募集上限枠を設定すること。
- 4 全国を単位として実施されているマッチングについても、研修医の適正な配置に資するよう、ブロックごとのマッチングを含め、あり方を見直すこと。
- 5 臨床研修病院の指定基準については、臨床研修を行うために必要な症例数を現状どおりとし、指導体制についても義務規定としないこと。



## 16 病院経営に関する取組み

西暦2005年（平成17年）からの5年間は、長年に亘る医療費抑制政策に全国の医療機関が疲弊する中、“聖域なき構造改革”の一環として強行された“骨太の方針2006”〈社会保障費を5年間で1兆1000億円削減する政策の継続方針〉に、多くの真面目な医療人が精根尽き、世界に冠たる日本の医療制度の一角が大きく崩れ始めた、まさに“政策錯誤の時代”と言えよう。

即ち、2004年から開始された新医師臨床研修制度と、一般社会にその現実を理解されないハード且つハイリスクな診療科への回避等が相俟った、医師不足とその※偏在、並びに看護師数〈对患者数〉に偏重した診療報酬の改定に起因する、看護師不足とその※偏在が、大きな社会問題に発展し、民間病院が生き残りを掛けてその確保に翻弄される5年であった。

なおその間、第5次改正医療法が施行（2007年）され、後期高齢者医療制度（2008年）等の新しい政策もスタートしたが、抜本的な改革には程遠く、逆に2006年の診療報酬、介護報酬同時改定及び2008年の診療報酬改定により、多くの病院が徹底的なダメージを受けることとなった。

結果、このような医療情勢を背景に、2009年には歴史的な政権交代が現実のものとなり、直後の診療報酬改定も10年ぶりのプラス改定と大いに期待されたが、その引き上げ率は、僅か0.19%に終わり、文字通り“焼け石に水”の結末に至ることは、既知の通りである。

このように厳しい医療環境の中、京都私立病院協会においては、会員病院の経営の一助になることを願い、これまでの事業を踏襲する形で各種補助金制度の利用促進や融資制度の斡旋に努めるとともに、2002年度に発足させた未収金対策委員会を継続して、より発展的に企画し、用度委員会や購買担当者会議の活動をもって病院経営の効率化と安定化に傾注した次第である。

※偏在：〈官、民〉〈都会、地方〉〈病床規模（大、小）〉〈診療科〉等の較差の拡大

（理事 中谷泰幸）

### 民間病院に対する各種補助制度 および融資制度

1993年度にスタートした民間病院に対する国庫補助制度は、医療施設近代化施設整備事業を中心に時代にあったタイムリーな政策に応じて新たな制度を設けたり、補助要件を変更したり、メニューもかなり多様化してきた。また地方分権や三位一体改革な

どの行財政改革等により、補助金制度も大きく見直された。また2009年度には病院に勤務する個人に対しての補助を設けられるなど政治的影響力により、さまざまなスタイルの補助が出現した。

当協会は常に会員施設のニーズに合致する制度は

できるだけ獲得できるように行政との連携強化を心がけた。

#### ◆会員施設が受けた主な補助金

##### 2005（平成17）年度

- 1 医療施設近代化施設整備事業：
  - 2 病院 155,319千円
- 2 医療施設特殊診療部門運営費補助金
  - 1) 救急医療施設：19病院 68,627千円
  - 2) 在宅医療施設：5 病院 28,232千円
- 3 院内保育事業運営費補助金：
  - 19病院 84,003千円
- 4 高齢者等にやさしい医療施設整備促進事業補助金：
  - 11病院 5,393千円
- 5 救急病院運営事業補助金：54病院 27,000千円
- 6 アスベスト除去等整備費補助金：
  - 4 病院 4,847千円
- 7 看護師勤務環境改善施設整備費補助金：
  - 1 病院 20,917千円
- 8 小児医療施設設備費補助金：
  - 1 病院 16,800千円

##### 2006（平成18）年度

- 1 医療提供体制施設整備費補助金：
  - 2 病院 99,142千円
- 2 高齢者等にやさしい医療施設整備促進事業補助金：
  - 11病院 4,601千円
- 3 公的病院等特殊診療部門運営費補助
  - 1) 救急医療施設：19病院 34,089千円
  - 2) 在宅医療施設：5 病院 30,278千円
- 4 救急病院運営事業補助金：55病院 27,500千円
- 5 院内保育事業運営費補助金：
  - 21病院 84,192千円

##### 2007（平成19）年度

- 1 医療提供体制施設整備費補助金：
  - 2 病院 237,630千円
- 2 公的病院等特殊診療部門運営費補助
  - 1) 在宅医療施設：5 病院 30,852千円
- 3 救急医療提供体制整備促進事業費補助金：
  - 28病院 7,772千円
- 4 院内保育事業運営費補助金：
  - 29病院 99,097千円

##### 2008（平成20）年度

- 1 公的病院等特殊診療部門運営費補助：
  - 5 病院 26,759千円
- 2 救急医療提供体制整備促進事業費補助金（救急担当医師・看護師への研修補助）：
  - 27病院 8,957千円
- 3 院内保育運営費補助金：33病院 116,555円
- 4 救急救命士病院実習受入促進事業費補助金：
  - 10病院 5,865千円
- 5 小児救急医療体制強化支援事業費補助金：
  - 3 病院 21,161千円

##### 2009（平成21）年度

- 1 公的病院等特殊診療部門運営費補助金：
  - 5 病院 28,303千円
- 2 救急医療提供体制整備促進事業費補助金（救急担当医師・看護師への研修補助）：
  - 28病院 9,325千円
- 3 院内保育運営費補助金：
  - 36病院 148,821千円
- 4 救急救命士病院実習受入促進事業費補助金：
  - 12病院 7,633千円
- 5 小児救急医療体制強化支援事業費補助金：
  - 3 病院 21,055千円



購買担当者会議

- 6 救急勤務医・産科医等確保支援事業費：  
11病院 40,364千円
- 7 医療提供体制設備整備費補助金：  
1病院 5,481千円
- 8 新型インフルエンザ患者入院医療機関設備整備  
事業補助金（国庫1/2事業）：  
14病院 34,498千円
- 9 新型インフルエンザ対策事業費補助金（入院設  
備整備）：  
66病院 258,917千円
- 10 新型インフルエンザ対策事業費補助金（高次医  
療機関機能強化）：  
9病院 116,129千円
- 11 療養病床あんしん確保緊急対策事業費（がんば  
る医療療養病床支援）：  
16病院 17,674千円
- 12 療養病床あんしん確保緊急対策事業費（さきが  
け医療療養病床支援）：  
1病院 1,405千円  
（※全て交付決定額）

#### ◆京都府救急告示病院等運転資金融資制度

2003年度より融資限度額が8,000万円（1法人で複数病院を有する場合は1億2,000万円）に引き上げられ、年1.5%であった融資利率が2007年度には年1.8%、2008年度には年2.0%と経済情勢の悪化にも関わらず引き上げられ、制度の利用が進まない状況となっている。2008年（平成20年）からは融資対象が追加された。当協会としては、毎年京都府への予算要望の際に低利融資、対象病院の拡大、融資限度額の増額が実現するよう要望を行っている。

#### ◆職員ローン

会員病院職員向けローンとして、京都中央信用金庫ではカードローン及び証書貸付、京都信用金庫では会員病院の幹部職員を対象とした証書貸付の融資がおこなわれているが、多種多様な金融商品がある現在においては利用が少なくなっている。

### 用度委員会

2003年度より薬事委員会を発展的に解消し、医薬品・医療材料・医療機器・事務機器等に関する情報収集及び会員病院に対する情報提供を目的として、新しく用度委員会を発足させた。委員会は事務部門、放射線部門、臨床検査部門、臨床工学部門の委員および担当理事で構成され、各種調査の検討・実施を中心に運営を行った。しかし、当委員会で行っている調査については各専門分野を対象としたものが多く、また、調査結果についても各専門職種が集まる委員会で把握し、情報提供を行うことが効果的であると考えられるため、2009年度より用度委員会は廃止となり、今後、各種調査については他の各委員会で引継ぎ、必要に応じて実施する事となった。

#### ◆主な活動

- 2006年5月「医用機器における保守管理状況の実態調査」対象：臨床検査部門・臨床工学部門・放射線部門・内視鏡室
- 2007年3月「医薬品購入価格調査・医薬品購入等に係わる実態調査」対象：医薬品購入担当者
- 2007年11月「消耗品等価格調査」対象：臨床検査部門・臨床工学部門・放射線部門
- 2008年11月「医療材料価格調査」対象：購買担当者



未収金対策マニュアル



未収金対策マニュアル説明会

2009年6月「医薬品調査・医薬品購入等に係わる  
実態調査」対象：医薬品購入担当者

## ■ 購買担当者会議

1982年（昭和57年）に私病協と京都府病院協同組合との共同事業の一つとして発足した本会議は、2003年（平成15年）に用度委員会が発足したことに伴い、しばらく開催されていなかったが、2007年（平成19年）・2008年（平成20年）に、用度委員会と京都府病院協同組合の共催という形で開催した。

病院の経営環境は悪化の一途を辿り、各病院とも経費節減対策の一環として購買業務の見直しを行うなど経営改善への気運は益々高まってきている。会議は主に価格の情報交換と研修会（勉強会）を併合しながら企画し、そこでの成果は共同購入による安値安定供給の推進に大いに役立つとともに、各病院担当者への貴重な情報提供の場となった。

### ◆ 購買担当者会議の開催

2007年11月28日

- ①「BMRについて」 猿渡光洋（東京海上日動フ  
ァシリティーズ株式会社）
- ②AED、ディスポグローブ、真空採血管ホルダー、  
紙おむつなどの購入価格についての情報交換

2009年3月11日

- ①施設見学「関西電力株式会社 大飯発電所」
- ②講演会「地球温暖化と病院における省エネ対策」  
「地球温暖化の現状と社会情勢の動き」  
松村俊朗（関西電力株式会社京都支店）

## ■ 未収金対策委員会

長年に亘る医療費抑制政策により病院経営が一層厳しくなる中、それと同時に健康保険制度改革により患者負担も増加の一途を辿っている。こうした状況下で近年、病院経営に深刻な影響を与える問題としてクローズアップされてきている病院における窓口未収金の発生防止対策を検討すべく、未収金対策委員会を2002年（平成14年）8月に発足した。

これまで、外国人の医療費問題、国保資格証明者による未収金問題、窓口一部負担金未収問題等について検討を重ねてきた。

そして最近では、2007年（平成19年）9月に未収金の発生防止と発生後の対策の手引きとして、「未収金対策マニュアル」の発刊に伴い、「未収金対策マニュアル説明会」を開催し、2009年（平成21年）6月には会員病院の当該未収金を当協会で集約し、全国健康保険協会京都支部及び京都市国保に処分請求をおこす等、未収金問題の解決に向けて積極的な活動を続けている。

また、当委員会が一貫として主張している一部負担金の最終責任の帰属先は、保険者にあるという見解について厚労省は依然として認めることはなく、応召義務を課せられている医療機関との認識の違いが未だ問題の解決に至っていない大きな要因となっている。

今後の取り組みとしては、保険者徴収に固執するのではなく、一部負担金減免制度や高額療養費制度の利用により両者が協力関係を築いていくことがこの問題の解決への近道ではないかと考えている。



## 17 病院管理に関する取り組み

病院管理に関連する取り組みとしては、環境問題、情報システムの構築、医療の質の向上について、各委員会で検討がなされている。

環境問題委員会においては、私立病院協会創立45周年記念事業として行われた「環境宣言」について、その具体的な取り組み内容の検討と実施に関する実務的取り組みを行った。環境問題は、世界的規模で考えられているいわば人類にとっての最重要課題であるが、同時に、われわれ一人ひとりが取り組まなければ、解決につながらない問題である。医療機関は、感染性廃棄物だけでなく、温室効果ガスの排泄も多い業務形態を持つ。人々の健康を守る立場にあるわれわれ医療人が率先して環境問題に取り組むことの社会的意義は高い。今後も継続して、積極的な取り組みを行う。

病院機能向上委員会は、会員病院における医療機能の質の向上を目的として1996年に設置された。委員会は日本医療機能評価機構のサーベイヤーとして活躍している会員病院の医師、看護師、事務職を中心に構成され、医療機能評価事業の啓発をはじめ、その受審のための支援を行っている。2003年からは、「認定病院訪問勉強会」を実施するなど、新たな活動にも取り組んでいる。その結果、会員病院における認定病院の数は44となっている。

(副会長 松井道宣)

### 環境問題委員会

当委員会は2003年（平成15年）に入院環境整備委員会と感染性廃棄物処理問題委員会が統合され、環境問題全般を広く取扱うことを目的に設置された。この間、院内環境問題委員会などへの名称変更を経て、現在は環境問題委員会の名称で活動を行っており、禁煙推進などの院内環境問題や廃棄物処理、リサイクルなど地球環境問題にまでを対象に情報収集などを行っている。

2006年度までは病院寝具業者との関係をより良好に保つために、会員の要望・意見を寝具業者に伝えるなど活動を行ったほか、感染性廃棄物処理に伴う中間処理業者及び最終処分地の見学を行った。さらにリサイクル及びごみの減量化への取り組みについての研究も行った。また、リサイクルやごみの減量化への研究を継続して行い、病院に関わるリサイク

ル事例をもとに勉強会を実施した。

2007年度には、会員施設が環境問題へ取り組むにあたり、支援となるような当協会独自の環境基準や環境への取り組みに関するチェックリストの作成に向けて検討を行った。

2008年度は、当協会の創立45周年記念事業における重点テーマを「環境」とすることが提案されたことを受けて、当該事業での具体的な取り組みを検討し、その都度45周年記念事業検討委員会へ提案を行った。院内での環境への取り組みを促すべく、職員の意識の向上と具体的な取り組み例の提示を目的に「環境宣言チャレンジシート」を作成したほか、協会として環境問題にどのように取り組むかを示す環境宣言や、環境宣言への参加要件の策定案の検討のほか、ポスター公募やグッズ作成に向けて協議した。



環境キャンペーンポスター・プレート・シール



環境キャンペーン講演会



環境問題委員会施設見学

2009年度は環境キャンペーンを推進すべく、環境講演会や環境座談会の企画、会員施設の環境への取り組みに関するアンケート調査を実施するなど、環境キャンペーン事業の具体的内容を協議する場として活発に活動した。また、京都府の事業等にも積極的に協力し、京都府のエコポイントモデル事業や省エネアドバイザー派遣事業などの参加を会員へ呼びかけた。

環境問題対策については世界的に関心が高まっている分野であるといえ、今後、当協会が環境への取り組みを行ううえで当委員会の果たす役割はますます重要になると考えられる。

#### ◆主な活動

2005（平成17）年度（12月13日） 中間処理場（光アスコン）及び最終処分地（大阪湾広域臨海環境整備センター）見学

2007（平成19）年度 会員施設が環境問題へ取り組みにあたり、当協会独自の環境基準や環境への取り組みに関するチェックリストの作成に向けて検討を行った。

2008（平成20）年度・2009（平成21）年度  
環境キャンペーンの推進

- ・「環境宣言チャレンジシート」の作成
- ・環境宣言項目の作成
- ・環境ポスター公募に向けた検討
- ・キャンペーングッズの作成
- ・環境講演会の企画
- ・環境座談会の企画、調整
- ・環境への取り組み状況に関するアンケート調査の実施
- ・京都府、京都市の環境関連事業への協力

## ■ 病院機能向上委員会

会員病院の医療機能の質の向上を目指し1996年（平成8年）に当委員会が設置された。委員は日本医療機能評価機構のサーベイヤー（医師・看護師・事務長）を中心に構成されている。

定期的に講演会やセミナーを開催しているほか、2005年度は新評価体系4版から5版への評価判定項目の改定を機に2000年（平成10年）に作成した「業務マニュアル集」（病院経営管理に必要な文書類）の改訂作業を行い、「医療機能評価受審のための準備書類一覧」として完成させ、それに関する説明会を開催した。また、説明会参加者からの質問について検討を行い、「医療機能評価受審のための準備書類に関する説明会Q&A」を作成し、会員に配布した。その他、2007年度には会員施設の医療機能評価受審状況を把握するため、9月に医療機能評価受審に関するアンケート調査を実施した。

また、会員病院や関係団体への講師派遣や医療機能評価事業に関する会員への情報提供、受審相談についても随時対応している。

2010年3月現在、会員の認定状況は44施設となっている。

#### ◆主な活動

2005（平成17）年度

- ・「医療機能評価受審のための準備書類一覧」の作成
- ・「医療機能評価受審のための準備書類に関する説明会Q&A」の作成



病院機能向上委員会  
(医療機能評価受審セミナー)

### 医療機能評価受審のための準備書類一覧

- ・説明会 6月29日 京都府医師会館  
「医療機能評価受審のための準備書類 (Ver.5.0) に関する説明会」講師/当委員会委員
- ・医療機能評価認定病院「訪問勉強会」5組 (認定病院・参加病院)

### 2006 (平成18) 年度

- ・講演会 ※医療情報の在り方検討委員会と共催  
5月19日 京都府医師会館  
「個人情報保護法施行後の病院における情報管理の在り方～医療機能評価機構の立場も踏まえて～」 大道 久 (日本大学医学部医療管理学教室教授・日本医療機能評価機構理事・評価委員長)
- ・医療機能評価認定病院「第4回訪問勉強会」  
1組 (認定病院・参加病院)
- ・医療機能評価認定病院「第3回訪問勉強会」の総括として認定病院、参加病院のアンケート結果を私病報に掲載。

### 2007 (平成19) 年度

- ・医療機能評価受審に関するアンケート調査の実施

### ◆医療機能評価受審セミナーの開催

2007年2月27日 キャンパスプラザ京都

#### 第1部/講演

「病院機能評価の現況とVer.5.0のポイント」

講師：滝沢良明 (財団法人日本医療機能評価機構事業部長)

#### 第2部/パネルディスカッション

(各領域別のQ&A)

パネリスト：【診療部門】生野弘道 (財団法

人日本医療機能評価機構評価部会員)、【看護部門】大森綏子 (財団法人日本医療機能評価機構評価部会員)、【事務部門】佐々雄治 (財団法人日本医療機能評価機構評価部会員)

2009年5月19日 キャンパスプラザ京都

#### 第1部 「病院機能評価の現況とVer.6.0の概要」

講師/菅原浩幸 (財団法人日本医療機能評価機構事業推進部長)

#### 第2部 「各領域別の受審ポイント及びQ&A」

講師/【診療部門】伊藤和文 (財団法人日本医療機能評価機構評価部会員)、【看護部門】畠中智代 (財団法人日本医療機能評価機構評価部会員)、【事務部門】松山文治 (財団法人日本医療機能評価機構評価部会員)



# 18 税制問題への取り組み

医療機関を取り巻く税制は消費税、法人税、相続税等数多く存在する。特に消費税は医療機関そのものが最終消費者となる欠陥制度であり、消費税の増税論議が本格化する前に早く改める必要がある。このような不適切な制度を他の医療団体とともに国に対して粘り強く働きかけていくことが必要である。

(副会長 中野種樹)

## 税制

医療機関を取り巻く税の問題は、事業税、法人税、相続税等さまざまにあるが、とりわけ消費税は医療機関にとって損税となる実態が指摘され、病院経営にとって極めて深刻な影響を与え続けており、消費税導入以来、抜本的是正を訴えてきた。消費税に関しては増税の議論が続く中、現在の消費税制度を維持したまま税率がアップされれば、たちまち民間病院の経営は立ち行かなくなり、存亡の危機に立たされることになる。

2008年(平成20年)の近畿病院団体連合会において

は、現行の診療報酬にかかる消費税非課税を廃止し、最終消費者が負担すると消費税制度の趣旨にのっとり、正常課税にもどすよう「社会保険診療報酬にかかる消費税非課税制度の廃止を求める要望」を厚生労働大臣、財務大臣ほかに提出した。

今後も税制度にあるべき、公平で明瞭な仕組みの構築を求め、近畿病院団体連合会をはじめ、厚労省、財務省、日医や中央病院団体に働きかけていくことにしている。



## 19 福利厚生活動

会員病院で働く職員の福利厚生活動は、協会が行う重要な事業の一つである。創立以来毎年開催されている病院対抗野球大会と2009年度で32回を数える病院対抗女子バレーボール大会は協会の歴史あるイベントである。また2006年より新たに会長杯争奪フットサル大会が加わり、毎年恒例の協会主催のスポーツイベントは3大会を数えることになった。これらの大会を実施するに当たって、準備運営は実行委員会を組織し、運営費は京都府病院協同組合、株式会社公益社、株式会社セレマの協賛を得ている。

(副会長 中野種樹)

### 京都府知事杯争奪 病院対抗野球大会

京都私立病院協会の設立主旨の大きな柱のひとつに会員病院とそこで働く職員相互の親睦・福利厚生活動があげられる。その中で病院対抗野球大会は当協会が設立された翌年から開催され、まさに協会の歴史とともに歩んできたと言える。近年はスポーツ人口や競技団体が増え、特に京都市内でのグラウンドの確保が大変厳しい状況にあるが、行政側の配慮や実行委員・参加病院の協力を得て必要なグラウンドが確保できている。京都市横大路グラウンド、京都府太陽が丘グラウンド、京都府みどりヶ丘グラウンドを中心に開催している。今後は例年40台である参加病院数を更に増やし、病院間の交流の輪を広げていきたいと考えている。

第41回（2005年）参加43チーム

優勝／西陣病院

準優勝／第二岡本総合病院

第三位／相馬病院、桃仁会病院

第42回（2006年）参加43チーム

優勝／北山病院A

準優勝／第二岡本総合病院

第三位／桃仁会病院、洛和会音羽病院B

第43回（2007年）参加43チーム

優勝／桃仁会病院

準優勝／三菱京都病院

第三位／西陣病院、洛和会音羽病院B

第44回（2008年）参加42チーム

優勝／醍醐病院

準優勝／洛和会音羽病院B

第三位／西陣病院、北山病院A

第45回（2009年）参加45チーム

優勝／洛和会音羽病院B

準優勝／蘇生会総合病院

第三位／京都大原記念病院、三菱京都病院

### 京都府知事杯争奪 病院対抗女子バレーボール大会

京都私立病院協会の福利厚生活動のひとつであり、会員病院に勤務する女子職員を対象に開催されている。

近年、参加チームのレベル向上には目ざましいものがある。参加チーム数は減少傾向にあるものの、新規チームの参加もみられる。毎年、実行委員会で開催内容の検討を行い、審判員をはじめ関係者各位



京都市知事杯争奪病院対抗野球大会



京都市知事杯争奪病院対抗  
女子バレーボール大会



会長杯争奪病院対抗フットサル大会

の協力により3日間での開催（予選大会1日、決勝  
トーナメント2日）としている。

第28回（2005年）参加52チーム

優勝／京都下鴨病院

準優勝／蘇生会総合病院

第三位／医仁会武田総合病院A、北山病院

第29回（2006年）参加50チーム

優勝／京都下鴨病院

準優勝／医仁会武田総合病院A

第三位／宇治武田病院、蘇生会総合病院A

第30回（2007年）参加48チーム

優勝／宇治徳洲会病院

準優勝／京都南病院

第三位／千春会病院、京都下鴨病院

第31回（2008年）参加47チーム

優勝／宇治徳洲会病院

準優勝／小澤病院

第三位／医仁会武田総合病院、京都下鴨病院

第32回（2009年）参加42チーム

優勝／京都下鴨病院

準優勝／宇治徳洲会病院

第三位／京都南病院・京都民医連中央病院

今後も更に会員間の親睦と交流を深める機会とな  
ることが期待される。

第1回（2006年）参加48チーム

優勝／西陣病院

準優勝／京都南病院

第三位／京都九条病院

第2回（2007年）参加48チーム

優勝／桃仁会病院

準優勝／第二京都回生病院

第三位／洛和会音羽病院

第3回（2008年）参加59チーム

優勝／桃仁会病院

準優勝／西陣病院

第三位／京都回生病院A

第4回（2009年）参加55チーム

優勝／京都回生病院

準優勝／京都武田病院

第三位／醍醐病院

## 会長杯争奪 病院対抗フットサル大会

病院対抗フットサル大会は野球、バレーボール大  
会に次ぐ3番目の福利厚生事業として2006年（平成  
18年）にスタートした。会場はサンガタウン城陽の  
グラウンドを使用して、2日間の開催で実施している。  
毎回、多くのチームから参加を得て、徐々に会員へ  
定着してきたと思われる。



## 20 事務局体制

2005年（平成17年）4月の当協会事務局は、野村浩事務局長代理、富田昌則課長、津崎桂子主任、竹内 誠、城内康宏、水野志保、そして吉田多美事務局顧問の計7名の体制であった。関係団体の京都保健衛生専門学校、京都府病院協同組合、京都府病院厚生年金基金、京都中央看護保健専門学校の職員をあわせ総勢89名となる。

5団体の職員の賃金や労働条件については、時代に適合した賃金体系への見直しと職員の適材適所を念頭に積極的な人事異動を行うべく、2005年度より人事考課を行う新しい賃金制度に移行し、実施している。

2006年（平成18年）4月に、吉田事務局顧問の退職により新しく藤田直毅を採用。

2007年（平成19年）4月に、津崎桂子が課長に、竹内誠が主任に昇格。6月に野村浩事務局長代理の退職に伴い、新しく中久保真治を採用。7月より津崎桂子課長が事務局長に昇格。

2008年（平成20年）11月に人事異動で富田昌則を京都府病院協同組合に転籍、竹内誠主任が課長に昇格。

また、2009年（平成21年）4月には、京都保健衛生専門学校の看護学科二年課程（定時制）が閉科になり、あわせて看護教員の減少等により、関係団体全職員数は73名となった。

2010年（平成22年）1月に新たに久保川悦子、岩橋篤宏を採用し、城内康宏が退職した。2月に岩橋篤宏が退職。

関係5団体がおかれている状況は、活動の基である京都の民間病院の状況を反映し、いずれも厳しい運営状況におかれているが、各関係団体の役員には私病協の執行部からの役員派遣を行い、またそれぞれの事務局責任者が頻回に会議を持つなど連携を強化し、協力関係を保ちながら組織運営を行っている。

（事務局長 津崎桂子）



事務局職員



京都府医師会館（事務局）



## 21 公益法人制度改革への対応

---

公益法人制度改革関連三法が2008年（平成20年）12月1日から施行され、社団法人と財団法人は2013年（平成25年）11月30日までに申請を行い、公益法人の認定又は一般法人の認可を受けることが必要となった。移行期間満了日までに移行申請のない法人、移行が認められなかった法人は移行期間の満了日に解散したものとみなされる。

社団法人格を有している当協会では、制度改革に対応するため、2009年度より会長・副会長で構成する「公益法人制度改革検討委員会」を設置し、改革に伴う検討課題の把握に努めるとともに、今後の協会のあり方について検討を行い、協会組織の根幹となる新定款の作成に着手している。

（事務局）

## ■ 京都保健衛生専門学校



急速な少子高齢化の波は大きな波紋となって、私たちに押し寄せている。中でも少子化の波は受験層の減少という大きな課題となっている。また、規制緩和により大学の急増、看護学部増設は毎年行なわれている。高校生減少と大学定員増加により2007年（平成19年）、大学全入時代が到来した。しかし、厚生労働省管轄の医療系専修学校の規制は厳しく、2006年（平成18年）9月近畿厚生局による「定期指導調査」を受け、入学定員・学年定員・総定員の厳守を改めて示された。また、入学辞退者の学納金返還訴訟の最高裁判決が11月にあり、入学金以外の返還が決まった。

2006年度に学校理念の制定を行い「心豊かな医療人の育成」とした。また、各種規定類の整理を行いより透明性の高い学校へと進んでいる。

2007年度の入学試験において、第一臨床検査学科の定員割れがおこった。学校運営において大きな痛手となり、2008年度以降の学校目標を「健全な学校運営と健全な経営にすため学生募集に全力をつくす」とし全教職員に徹底した。

学生募集活動と同時に学生満足度向上に取り組み、学生相談室の開設、サークル活動支援、学生食堂の設置など、学生生活がより良いものになるよう努力している。

また、学校運営は非常に厳しいものがあり、色々な面で節約を考えるようになった。その中での発想で「地球環境に配慮したエコロジー活動に取り組む」こととした。初めは、「あなたができるエコロジー」というアンケート調査から始まった。2009年度は京都私立病院協会45周年記念事業において「環境宣言」がなされ、本校も環境キャンペーンに参加している。

2008年度南館（新館）の空調設備が19年目を迎え耐久年数が大幅に超えていることから、5月から取替え工事を行なった。

また、地域への働きかけとして、市民公開講座の開設をし、本校に市民の皆さんが気軽に来ていただける取組みをしている。

### ◆ 学校法人役員・評議員

2005年（平成17年）3月5日から2007年（平成19

年) 3月4日まで5期の役員及び評議員選出が2005年(平成17年)3月3日に行われ、第3代理事長に清水紘理事が、第7代校長に大澤直理事が就任された。

6月には大澤校長が退任され、第8代校長に藤田洋一先生が就任された。

2007年(平成19年)3月5日から2009年(平成21年)3月4日まで第6期の役員・評議員の選出は2007年(平成19年)3月2日に行われ、第4代理事長に吉川順介評議員が就任した。

2009年(平成21年)2月25日、第7期理事・評議員を選出した。就任期間は2009年(平成21年)3月5日から2011年(平成23年)3月4日までである。中野博美理事・評議員が5月31日退任され新たな理事・評議員を選出した。

#### ◆◆学校法人役員・評議員の改選(2009.6)

理事長	吉川 順介(吉川病院)
理事長代理	武田 隆久(武田病院)
理事(校長)	藤田 洋一
理事	大川原康夫(愛生会山科病院)
理事	小森 直之(なぎ辻病院)
理事	近藤 泰正(堀川病院)
理事	富田 哲也(富田病院)
理事	中野 種樹(長岡病院)
理事	佐藤眞喜子(京都保健衛生専門学校)
監事	大橋 一郎(京都大橋総合病院)
監事	高松 恵美(京都成蹊法律事務所)

#### ◆◆看護学科新カリキュラムスタート

看護学科では2009年度より新カリキュラムがスタートした。新カリキュラムは、単位数が93単位から97単位へと4単位が増え、統合分野を新設された。本校では、将来看護の現場において患者の視点に立ち安心・安全で質の高い医療を提供できる人材の育成を目指して新カリキュラムを構築した。

#### ◆◆診療情報管理士の指定校の認可

2002年(平成14年)8月より日本病院会の診療情報管理士資格取得のための通信教育専門課程の編入

指定校となった。その後2006年(平成18年)2月1日に本校で必要な科目を履修することによって診療情報管理士の試験受験資格を得ることができる「診療情報管理士指定専門校」となった。この認可により第二臨床検査学科3年生は学内講義と臨地実習を経たのち試験を受験する。

#### ◆◆健康食品管理士の指定校の認可

健康食品管理士認定試験について2004年度より取り組んできた。健康食品管理士は健康食品の安全性知識の専門資格である。本校第一臨床検査学科は2007年(平成19年)3月に「健康食品管理士養成指定校」となった。

#### ◆◆臨床工学技士専攻科の国家試験合格率100%

1998年(平成10年)開講以来、国家試験合格率100%を続けている。2006年(平成18年)4月より定員を24名とした。2009年(平成21年)より教員の定員は4名となりより充実した学科運営をしている。

#### ◆◆看護学科二年課程の閉科(2009.3)

看護系養成所の一連のカリキュラム改定により、准看護師養成数が激減することになり、看護師二年課程の存立基盤が変わったことから、看護学科二年課程「全日制」は2005年度募集停止、2005年度末(2006年3月)閉科、「定時制」は2007年度募集停止、2007年度末(2008年3月)最後の卒業生41期生28名を送り出し閉科となった。堀川高等看護学院から45年の歴史に幕が下ろされ、胸につまるものがあった。5月には「45年のあゆみ」として閉科記念誌を発刊し、たくさんの方々から多くの原稿が寄せられ、歴史の重さを感じながらの編集となった。京都私立病院協会の全会員病院に送付した。



# ■ 京都中央看護保健専門学校

## 魅力的な看護学校をめざして



### ◆ 学校のいま

京都中央看護保健専門学校は、財団法人京都中央看護師養成事業団により1983年（昭和58年）に開校して、28年目を迎えた。2009年（平成21年）3月には1598名の卒業生を送り出した。2007年（平成19年）4月には看護保健課程・看護保健学科4年制（統合カリキュラム）に課程変更し、校名を「京都中央看護保健専門学校」に変更した。この統合カリキュラムは地域医療の視点を持ち人間性豊かな知識と技術をそなえた看護師、保健師の育成をめざすものであり、より優れた看護師、保健師を京都私立病院協会の各病院に送り出すことを願ったものである。

現在、医療を取り巻く変化は大きく、その中で看護教育も変化しているが、学校ではカリキュラムの検討を重ね教育の内容の向上を図っている。また卒業後継続教育も9回を数え離職防止にも役立つよう努力している。

また学生の教育環境の整備にも力を入れ、魅力的な学校づくりをめざしている。

### ◆ 校舎整備

2010年度は4学年が揃い、学生定員が320名になるため校舎が手狭であったが、2009年（平成21年）に隣接の京都府鍼灸マッサージ会館の取得を行い、名称を「東館」と改め、本館を含む大規模な改修工事を行った。東館は1階が図書室、2階が会議室、3階が講堂にした。また本館は4階講堂を教室と実習室に変更、2階図書室を教室に変更するとともに、教務室を移転するなど教育環境の向上を図った。

### ◆ 学生確保について

入学試験では専門学校は大学化、少子化のため受験生が減少傾向にあり、年度により受験者数の変動がある。そのため高校訪問、オープンキャンパス、学校説明会への参加、広報活動を行うとともに、社会人入試を行い、推薦入試を2回にするなど受験生確保に努めている。



講堂



図書館



東館

### ◆◆学校のこれから

看護専門課程（3年）の最後の卒業生が2009年（平成21年）3月に卒業し、その多くが私病協の会員病院に就職している。施設面では東館の完成により教育環境が整ってきたので有効な利用を行う。また、これからは学歴、年齢とも多様化する学生の教育にあたらねばならないが、私病協の会員病院と協力し、実習施設として指導、協力をお願いしながら病院が期待する質の高い、地域医療を担う看護師の教育を進めたい。

### ◆◆5年間の主な出来事

- |              |   |              |                           |
|--------------|---|--------------|---------------------------|
| 2005年（平成17年） | 4月  | 25期生入学       |                           |
| 3月           | 20期卒業                                     | 6月           | 真鍋克次郎理事長退任、出射靖生理事長就任      |
| 4月           | 23期生入学                                    |              |                           |
| 2006年（平成18年） |   | 2008年（平成20年） |                           |
| 3月           | 21期卒業                                     | 3月           | 23期卒業                     |
| 4月           | 24期生入学                                    | 4月           | 26期生入学                    |
| 6月           | 統合カリキュラムに変更のため「保健師養成所の指定承認申請」「学則変更承認申請」提出 | 2009年（平成21年） |                           |
| 7月           | 事業団役員任期満了に伴う役員改選                          | 3月           | 24期卒業（看護学科3年課程卒業生合計1598名） |
| 8月           | 本館空調機器改修工事                                | 4月           | 27期入学                     |
| 2007年（平成19年） |   | 7月           | 事業団役員任期満了に伴う役員改選          |
| 3月           | 22期卒業                                     |              | 隣接の京都府鍼灸マッサージ会館を購入        |
| 4月           | 看護保健課程・看護保健学科に課程変更し、「京都中央看護保健専門学校」に校名変更   | 10月～         | 東館（旧京都府鍼灸マッサージ会館）の改修工事    |

## 京都府病院協同組合



医療業界、特に病院を取り巻く経営環境はこの5年間厳しくなっても、好転することはありませんでした。原油の高騰やリーマンショック等、立ち直り掛けた日本経済はその都度、激震に見舞われました。その中でも、組合病院には協同組合に対して、いつもご支援、ご助言頂き感謝の念に堪えません。2008年（平成20年）に開催致しました恒例の病院まつりも3000人の来場者を迎え、成功裏に終了しました。又、損害保険代理店の損保事業は、医師賠償責任保険を扱うことにより、大きく変貌を遂げつつあります。今後とも、組合員のニーズに合った事業、タイムリーな協同組合運営を心掛けてまいります。

### ◆ 5年間の主な動き

- 2005年5月 第38回通常総会開催  
於：ホテル日航プリンセス京都
- 2005年3月 高度管理医療機器等の販売・賃貸業の許可の取得
- 2006年5月 第39回通常総会開催  
於：京都全日空ホテル  
吉川順介理事長退任、新理事長に中野種樹氏（長岡ヘルスケアセンター理事長）就任
- 2007年5月 第40回通常総会開催  
於：京都ブライトンホテル

- 7月 東京海上日動あんしん生命保険代理店取得
- 2008年2月 京都府医師会代理店（有）ケーエムエーと医師賠償保険を共同募集開始
- 5月 第41回通常総会開催  
於：京都ホテルオークラ
- 8月 私立病院協会45周年・病院協同組合40周年記念 病院協同組合まつり開催  
於：グランドプリンスホテル京都
- 2009年2月 感染性廃棄物処分場視察（私立病院協会事務長会常任委員会共催）  
光アスコン・大阪湾フェニックスセンター
- 3月 購買担当者会議施設見学（私立病院協会共催）  
関西電力大飯発電所
- 5月 第42回通常総会開催  
於：リーガロイヤルホテル京都
- 2010年3月 組合員数 138



病院協同組合まつり

# ■ 京都府病院厚生年金基金

“ゆとりある老後”と“業界の発展”は共通の願い！  
基金加入で『ゆとり』をプラス！



京都府病院厚生年金基金は、京都私立病院協会の会員病院に勤務する皆さんに手厚い年金を支給し、老後生活のお手伝いをしようとして1980年（昭和55年）11月に設立されました。公的年金を基礎とし、これに加算年金を上乗せ支給する企業年金制度のひとつです。

2010年（平成22年）11月で基金設立満30年を迎えることとなりますが、加入員数は設立当初68事業所5,953名から、平成22年3月末では、80事業所14,348名に増加しています。財政面でも年金資産360億円を保有し、加入員、受給者への年金・一時金給付のため安定した運用に努めています。

また、給付の面では年金受給者が4,000名を超え、基金としての役割も果たしてきているところです。

当基金の事業概要は次のとおりです。

## ◆ 基金の歩み

- 2004年 第5回財政再計算実施、厚生年金保険制度の法律改正（16年改正）
- 2005年 16年改正の施行（免除保険料率凍結解除・企業年金制度間のポータビリティの拡充等）、個人情報保護管理規程の策定、基金福祉事業の中止
- 2006年 ホームページ開設による広報強化（<http://www.kyoto-byoin-kikin.or.jp>）
- 2007年 受給者向けの広報誌「受給者だより」創刊  
16年改正の施行（離婚時の年金分割・受給

者申出による支給停止・70歳以上の在職高齢年金制度導入等）

- 2008年 基金の年金請求勧奨促進、加入者・待期者の住所把握管理開始  
社会保険庁医療保険部分分離「全国健康保険協会」発足
- 2009年 第6回財政再計算実施（厚生労働省による「財政運営の弾力化措置」発出）
- 2010年 社会保険庁廃止「日本年金機構」発足

## ◆ 役員・代議員の改選（任期2年）

- 2004年11月 大槻秧司理事長代理（亀岡病院）が、第13期理事長に就任
- 2006年11月 真鍋克次郎理事長代理（八幡中央病院）が、第14期理事長に就任  
理事長代理に、富士原正人理事（京都ルネス病院）就任
- 2008年11月 理事長・理事長代理とも留任

## ◆ 事業結果（2009年度末）

事業所数	80事業所
加入員	14,348名（男子3,786名、女子10,562名）
掛金収入	37億24百万円
年金支給	4,361名 14億60百万円
一時金支給	676名 2億9百万円
年金資産	387億円

# 年 表

年次	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと
2005 (平成17)	<p>6月 ・清水紘氏が新会長に就任</p> <p>7月 ・リハビリテーション帳票マニュアル（初版）の発行</p> <p>・「医療機能評価受審のための準備書類一覧統合版評価項目V5.0」を配布</p> <p>8月 ・介護保険施設等における居住費・食費の徴収に係る説明用パンフレット（兼院内掲示）および同意書の参考モデルを配布</p> <p>10月 ・第28回病院対抗女子バレーボール大会で京都下鴨病院が初優勝</p> <p>11月 ・個人情報保護法施行への対応に関するアンケートの実施</p> <p>12月 ・京都府赤十字血液センターでの輸血関連検査業務の受託終了について再考を要望</p>	<p>9月 ・第3次小泉内閣で第2次小泉改造内閣に続き、尾辻秀久氏が厚生労働大臣に就任</p> <p>10月 ・京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構が設立</p> <p>・介護保険施設の居住費および食費の利用者負担化</p> <p>・第3次小泉改造内閣で厚生労働大臣に川崎二郎氏が就任</p> <p>12月 ・医療制度改革大綱が決定</p> <p>・介護型療養医療施設 2011年度末で廃止へ 厚生労働省方針</p>
2006 (平成18)	<p>2月 ・介護療養型医療施設のケアマネジャーによる第1回目の意見交換会を開催</p> <p>・事務長会と看護部長会の共催で平成18年度診療報酬・介護報酬改定に係る研修会を開催。厚生労働省の三浦公嗣老人保健課長と麦谷真里医療課長が講演</p> <p>3月 ・感染症対策マニュアル（一部改訂版）の発行</p> <p>4月 ・平成18年度診療報酬（入院基本料）改定に対して厚生労働省に緊急要望</p> <p>・介護療養型医療施設の廃止並びに医療保険療養病床再編の再考を厚生労働省に要望（近畿病院団体連合会）</p> <p>・病院における消費税負担の解消を厚生労働大臣に要望（近畿病院団体連合会）</p> <p>・感染症対策マニュアル改訂版の発行</p> <p>・ICTパトロールチェック表の配布</p> <p>7月 ・当協会が介護サービス情報の公表調査機関として京都府知事の指定を受ける</p> <p>9月 ・都倉一郎氏（都倉病院）が救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞</p> <p>・中医協会長に手術に係る施設基準等の再設定に反対する要望書を提出</p> <p>10月 ・相馬秀臣元会長がご逝去</p> <p>・会長杯争奪第1回病院対抗フットサル大会を開催。西陣病院が優勝（以降、毎年開催）</p>	<p>2月 ・福島県立大野病院産科医逮捕事件</p> <p>3月 ・第4次京都府高齢者保健福祉計画（平成18年度～21年度）が策定</p> <p>・第3期京都市民長寿すこやかプランが策定（平成18年度～21年度）</p> <p>4月 ・診療報酬改定（△3.16%）、診療報酬本体部分の大幅マイナス改定（△1.36%）</p> <p>・レセプトオンライン請求義務化の施行</p> <p>・介護報酬改定（△0.5% [△2.4%] /在宅分△1%、施設分±0% [△4%]）※ [ ] は、平成17年10月改定を含めた率</p> <p>・改正介護保険法が施行</p> <p>・介護サービス情報の公表制度が施行</p> <p>・障害者自立支援法が一部施行（10月本格施行）</p> <p>・高齢者虐待防止・養護者支援法が施行</p> <p>7月 ・「骨太の方針2006」が閣議決定、社会保障費の伸びを2007年度から2011年度までの5年間で1兆1000億円抑制する削減目標が設定</p> <p>9月 ・安倍晋三内閣が発足。厚生労働大臣に柳澤伯夫氏が就任</p> <p>10月 ・区分領収証（医療費の内容の分かる領収証）の発行が義務化</p> <p>・療養病床に入院する高齢者の食費・居住費自己負担化（入院時生活療養費の創設）</p> <p>・保険外併用療養費制度（選定療養と評価療養）が導入</p>
2007 (平成19)	<p>3月 ・次期（平成21年度）診療報酬改定に向けて中医協会長に要望（近畿病院団体連合会）</p> <p>・京都保健衛生専門学校の二年課程全日制を廃止</p>	

年次	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと
2007 (平成19)	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策マニュアル（一部改訂版）の発行</li> <li>・医療機関・介護施設職員のための感染対策Q&amp;A集の発行</li> <li>・府民のための感染対策Q&amp;A集の発行</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都中央看護専門学校を京都中央看護保健専門学校に校名を改め、4年制の統合カリキュラムによる教育を開始し、保健師の養成も開始</li> <li>・京都府より平成16年度から18年度まで委託を受けて実施した院内感染対策推進事業を平成21年度まで3年間延長して受託</li> </ul> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師部会「ジェネリック医薬品の知識と評価ポイント」の発行</li> </ul> <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉医療機構の融資対象施設の拡大と条件緩和を厚生労働大臣等に要望</li> <li>・療養病床再編の再考を厚生労働大臣に要望</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション帳票マニュアル(一部改定版)を発行</li> <li>・未収金対策マニュアルの発行</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私病協が京都市の新規要介護認定に係る市町村事務受託法人として京都府知事の指定を受ける</li> <li>・私病協ホームページを全面リニューアル</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊疾患療養病棟入院料及び障害者施設等入院基本料の対象患者の見直しに対して厚生労働大臣等に要望</li> </ul>	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第五次医療法施行（4疾病5事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）対策の重点化、社会医療法人の創設、医療機能情報公表制度の実施等）</li> <li>・がん対策基本法施行</li> <li>・「終末期医療のガイドライン」が制定</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安倍改造内閣で舛添要一氏が厚生労働大臣に就任</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福田康夫内閣が発足</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都大学の山中伸弥教授らがiPS細胞を作り出したことを発表</li> <li>・日本救急医学会が「救急医療における終末期医療に関する提言（ガイドライン）」を公表</li> </ul>
2008 (平成20)	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府地域ケア確保推進指針(地域ケア整備構想)(中間案)に対して提言</li> </ul> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中野進元会長がご逝去</li> <li>・大槻秧司元会長が公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞</li> </ul> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護療養型老人保健施設の施設要件、介護報酬の見直しと療養病床の存続を厚生労働大臣等に要望</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務長会研修会で厚生労働省の原徳壽医療課長が平成20年度診療報酬改定について講演</li> <li>・大槻秧司元会長が瑞宝双光章を受章</li> <li>・藤田洋一京都保健衛生専門学校長が瑞宝小綬章を受章</li> <li>・京都府中期的な医療費の推移に関する計画(中間案)(京都府の医療費適正化計画)に対して提言</li> </ul> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梶並稔正理事がご逝去</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の医療の確保に関する法律第8条第1項の規定に基づき定める計画案(国の医療費適正化計画)に対して厚生労働省に要望</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション帳票マニュアル(全面改訂版)の発行</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都のタクシー団体にタクシーの全面禁煙化を要望</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度介護報酬改定に向けて厚労省介護給付費分科会長に要望</li> <li>・京都市病院群輪番制病院運営事業補助と京都中央看護師養成事業団への補助の減額に対して要望</li> </ul>	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健やか長寿の京都ビジョン～京都府保健医療計画～が策定(平成20年度～24年度)</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療報酬改定。診療報酬本体は+0.38%、薬価等は△1.2%で全体改定率は△0.82%</li> <li>・長寿(後期高齢者)医療制度が施行(老人保健制度が廃止)</li> <li>・特定健康診査・特定保健指導が開始</li> </ul> <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護従事者等の人材確保のための介護従事者等の処遇改善に関する法律が成立</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本とインドネシアの経済連携協定(EPA)の締結により、インドネシアの看護師・介護福祉士の候補者受け入れがスタート</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麻生太郎内閣が発足</li> <li>・米証券大手リーマンブラザーズが破綻。世界金融危機が急速に進行</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障国民会議が社会保障制度の拡充を求めた最終報告を公表</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公益法人制度改革関連三法(一般社団・一般財団法人法、公益法人認定法、関係法律整備法)が施行</li> </ul>

年次	協会のあゆみ	医療界と社会の主なできごと			
2009 (平成21)	1月	・第5次京都府高齢者健康福祉計画（中間案）に対して提言	1月	・第44代米大統領にオバマ氏が就任	
	2月	・武田隆男元会長がヘルシー・ソサエティ賞を受賞 ・京都未来まちづくりプラン案に対して京都市に提言 ・平成21年度介護報酬改定に伴う関係省令の一部改正等（介護報酬改定）について厚生労働省に要望 ・京都市病院事業改革プランに対して提言	3月	・第5次京都府高齢者健康福祉計画（平成21年度～23年度）が策定 ・第4期京都市民長寿すこやかプランが策定（平成21年度～23年度） ・医療法人の附帯業務が拡大（有料老人ホームの設置等）	
	3月	・京都保健衛生専門学校の二年課程定時制を廃止	4月	・介護報酬改定（+3.0%／在宅分+1.7%、施設分+1.3%） ・メキシコ・米国で新型インフルエンザの感染が確認。その後、日本でも感染が確認、拡大していく ・京都府療養病床あんしん確保緊急対策事業費補助金が施行	
	4月	・医師臨床研修制度の見直し（案）に対して厚生労働大臣に提言	5月	・日本とフィリピンの経済連携協定（EPA）の締結により、フィリピンの看護師・介護福祉士の候補者受け入れがスタート	
	5月	・感染症対策マニュアル（全面改訂版）の発行 ・医療安全対策マニュアル（全面改訂版）の発行 ・真鍋克次郎氏が新会長に就任 ・第35回通常総会で環境宣言を採択	9月	・自由民主党から民主党に政権交代し、鳩山由紀夫内閣が発足。厚生労働大臣に長妻昭氏が就任	
	6月	・京都私立病院報をB5版からA4版に、表紙をカラーページに変更	10月	・介護職員処遇改善交付金制度が開始 ・長妻厚労相が後期高齢者医療制度を2012年度末に廃止し、2013年度からの新制度への移行を発表	
	9月	・真鍋克次郎会長が救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞	11月	・京都府内全域で新型インフルエンザ警報が発令	
	10月	・平成22年度診療報酬改定の引き上げを厚生労働省に要望 ・救急医療の体制整備に関し、手厚い診療報酬を厚生労働大臣に要望 ・創立45周年記念事業としてハワイ医療事情視察旅行を実施 ・創立45周年記念事業として病院対抗ボウリング大会を京都市域と北部地区で開催 ・環境キャンペーン座談会を開催（真鍋会長、山田啓二知事、池坊由紀 華道家元池坊 次期家元）司会/松井道宣副会長			
	12月	・民主党に平成22年度診療報酬改定の引き上げを要望 ・健康保険の一部負担金未収の取扱いについて全国健康保険協会京都支部に提言			
	2010 (平成22)	1月	・放射線技師部会誌第8号を発行 ・京都市内の会員29病院で新型インフルエンザワクチン一斉接種を実施		
		2月	・伊藤誠一顧問が産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞		
		3月	・清水紘前会長が公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞 ・歴代会長による創立45周年記念座談会を開催（大川原康夫、武田隆男、大槻秧司、清水紘、真鍋克次郎）司会/出射靖生副会長		

# 京都私立病院協会 役員の変遷と業務分担

2005・2006年度		2007・2008年度	
会 長	清水 紘(嵯峨野病院)(2005.06～)	会 長	清水 紘(嵯峨野病院)
副会長	真鍋克次郎(八幡中央病院) 吉川順介(吉川病院) 中野種樹(長岡病院) 中野博美(京都きづ川病院) 出射靖生(京都回生病院)(2005.06～)	副会長	真鍋克次郎(八幡中央病院) 吉川順介(吉川病院) 中野種樹(長岡病院) 中野博美(京都きづ川病院) 出射靖生(京都回生病院)
理 事	岡本豊洋(第二岡本総合病院) 梶並稔正(西京都病院) 河端一也(新河端病院) 久野成人(久野病院) 小森直行(なぎ辻病院) 近藤泰正(堀川病院) 滋岡嘉弘(宇治黄檗病院) 清水鴻一郎(京都伏見しみず病院) 清水正啓(愛生会山科病院) 清水幸夫(シミズ病院) 相馬 靖(相馬病院) 武田隆久(医仁会武田総合病院) 谷 直介(北山病院) 戸津崎茂雄(京都南病院) 富田哲也(富田病院) 中谷泰幸(桑原病院～なぎ辻病院) 富士原正人(京都ルネス病院) 松井道宣(京都九条病院) 八木利之(洛和会音羽病院)(2005.06～)	理 事	秋山 仁(三菱京都病院)(2007.06～) 岡本豊洋(第二岡本総合病院) 梶並稔正(西京都病院)(～2008.05) 河端一也(新河端病院) 久野成人(久野病院) 小森直之(なぎ辻病院) 近藤泰正(堀川病院) 滋岡嘉弘(宇治黄檗病院) 清水 聡(京都南病院)(2007.06～) 清水鴻一郎(京都伏見しみず病院) 清水正啓(愛生会山科病院)(～2008.08) 清水幸夫(シミズ病院) 相馬 靖(相馬病院) 武田隆久(医仁会武田総合病院) 谷 直介(北山病院) 富田哲也(富田病院) 中谷泰幸(なぎ辻病院) 富士原正人(京都ルネス病院) 松井道宣(京都九条病院) 戸津崎茂雄(京都南病院)(～2007.05) 八木利之(洛和会音羽病院)(～2007.05)
監 事	大川原康夫(愛生会山科病院) 武田隆男(武田病院) 高松恵美(京都成蹊法律事務所)(2005.06～) 坂本正寿(京都成蹊法律事務所)(～2005.05)	監 事	武田隆男(武田病院)大槻秋司(亀岡病院)(2007.06～) 高松恵美(京都成蹊法律事務所) 大川原康夫(愛生会山科病院)(～2007.05)
<p>〈政策委員会〉 清水紘 真鍋 吉川 中野種 中野博 出射                  〈渉外・広報〉 清水紘 真鍋 清水鴻                  〈総務部〉 ◎真鍋 ○中野種 理事/小森 滋岡 谷 松井 事務                  長会/中谷 滋岡 八木 看護部長会/中野博 薬剤師部会/小                  森 放射線技師部会/富田 臨床検査部会/松井 栄養士部会/                  谷 リハビリテーション部会/河端 滋岡 地区別組織/京都市                  域一吉川 出射 北部地区一富士原 南部地区一中野博 医療従                  事者無料職業紹介事業運営委員会/滋岡 谷 病院医療制度検討                  委員会/真鍋 中野種 吉川 中野博 出射 武田 戸津崎 協                  会ホームページ、メールマガジン/小森 松井 地球環境問題/                  真鍋 中野種 松井 滋岡                  〈保険部〉 ◎真鍋 ○出射 理事/久野 中谷 富士原 診療報酬                  委員会/真鍋 富士原 中谷 介護保険委員会/出射 久野 介                  護報酬委員会/出射 松井 ケアマネジャー委員会/出射 久野                  京都府医師会との保険医療懇談会/真鍋 出射 富士原 介護サ                  ービス第三者評価事業/出射                  〈地域医療部〉 ◎真鍋(～2006.05) ◎中野博(2006.06～) ○吉川                  ○真鍋(2006.06～) 理事/清水正 清水幸 武田 戸津崎 救急                  医療検討委員会/中野博 武田 清水幸 感染症対策委員会/清                  水正 戸津崎 院内感染対策推進事業運営委員会/真鍋 清水正                  戸津崎 医療安全対策委員会/吉川 武田 清水正 医療情報の                  在り方検討委員会/中野博 戸津崎 清水幸 二次病院群輪番/                  京都市域一武田 山城北一中野博 小児救急医療電話相談事業/                  中野博                  〈学術研修部〉 ◎吉川 ○中野博 理事/河端 近藤 富田 京都                  病院学会理事会/真鍋 吉川 中野博 近藤 富田 河端 看護                  卒後教育検討委員会/中野博 保険医療管理者養成講座運営委員                  会/吉川順 中野博 近藤 河端 医師臨床研修/吉川 中野博                  河端 近藤 富田                  〈経営管理部〉 ◎出射 ○中野種 理事/岡本 梶並 清水鴻 相                  馬 八木 用度委員会/梶並 相馬 八木 未収金対策委員会/                  中谷 岡本 院内環境問題委員会/中野種 岡本 梶並 病院機                  能向上対策委員会/中野種 岡本 戸津崎 八木 危機管理/出                  射 中野種 岡本 梶並 清水鴻 相馬 八木                  〈厚生部〉 ◎中野種 ○吉川 理事/梶並 相馬 京都私立病院報                  編集委員会/中野種 梶並 相馬 野球大会実行委員会/相馬                  バレーボール大会実行委員会/梶並 フットサル大会準備委員                  会(2006.06～)/相馬                  〈学校の在り方検討会〉 吉川 中野種 中野博 出射 野村(事務局)</p>		<p>〈政策委員会〉 清水紘 真鍋 吉川 中野種 中野博 出射                  〈渉外・広報〉 清水紘 真鍋 清水鴻                  〈総務部〉 ◎真鍋 ○中野種 理事/小森 滋岡 谷 松井 地区                  別組織/京都市域一吉川 出射 北部地区一富士原 南部地区一                  中野博 職種・職務別組織/事務長会一中谷 滋岡 秋山 看護                  部長会一中野博 薬剤師部会一小森 放射線技師部会一富田 臨                  床検査部会一清水聡 栄養士部会一谷 リハビリテーション部                  会一河端 滋岡 医療従事者無料職業紹介事業運営委員会/滋岡                  谷 病院医療制度検討委員会/真鍋 中野種 吉川 中野博 出                  射 武田 富田 協会ホームページ/小森 松井 近畿病院団                  体連合会/委員会一清水紘 真鍋 吉川 中野種 中野博 出射                  事務長会一中谷 滋岡 秋山 四病院団体協議会/武田 小森                  〈保険部〉 ◎真鍋 ○出射 理事/久野 中谷 富士原 診療報酬                  委員会/真鍋 富士原 中谷 介護保険委員会/出射 久野 清                  水紘 介護報酬委員会/出射 久野 介護サービス第三者評価事                  業、介護サービス情報の公表事業/久野 清水紘 京都市新規                  介護認定調査事業(2007.06～)/出射 久野 清水紘 京都府医師                  会との保険医療懇談会/真鍋 出射 富士原                  〈地域医療部〉 ◎中野博 ○真鍋 ○吉川 理事/清水正 清水幸                  武田 清水聡 救急医療検討委員会/中野博 武田 清水幸 小                  児救急医療電話相談事業/中野博 二次病院群輪番制/京都市域                  一武田 山城北一中野博 感染症対策委員会/清水正 清水聡                  院内感染対策推進事業運営委員会/真鍋 清水正 清水聡 医療                  安全対策委員会/吉川 武田 清水正 医療情報の在り方検討委                  員会/中野博 岡本 清水幸                  〈学術研修部〉 ◎吉川 ○中野博 理事/河端 近藤 富田 京都                  病院学会理事会/真鍋 吉川 中野博 近藤 富田 河端 富士                  原(2008.06～) 看護卒後教育検討委員会/中野博 幹部教育(中                  堅幹部職員研修)/滋岡 中谷 初級教育/近藤 富田 北部一                  富士原 保険医療管理者養成講座運営委員会/吉川 中野博 近                  藤 河端 医師臨床研修/吉川 中野博 河端 近藤 富田                  〈経営管理部〉 ◎出射 ○中野種 理事/岡本 梶並 清水鴻 相                  馬 秋山 用度委員会/梶並 相馬 秋山 未収金対策委員会/                  中谷 岡本 環境問題委員会/中野種 松井 梶並 病院機能                  向上委員会/中野種 岡本 清水聡 秋山 危機管理/出射 中野                  種 岡本 梶並 清水鴻 相馬 秋山 税制・補助金/小森                  〈厚生部〉 ◎中野種 ○吉川 理事/梶並 相馬 京都私立病院報                  編集委員会/中野種 梶並 相馬 野球大会実行委員会/相馬                  バレーボール大会実行委員会/梶並 清水聡(2008.06～) フット                  サル大会実行委員会/松井                  〈創立45周年記念事業検討委員会〉(2008.06～) 清水紘 真鍋 吉川                  中野種 中野博 出射 中谷 滋岡(～2008.01) 秋山(2008.02                  ～)                  〈公益法人制度改革への対応〉(2008.06～) 清水紘 真鍋 吉川                  中野種 中野博 出射</p>	



2005(平成17)年度	2006(平成18)年度	2007(平成19)年度	2008(平成20)年度	2009(平成21)年度
清水 紘 — —	清水 紘 真鍋克次郎 —	清水 紘 真鍋克次郎 —	清水 紘 真鍋克次郎 —	真鍋克次郎 清水 紘(～2009.5) 真鍋克次郎(2009.6～)
清水 紘 真鍋克次郎 真鍋克次郎 吉川順介 真鍋克次郎 真鍋克次郎 出射靖生 — —	清水 紘 真鍋克次郎 真鍋克次郎 吉川順介 真鍋克次郎 真鍋克次郎 出射靖生 — —	清水 紘 中野博美 真鍋克次郎 吉川順介 真鍋克次郎 真鍋克次郎 出射靖生 中野博美 —	(～2008.9)清水 紘 中野博美 真鍋克次郎 吉川順介 真鍋克次郎 真鍋克次郎 出射靖生 — 中野博美 清水 紘 久野成人 清水正啓(～2008.8) 清水 聡(2008.9～)	武田隆久 — — 谷 直介 出射靖生 — 武田隆久 清水 紘 久野成人 清水 聡
清水 紘 出射靖生 清水正啓	清水 紘 出射靖生 清水正啓	清水 紘 出射靖生 清水正啓	中野博美 清水 紘 久野成人 清水正啓(～2008.8) 清水 聡(2008.9～)	— — — — —
富士原正人 — —	富士原正人 清水 紘 —	富士原正人 清水 紘 神田益太郎(医仁会武田総合)	富士原正人 清水 紘 神田益太郎(医仁会武田総合)	— 真鍋克次郎 —
中谷泰幸 — — — —	中谷泰幸 — — — —	中谷泰幸 — — — —	中谷泰幸 中野博美 田巻俊一(ラクトクリニック) 清水 紘 清水 紘 吉川順介 武田隆久	— — — 田巻俊一 真鍋克次郎 真鍋克次郎 吉川順介
吉川順介 — — —	— — — —	— — — —	中野博美 津崎桂子 —	— — — —
野村 浩 野村 浩 —	野村 浩 野村 浩 —	津崎桂子 —	津崎桂子 津崎桂子 —	— — —
吉田多美 吉川順介 清水正啓 中野博美 相馬 靖 中野博美 真鍋克次郎 吉川順介	吉田多美 吉川順介 清水正啓 中野博美 相馬 靖 中野博美 中野博美 武田隆久	津崎桂子 吉田多美 吉川順介 清水正啓 中野博美 相馬 靖 中野博美 中野博美 武田隆久	津崎桂子 津崎桂子 吉川順介 清水正啓(～2008.8) 中野博美 相馬 靖 中野博美 中野博美 武田隆久 河端一也	津崎桂子 津崎桂子 吉川順介 清水 聡 武田隆久 相馬 靖 武田隆久 清水幸夫 武田隆久 河端一也
廣瀬賀子(介護老人保健施設 博寿苑) 大城春美(京都民医連中央) 坂田芳明(愛生会山科) 稲岡秀陽(京都九条) 阿瀬小治(シミズ) — — — —	廣瀬賀子(介護老人保健施設 博寿苑) 大城春美(京都民医連中央) 坂田芳明(愛生会山科) 稲岡秀陽(京都九条) 阿瀬小治(シミズ) — — — —	稲岡秀陽(京都九条) 阿瀬小治(洛西ニュータウン) 坂田芳明(愛生会山科) 原 弘明(京都桂) 松本行治(金井) — — — —	稲岡秀陽(京都九条) 阿瀬小治(洛西ニュータウン) 坂田芳明(愛生会山科) 原 弘明(京都桂) 松本行治(金井) 清水 紘 — — —	稲岡秀陽(京都九条) 朴 容成(西京都) 坂田芳明(愛生会山科) 松本行治(金井) 牧野荒太郎(愛寿会同仁) 真鍋克次郎 津崎桂子 武田隆久
赤松春義(宇治病院) 清水 紘 真鍋克次郎 清水 紘 —	武田隆男 赤松春義(宇治病院) 清水 紘 真鍋克次郎 清水 紘 —	— — — —	— — — —	— — — —
武田隆久 小森直之 中野種樹 岡本豊洋 清水 紘 真鍋克次郎 真鍋克次郎 吉川順介 中野博美 清水鴻一郎 中野博美 近藤泰正 吉川順介 中野博美 中野博美 —	武田隆久 小森直之 中野種樹 岡本豊洋 真鍋克次郎 吉川順介 中野博美 清水幸夫 河端一也 中野博美 近藤泰正 武田隆久 中野博美 — 清水 紘 —	清水 紘 真鍋克次郎 清水 紘 出射靖生 武田隆久 小森直之 中野種樹 岡本豊洋 真鍋克次郎 吉川順介 中野博美 清水幸夫 河端一也 — — — —	清水 紘 真鍋克次郎 清水 紘 出射靖生 武田隆久 小森直之 中野種樹 岡本豊洋 久野成人 吉川順介 中野博美 清水幸夫 河端一也 — — — —	清水 紘 真鍋克次郎 清水 紘 出射靖生 武田隆久 小森直之 — 中野種樹 岡本豊洋 久野成人 岡本豊洋 吉川順介 武田隆久 清水幸夫 河端一也 — — — —
河端一也 滋岡嘉弘 出射靖生 久野成人 — —	— — — —	— — — —	— — — —	— — — —
久野成人	久野成人	久野成人	勝見泰和(宇治武田) 富士原正人 久野成人	勝見泰和(宇治武田) 富士原正人 久野成人

## 各委員会委員名簿 (2005～2009)

◎=部長または委員長、○=副委員長、( )内は所属する施設名

※当事者のみによる会合等は除外しました。前掲の業務分担で確認してください。

### ●事務長会常任委員会 (部会別)

05・06年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) 【経営部】○田中秀和(京都博愛会) 山本勝美(京都南) 秋山 仁(三菱京都) 蔭山嘉英(比叡) 岸本啓介(京都民医連中央) 寺田次輝(蘇生会総合) 樋口雅信(八幡中央) 八木利之(洛和会音羽) 【保険部】○永井佑二(京都九条) 茨木孝二(亀岡) 浅田 淳(長岡) 鈴木秀哉(京都南西) 高田浩之(木津屋橋武田) 竹山裕治郎(第二岡本総合05.9～) 土居 皓(松ヶ崎記念) 馬場正昭(第二岡本総合～05.6) 見野和子(久野) 【労務部】○滋岡嘉弘(宇治黄檗) 中江美隆(丹後中央) 岡野昌夫(愛寿会同仁) 滝川和信(岩倉) 中井洋一(京都桂) 村上武司(もみじヶ丘) 山田正明(堀川) 渡辺高志(金井)

07・08年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) 【経営部】○田中秀和(京都博愛会～08.5)○山本勝美(京都南) 秋山 仁(三菱京都) 伊藤邦治(西陣07.6～) 内田 寛(京都民医連中央08.1～) 蔭山嘉英(比叡) 岸本啓介(京都民医連中央07.11～) 北村智明(愛生会山科08.9～) 白井秀朗(富田08.6～) 寺田次輝(蘇生会総合～08.5) 樋口雅信(八幡中央～08.2 京都八幡08.3～) 八木利之(洛和会音羽～07.5) 【保険部】○永井佑二(京都九条) 茨木孝二(亀岡) 浅田 淳(長岡) 鈴木秀哉(京都南西) 高田浩之(木津屋橋武田) 竹山裕治郎(第二岡本総合) 土居 皓(松ヶ崎記念) 見野和子(久野) 【労務部】○滋岡嘉弘(宇治黄檗) 中江美隆(丹後中央) 岡野昌夫(愛寿会同仁～07.3) 北岸智志(洛和会音羽07.6～) 滝川和信(岩倉) 中井洋一(京都桂) 村上武司(もみじヶ丘～08.12) 山田正明(堀川) 渡辺高志(金井)

09年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) 【経営部】○山本勝美(京都南) 秋山 仁(三菱京都) 伊藤邦治(西陣) 内田 寛(京都民医連中央) 蔭山嘉英(比叡) 北村智明(愛生会山科) 白井秀朗(富田) 樋口雅信(京都八幡) 【保険部】○永井佑二(京都九条) 茨木孝二(亀岡) 浅田 淳(長岡) 鈴木秀哉(京都南西) 高田浩之(木津屋橋武田) 竹山裕治郎(第二岡本総合) 土居 皓(松ヶ崎記念～09.5) 見野和子(久野) 山田剛(松ヶ崎

記念) 【労務部】○滋岡嘉弘(宇治黄檗) 中江美隆(丹後中央) 北岸智志(洛和会音羽) 滝川和信(岩倉) 田口健治(もみじヶ丘09.3～) 中井洋一(京都桂) 山田正明(堀川) 渡辺高志(金井)

### ●看護部長会

05・06年度 【総務委員会】◎澤井美智子(第二岡本総合) 井川一枝(宇治黄檗06.6～) 加藤泰子(京都南西) 小松美幸(宇治武田06.6～) 高尾幸栄(堀川～06.3) 高安郁代(原田) 寺口淳子(京都南) 西岡和子(京都武田) 山名千代(西陣) 【教育推進委員会】◎西岡和子(京都武田) ○高尾幸栄(堀川～06.3) ○高安郁代(原田) ○寺口淳子(京都南) 新井靖子(都倉) 井川一枝(宇治黄檗) 須川裕子(西京) 杉田鈴子(蘇生会総合06.6～) 高橋美津子(京都博愛会～06.5) 塚本美晴(武田) 中家志郎(岩倉) 中川美代子(西京都06.6～) 中村みのり(田辺中央) 花木美知代(NTT西日本京都05.8～) 原ムツ子(愛寿会同仁) 林千鶴子(京都桂18.6～) 高橋みどり(保健衛生～06.5) 谷川寛子(保健衛生06.6～) 浜崎美子(中央看護) 【福利厚生委員会】◎加藤泰子(京都南西) ○山名千代(西陣) 大滝久枝(第一岡本) 海老成子(金井) 小松美幸(宇治武田) 澤井利子(共和病院) 永野裕子(城北06.6～)

07・08年度 【総務委員会】◎西岡和子(京都武田) 井川一枝(宇治黄檗～07.11) 海老成子(金井) 加藤泰子(京都南西) 小松美幸(宇治武田) 澤井美智子(第二岡本総合) 須川裕子(西京) 寺口淳子(京都南) 林千鶴子(京都桂08.6～) 【教育推進委員会】◎澤井美智子(第二岡本総合) ○寺口淳子(京都南) ○須川裕子(西京) 天達節子(石野～08.11・08.12～脳神経リハビリ北大路) 新井靖子(都倉) 井川一枝(宇治黄檗～07.11) 岩井和美(日本パプテスト08.6～) 大山清美(大島08.6～) 杉田鈴子(蘇生会総合～08.5) 塚本美晴(武田～08.7) 中川美代子(西京都) 中村みのり(田辺中央～08.3) 花木美知代(NTT西日本京都～08.3) 長谷川寿子(京都博愛会08.6～) 林千鶴子(京都桂) 真澄八恵子(京都大橋総合

08.6～) 矢田貴子(堀川) 谷川寛子(保健衛生)  
池西静江(中央看護～08.5) 山室仁美(中央看護08.6～) 【福利厚生委員会】◎海老成子(金井)  
○加藤泰子(京都南西) 大滝久枝(第一岡本)  
小松美幸(宇治武田) 澤井利子(共和) 永友シマ子(洛西シミズ) 永野裕子(城北)

09年度 【総務委員会】◎寺口淳子(京都南) 海老成子(金井) 小松美幸(医仁会武田総合) 須川裕子(西京) 澤井美智子(第二岡本総合) 西岡和子(京都武田) 林千鶴子(京都桂) 矢田貴子(堀川) 【教育推進委員会】◎須川裕子(西京) 澤井美智子(第二岡本総合) 西岡和子(京都武田) 矢田貴子(堀川) 天達節子(脳神経リハビリ北大路) 岩井和美(日本パプテスト) 中川美代子(西京都) 長谷川寿子(京都博愛会) 林千鶴子(京都桂) 真澄八恵子(京都大橋総合) 岡むつ美(保健衛生) 山室仁美(中央看護) 【福利厚生委員会】◎海老成子(金井) 小松美幸(医仁会武田総合) 大滝久枝(第一岡本) 大山清美(大島) 澤井利子(共和) 永友シマ子(洛西シミズ) 永野裕子(城北)

#### ●薬剤師部会運営委員会

05・06年度 ◎大西敏之(宇治武田) ○安馬知子(北山05.12～) ○友沢明德(京都九条) 太田垣昌志(武田) 白波瀬芳美(新河端) 妻谷多美代(宇治徳洲会) 長谷部みどり(吉祥院～05.10 京都民医連中央05.11～) 益野秀樹(久野06.8～) 村上恒男(三菱京都) 森下菊雄(京都南)

07・08年度 ◎大西敏之(宇治武田) ○友沢明德(京都九条) 太田垣昌志(東山武田) 白波瀬芳美(新河端) 妻谷多美代(宇治徳洲会) 橋元誠(三菱京都08.2～) 長谷部みどり(京都民医連中央) 益野秀樹(久野) 村上恒男(三菱京都～07.12) 森下菊雄(京都南)

09年度 ◎大西敏之(宇治武田) ○友沢明德(京都九条) 太田垣昌志(東山武田) 清水泰明(京都南09.6～) 白波瀬芳美(新河端) 妻谷多美代(宇治徳洲会) 橋元誠(三菱京都) 長谷部みどり(京都民医連中央) 益野秀樹(久野) 森下菊雄(京都南～09.5)

#### ●放射線技師部会

05・06年度 ◎志垣隆一(宇治徳洲会) 岩崎和幸(十条リハビリテーション) ○梅村賢仁(富田) 井上幹也(三菱京都) 内尾孝経(新河端) 小西宏樹(洛和会音羽) 原田修(第二岡本総合) 横瀬圭三(亀岡シミズ) 渡里弘(京都九条)

07・08年度 ◎岩崎和幸(十条リハビリテーション) ○井上幹也(三菱京都) ○内尾孝経(新河端) 梅村賢仁(富田～07.8) 金山靖人(京都博愛会08.3～) 志垣隆一(宇治徳洲会) 原田修(第二岡本総合) 前田通博(洛和会音羽) 横瀬圭三(亀岡シミズ) 渡里弘(京都九条)

09年度 ◎岩崎和幸(十条リハビリテーション) ○井上幹也(三菱京都) ○内尾孝経(新河端) 金山靖人(京都博愛会) 志垣隆一(宇治徳洲会) 原田修(第二岡本総合) 宮本健一(洛和会音羽) 横瀬圭三(洛西シミズ) 渡里弘(京都九条)

#### ●臨床検査部会

05・06年度 ◎福井英人(堀川) ○小坂明(久野) ○林雅弘(相馬) 鮎川宏之(医仁会武田総合06.1～) 石田洋一(京都保健衛生専門学校) 真田佳典(京都九条06.1～) 塩貝邦夫(三菱京都～05.12) 豊山浩祥(京都桂) 松林英樹(京都南) 山口俊朗(京都民医連中央)

07・08年度 ◎山口俊朗(京都民医連中央) ○林正広(相馬) ○豊山浩祥(京都桂) 石田洋一(京都保健衛生専門学校) 木村晃(久野) 工藤尚美(宇治) 真田佳典(京都九条) 西川広(堀川) 西村和司(武田)

09年度 ◎山口俊朗(京都民医連中央) ○林正広(相馬) ○西川広(堀川) 石田洋一(京都保健衛生専門学校) 萩野和大(三菱京都) 木村晃(久野) 工藤尚美(宇治) 真田佳典(京都九条) 西村和司(武田)

#### ●栄養士部会運営委員会

05・06年度 ◎日野千恵子(京都民医連第二中央) ○平石宏行(京都桂) 赤尾志(宇治徳洲会) 蘆田良博(京都ルネス) 尾関道子(十条リハビリテーション) 亀田清子(醍醐) 小谷光里(三聖～06.10) 狭間逸子(賀茂～06.10)

07・08年度 ◎平石宏行(京都桂) ○赤尾志(宇

## 各委員会委員名簿 (2005～2009)

◎=部長または委員長、○=副委員長、( )内は所属する施設名

治徳洲会) 亀田清子(醍醐) 河本久美子(西陣)  
橋本眞由美(高雄) 林 優里(宇治武田)  
福島洋子(室町～08.4)

09年度 ◎平石宏行(京都桂) ○赤尾 志(宇治徳洲会) 亀田清子(醍醐) 河本久美子(西陣)  
橋本眞由美(高雄) 林 優里(宇治武田)

### ●リハビリテーション部会運営委員会

05・06年度 ◎大塚 晃(医仁会武田総合～06.2  
十条リハビリテーション06.3～) ○橋本幸典(京  
都大原記念) ○山中由美子(京都博愛会) 秋本  
喜英(武田) 植村健吾(シミズ) 大西武史(京  
都きづ川06.7～) 志藤良子(京都民医連第二中  
央) 田後裕之(第二岡本総合) 中平武志(京都  
きづ川～06.6) 西村ひろみ(洛和会音羽) 林可  
奈子(第二京都回生) 山田典子(京都南)

07・08年度 ◎大塚 晃(十条リハビリテーショ  
ン) ○橋本幸典(京都大原記念) ○山中由美子  
(京都博愛会) 秋本喜英(武田) 植村健吾(シ  
ミズ) 大西武史(京都きづ川) 加藤里美(第二  
京都回生08.4～) 志藤良子(京都民医連第二中  
央) 田子裕之(第二岡本総合) 西村ひろみ(洛  
和会音羽) 林可奈子(第二京都回生～08.3) 山  
田典子(京都南)

09年度 ◎大塚 晃(十条リハビリテーション)  
○橋本幸典(京都大原記念) ○山中由美子(京  
都博愛会) 秋本喜英(武田) 植村健吾(シミズ)  
大西武史(京都きづ川) 加藤里美(第二京都回生)  
志藤良子(京都民医連第二中央) 田後裕之(第  
二岡本総合) 西村ひろみ(洛和会音羽) 山田典  
子(京都南)

### ●創立45周年記念事業検討委員会

08・09年度 ◎清水 紘(～09.5) ◎真鍋克次  
郎(09.6～)(以上会長) 出射靖生 吉川順介  
中野種樹 中野博美(～09.5) 久野成人(09.6～)  
富士原正人(09.6～) 松井道宣(09.6～) 武田  
隆久(09.6～)(以上、副会長) 中谷泰幸 滋岡  
嘉弘(～08.1) 秋山 仁(08.2～)(以上、事務  
長会) 西岡和子 海老成子(以上、看護部長会)

### ●私病報編集委員会

05・06年度 ◎中野種樹(担当副会長) 梶並稔正  
相馬 靖(以上、理事) 岡野昌夫(～05.5) 鈴

木秀哉(05.6～) 見野和子(以上、事務長会派遣)  
倉田洋子 横尾重子(以上、看護部長会派遣)

07・08年度 ◎中野種樹(担当副会長) 梶並稔  
正(～08.5) 相馬 靖 鈴木秀哉 見野和子  
倉田洋子(～08.5) 横尾重子 杵岡則子(08.6～  
看護部長会派遣)

09年度 ◎中野種樹(担当副会長) 相馬 靖(担  
当理事) 鈴木秀哉 見野和子(～09.5) 白井秀  
朗(09.6～ 事務長会派遣) 横尾重子 杵岡則  
子(～09.9～) 中澤美知子(09.10～ 看護部長  
会派遣)

### ●無料職業紹介事業運営委員会

05・06年度 ◎谷 直介(担当理事) ○滋岡嘉  
弘(担当理事) 運営委員 渡邊高志(～06.5)  
中江美隆(06.6～)(以上、事務長会派遣) 高尾  
幸栄(～06.5) 澤井美智子(06.6～)(以上、看  
護部長会派遣) 野村 浩(事務局長補佐) 富田  
昌則(紹介責任者) 運営協力委員 妻谷多美代  
(薬剤師部会派遣) 井上幹也(放射線技師部会派  
遣) 林 雅弘(臨床検査部会派遣) 亀田清子(栄  
養士部会派遣)

07・08年度 ◎谷 直介(担当理事) ○滋岡嘉  
弘(担当理事) 運営委員 中江美隆 澤井美智子  
野村 浩(～07.6) 津崎桂子(07.7～ 事務局長)  
富田昌則(～08.10) 竹内 誠(08.11～ 紹介責  
任者) 運営協力委員 妻谷多美代 井上幹也  
林 雅弘 亀田清子

09年度 ◎谷 直介(担当理事) ○滋岡嘉弘(担  
当理事) 運営委員 中江美隆 澤井美智子 津  
崎桂子 竹内 誠 藤田直毅(09.12～ 紹介責  
任者) 運営協力委員 妻谷多美代 井上幹也  
林 雅弘 亀田清子

### ●病院医療制度検討委員会

05・06年度 ◎真鍋克次郎 中野種樹 吉川順介  
中野博美 出射靖生(以上、担当副会長) 武田  
隆久 戸津崎茂雄(～06.5) 富田哲也(06.6～)  
(以上、理事) 茨木孝二 瀬戸達雄(～05.5)  
竹山裕治郎(05.6～)(以上、事務長会派遣) 高  
尾幸栄(～06.5) 西岡和子 高安郁代(06.6～)  
(以上、看護部長会派遣) 安馬知子(～05.12)  
白波瀬芳美(06.6～)(以上、薬剤師部会派遣)

## 各委員会委員名簿 (2005～2009)

◎=部長または委員長、○=副委員長、( )内は所属する施設名

赤尾 志 (05.8～ 栄養士部会派遣)  
07・08年度 ◎真鍋克次郎 中野種樹 吉川順介  
中野博美 出射靖生 (以上、担当副会長) 武田  
隆久 富田哲也 (以上、理事) 茨木孝二 (～  
07.5) 竹山裕治郎 伊藤邦治 (07.6～) (以上、  
事務長会派遣) 西岡和子 高安郁代 (～07.5)  
海老成子 (07.6～) (以上、看護部長会派遣) 白  
波瀬芳美 (～07.5～) 友沢明德 (07.6～) (以上、  
薬剤師部会派遣) 赤尾 志

09年度 ◎真鍋克次郎 (～09.5) ◎出射靖生 (09.6  
～) 中野種樹 吉川順介 久野成人 (09.6～)  
富士原正人 (09.6～) 松井道宣 (09.6～) 武田  
隆久 (以上、副会長) 竹山裕治郎 伊藤邦治  
西岡和子 (～09.5) 海老成子 寺口淳子 (09.6～)

### ●医療事務専門委員会議

05・06年度 乾 均 (第二岡本総合06.3～) 黒田  
豊 (京都ルネス06.8～) 佐山博哉 (堀川06.3～)  
柴崎靖雄 (洛和会音羽) 高田浩之 (木津屋橋武田)  
田中 亨 (吉祥院) 林 幸且 (高雄～06.6) 林  
よし子 (京都きづ川06.3～) 東山和富 (愛生会  
山科) 安井秀志 (京都南～06.6) 山本光子 (宇  
治黄檗05.7～)

07・08年度 乾 均 (第二岡本総合) 黒田 豊 (綾  
部ルネス～08.10) 佐山博哉 (堀川) 柴崎靖雄  
(洛和会音羽～07.5) 高田浩之 (木津屋橋武田)  
田中 亨 (吉祥院) 林よし子 (京都きづ川) 東  
山和富 (愛生会山科) 村田昌史 (京都博愛会～  
07.1) 山本光子 (宇治黄檗) 寺田幸子 (西陣  
07.6～)

09年度～診療報酬委員会と統合

### ●診療報酬委員会

09年度 ◎富士原正人 (京都ルネス) ○中谷泰  
幸 (なぎ辻) 永井佑二 (京都九条) 高田浩之 (木  
津屋橋武田) 見野和子 (久野) 乾 均 (第二岡  
本総合) 佐山博哉 (堀川) 田中亨 (吉祥院)  
寺田幸子 (西陣) 早田昌史 (京都桂) 東山和富  
(愛生会山科) 船津智広 (京都九条) 増本隆弘  
(洛和会音羽)

### ●介護保険委員会

05・06年度 ◎出射靖生 ○河合敏之 (亀岡)  
久野成人 (久野) 清水保夫 (シミズ) 武田敏也

(京都武田) 土居 皓 (松ヶ崎記念) 岡野昌夫  
(愛寿会同仁) 川添チエミ (嵯峨野居宅介護支援  
事業所) 高橋美津子 (京都博愛会～06.9) 長谷  
川寿子 (京都博愛会06.9～) 松本恵生 (京都大  
原記念) 山本みどり (西陣) オブザーバー/京  
都府 京都市 京都府医師会 清水 紘 (嵯峨野)  
07・08年度 ◎出射靖生 (京都回生) ○久野成  
人 (久野) 清水保夫 (シミズ) 茨木孝二 (亀岡)  
土居 皓 (松ヶ崎記念) 丘 恵子 (高雄) 長谷  
川寿子 (京都博愛会) 川添チエミ (嵯峨野居宅  
介護支援事業所) 木下大作 (長岡08.8～) 丹上  
幸子 (長岡～08.7) 原田陽子 (第二久野) 松本  
恵生 (京都市岩倉地域包括支援センター) 山本  
みどり (西陣) オブザーバー/京都府 京都市  
京都府医師会 清水 紘 (嵯峨野)

09年 ◎久野成人 (久野) ○出射靖生 (京都回生)  
清水保夫 (シミズ) 茨木孝二 (亀岡) 山田 剛  
(松ヶ崎記念) 石田 満 (愛寿会同仁) 入場  
繁 (蘇生会総合病) 富岡章恵 (五木田) 長谷川  
寿子 (京都博愛会) 川添チエミ (嵯峨野居宅介  
護支援事業所) 木下大作 (長岡) 山本みどり (西  
陣) 原田陽子 (第二久野) 松本恵生 (京都市岩  
倉地域包括支援センター) オブザーバー/京都  
府 京都市 京都府医師会 清水 紘 (嵯峨野)

### ●介護報酬委員会

05年・06年度 ◎安藤良彦 (洛西ニュータウン)  
浅井武司 (介護老人福祉施設ヴィラ山科) 鈴木  
秀哉 (京都南西) 入場 繁 (蘇生会総合) 榎谷  
俊樹 (長岡京) 杉本賢昭 (高雄) 山内 均 (大  
原記念)

07・08年度 ◎安藤良彦 (京都博愛会) 杉本賢  
昭 (高雄) 鈴木秀哉 (京都南西) 入場 繁 (蘇  
生会総合) 榎谷俊樹 (長岡京)

### ●ケアマネジャー委員会

05年・06年度 ◎湯浅由美 (西陣介護保険相談室)  
○丹上幸子 (長岡) 今福夏美 (亀岡) 岩澤京子  
(嵯峨野居宅介護支援事業所) 内垣外実菜子 (蘇  
生会総合) 奥田清子 (宇治黄檗) 尾崎敏子 (久  
野～05.10) 原田陽子 (第二久野05.12～) 松岡  
悦子 (宇治居宅介護支援事業所～06.5)

●介護サービス第三者評価・介護サービス情報の公表

調査者・調査員／石田 満(愛寿会同仁) 泉佐和(田辺中央) 五十棲吉之(介護老人保健施設シミズふないの里) 磯部真理子(社団法人京都保健会) 稲岡秀陽(京都九条病院) 井上麻由美(学研都市病院) 岩澤京子(嵯峨野病院居宅介護支援事業所) 内海正広(老人保健施設しずはうす) 太田 互 大瀧久枝(第一岡本病院) 檜原 良(蘇生会総合病院) 叶 敦子(内浜診療所) 河合英子(第二南診療所) 川添チエミ(訪問介護事業所さかの) 河原英治(シミズ洛西デイサービスセンター) 小泉成子 小島早苗(志津川五和の園老人保健施設) 小中宏三(シミズ病院) 坂井加津美(北山病院) 佐々木理恵(総合ケアステーションわかば) 柴田節子 杵岡則子 高橋美津子(嵯峨野病院) 田畑博子(東山武田病院) 田村廣嗣(大島病院) 土屋佳苗(第二久野病院) 戸田光一(医療法人葵会) 中川礼子(六地藏総合病院) 永野裕子(城北病院) 中井裕征(第一岡本病院) 中村政一(中村病院) 中森京美(久御山南病院居宅介護支援センター) 野崎昭吾(蘇生会総合病院) 野原陽子(高折病院) 野村亘平(愛寿会同仁病院) 長谷川寿子(京都博愛会病院) 濱頭香里(第二南診療所) 原 康子(介護老人保健施設やすらぎ苑) 増田 典(愛生会山科病院) 松本恵生(京都市岩倉地域包括支援センター) 松本よしえ(介護老人保健施設醍醐の里) 夜久慎也(介護老人保健施設シミズひまわりの里) 山下浩子 山科三千代(久御山南病院居宅介護支援センター) 八幡じゅん(社団法人信和会) 行松美津子(上京病院) 吉田多美(医療法人啓信会) 竹内 誠(京都私立病院協会) 評価審査委員／中野かつら(特別養護老人ホーム サンフラワーガーデン) 福州 修(衣笠医院) 八崎幸子(介護老人保健施設萌木の村) 吉永光博(京都市嵐山地域包括支援センター)

●救急医療検討委員会

05・06年度 ◎中野博美(京都きづ川) 武田隆久(武田) 清水幸夫(シミズ) 石丸庸介(田辺中央) 安田冬彦(洛和会音羽) 寺田次輝(蘇生会総合) 山本勝美(京都南) 石原知世(宇治徳

洲会～06.5) 天達節子(脳神経リハビリ北大路06.6～) 林千鶴子(京都桂)

07・08年度 ◎中野博美(京都きづ川) 武田隆久(武田) 清水幸夫(シミズ) 石丸庸介(田辺中央) 安田冬彦(洛和会音羽) 寺田次輝(蘇生会総合～08.4) 北村智明(愛生会山科08.9～) 山本勝美(京都南) 天達節子(脳神経リハビリ北大路～08.4) 蛭原桂子(三菱京都08.7～) 大山清美(大島)

09年度 ◎武田隆久(武田) 清水幸夫(シミズ) 河端一也(新河端) 石丸庸介(田辺中央) 安田冬彦(洛和会音羽) 北村智明(愛生会山科) 山本勝美(京都南) 蛭原桂子(三菱京都) 大山清美(大島)

●感染症対策委員会

05・06年度 ◎清水正啓(愛生会山科) 戸津崎茂雄(京都南) 池田宣昭(医仁会武田総合) 大滝久枝(第一岡本) 宅和静枝(京都八幡) 塩貝邦夫(三菱京都～05.12) 真田佳典(京都九条06.4～)

07・08年度 ◎清水正啓(愛生会山科～08.8) ◎清水聡(京都南08.9～) 清水聡(京都南～08.8) 土井章一(京都桂) 甲斐純子(蘇生会総合08.11～) 大滝久枝(第一岡本) 真澄八恵子(京都大橋) 真田佳典(京都九条)

09年度 ◎清水聡(京都南) 土井章一(京都桂) 甲斐純子(蘇生会総合) 大滝久枝(第一岡本) 真澄八恵子(京都大橋) 小川恵美(京都民医連中央)

●院内感染対策推進事業運営委員会

05年度 ◎真鍋克次郎 ○清水正啓 池田宣昭(医仁会武田総合) 大滝久枝(第一岡本) 岡村康彦(京都透析医会・岡村医院) 小野朋子(京都精神病院協会・醍醐病院) 佐藤ひろ子(京都府病院薬剤師会・京都博愛会 05.7～) 塩貝邦夫(三菱京都～05.12) 下間正隆(京都府病院協会・京都第二赤十字) 宅和静枝(京都八幡) 戸津崎茂雄(京都南) 林田真由美(亀岡市立) 松井道宣(京都府医師会・京都九条) オブザーバー／一山 智(京都大学大学院医学研究科) 武田隆男(京都府 京都市)

06年度 ◎真鍋克次郎 ○清水正啓 青木 正  
(京都透析医会・西陣06.12～) 池田宣昭(医仁  
会武田総合) 大滝久枝(第一岡本) 岡村康彦(京  
都透析医会・岡村医院～06.11) 佐藤ひろ子(京  
都府病院薬剤師会・京都博愛会) 真田佳典(京  
都九条) 下間正隆(京都府病院協会・京都第二  
赤十字) 宅和静枝(京都八幡) 竹谷朋子(京都  
精神病院協会・醍醐) 戸津崎茂雄(京都南) 林  
田真由美(亀岡市立) 松井道宣(京都府医師会・  
京都九条) オブザーバー/一山 智(京都大学  
大学院医学研究科) 武田隆男 京都府 京都市

07年度 ◎真鍋克次郎 ○清水正啓 今田直樹  
(京都透析医会・西陣) 大滝久枝(第一岡本)  
甲斐純子(京都府病院薬剤師会・蘇生会総合) 真  
田佳典(京都九条) 清水 聡 下間正隆(京都  
府病院協会・京都第二赤十字) 竹谷朋子(京都  
精神病院協会・醍醐) 土井章一(京都桂)  
林田真由美(亀岡市立) 真澄八恵子(京都大橋  
総合) 松井道宣(京都府医師会・京都九条) オ  
ブザーバー/一山 智(京都大学大学院医学研究  
科) 武田隆男 京都府 京都市

08年度 ◎真鍋克次郎 ○清水正啓(～08.8)  
○清水 聡(08.9～) 今田直樹(京都透析医会・  
西陣) 大滝久枝(第一岡本) 甲斐純子(京都府病  
院薬剤師会・蘇生会総合) 真田佳典(京都九条)  
下間正隆(京都府病院協会・京都第二赤十字)  
竹谷朋子(京都精神病院協会・醍醐 ～08.7)  
谷川 徹(京都精神病院協会・北山08.11～) 土  
井章一(京都桂) 林田真由美(亀岡市立) 真澄  
八恵子(京都大橋総合) 松井道宣(京都府医師会・  
京都九条) オブザーバー/一山 智(京都大学  
大学院医学研究科) 武田隆男 京都府 京都市

09年度 ◎松井道宣(京都九条) ○清水 聡  
今田直樹(京都透析医会・西陣) 大滝久枝(第  
一岡本) 小川恵美(京都民医連中央) 甲斐純子  
(京都府病院薬剤師会・蘇生会総合) 下間正隆(京  
都府病院協会・京都第二赤十字) 谷川 徹(京  
都精神病院協会・北山) 土井章一(京都桂) 林  
田真由美(亀岡市立) 真澄八恵子(京都大橋総合)  
オブザーバー/一山 智(京都大学大学院医学研  
究科) 武田隆男(武田病院グループ) 京都府

京都市

## ●医療安全対策委員会

05・06年度 ◎武田隆久(医仁会武田総合) 吉  
川順介(吉川) 清水正啓(愛生会山科) 山田正  
明(堀川) 高岡みな子(京都回生) 森下菊雄(京  
都南) 志垣隆一(宇治徳洲会) 豊山浩祥(京都  
桂) 尾関道子(十条リハビリテーション) 橋本  
幸典(大原記念)

07・08年度 ◎武田隆久(医仁会武田総合) 吉  
川順介(吉川) 清水正啓(愛生会山科～08.8)  
山田正明(堀川) 高岡みな子(京都回生) 益野  
秀樹(久野) 志垣隆一(宇治徳洲会) 工藤尚美  
(宇治) 福島洋子(室町) 橋本幸典(大原記念)

09年度 ◎武田隆久(医仁会武田総合) 山田正  
明(堀川) 蒲田 史(宇治) 益野秀樹(久野)  
志垣隆一(宇治徳洲会) 真田佳典(京都九条)  
橋本真由美(高雄) 植村健吾(シミズ)

## ●医療情報の在り方検討委員会

05・06年度 ◎戸津崎茂雄(京都南) 中野博美(京  
都きづ川) 清水幸夫(シミズ) 山里有男(十条  
リハビリテーション病院 城北病院) 吉田 章  
(三菱京都病院) 岸本啓介(京都民医連中央)  
田中秀和(京都博愛会) 澤井美智子(第二岡本  
総合) 中川美代子(西京都)

07・08年度 ◎岡本豊洋(第二岡本総合) 中野  
博美(京都きづ川) 清水幸夫(シミズ) 岡田好  
一(武田病院07.6～) 吉田 章(三菱京都病院)  
内田 寛(京都民医連中央病院08.3～) 岸本啓介  
(京都民医連中央病院～07.11) 田中秀和(京都  
博愛会病院) 寺口淳子(京都南病院07.6～) 中  
川美代子(西京都病院)

## ●京都病院学会

第40回(2005) 【学会長】梶田芳弘(公立南丹)  
【副学会長】倉澤卓也(国立病院機構南京都) 真  
鍋克次郎(八幡中央) 【実行委員長】吉田 章(三  
菱京都) 【副実行委員長】中野博美(京都きづ川)  
【理事】杉野 成(京都府立洛東) 能見伸八郎(社  
会保険京都) 野口雅滋(京都桂) 吉川順介(吉  
川) 近藤泰正(堀川) 富田哲也(富田) 相馬  
靖(相馬) 【監事】齊田孝彦(国立病院機構宇多  
野) 清水幸夫(シミズ) 【実行委員】西田勇人(公

立南丹) 鈴木康晴(八幡中央) 須見豊美(公立南端) 木下明美(三菱京都) 澤井美智子(第二岡本総合) 寺口淳子(京都南) 森下菊雄(京都南) 林 彰彦(京都市立) 大野 進(医仁会武田総合) 尾関道子(十条) 新井 喬(宇治徳洲会) 並河 茂(京都市立) 竹内健二(大原記念) 高橋みどり(京都保健衛生専門学校) 泉田洋志(京都保健衛生専門学校) 浜崎美子(京都中央看護専門学校) 柳川育子(京都市立看護短期大学)

第41回(2006) 【学会長】真鍋克次郎(八幡中央) 【副学会長】中野博美(京都きづ川) 倉澤卓也(国立病院機構南京都) 【実行委員長】富田哲也(富田) 【副実行委員長】吉田 章(三菱京都) 【理事】吉川順介(吉川) 近藤泰正(堀川) 河端一也(新河端) 能見伸八郎(社会保険京都) 野口雅滋(京都桂) 向原純雄(京都市立) 監事 清水幸夫(シミズ) 梶田芳弘(公立南丹) 【実行委員】上見常吉(京都八幡) 岡 耕二(国立病院機構南京都) 寺口淳子(京都南) 西岡和子(京都武田) 岡田和子(国立病院機構南京都) 木下明美(三菱京都) 森下菊雄(京都南) 清井健司(京都市立第二中央) 大野 進(医仁会武田総合) 菅森悦子(第二京都回生) 新井 喬(宇治徳洲会) 麻田博之(蘇生会総合) 竹内健二(大原記念) 谷川寛子(京都保健衛生専門学校) 後藤直樹(京都保健衛生専門学校) 山室仁美(京都中央看護専門学校) 矢吹明子(京都市立看護短期大学)

第42回(2007) 【学会長】倉澤卓也(国立病院機構南京都) 【副学会長】吉田 章(三菱京都) 吉川順介(吉川) 【実行委員長】能見伸八郎(社会保険京都) 【副実行委員長】出射靖生(京都回生) 【理事】中島正継(京都第二赤十字) 野口雅滋(京都桂) 向原純雄(京都市立) 中野博美(京都きづ川) 近藤泰正(堀川) 河端一也(新河端) 富田哲也(富田) 【監事】梶田芳弘(公立南丹) 真鍋克次郎(八幡中央) 【実行委員】岡耕二(国立病院機構南京都) 鶴見眞二(吉川) 蛭原桂子(三菱京都) 岡田和美(国立病院機構南京都) 井川一枝(宇治黄檗) 西岡和子(京都武田) 岩澤京子(嵯峨野) 友沢明德(京都九条)

豊山浩祥(京都桂) 大野 進(医仁会武田総合) 藤村 泉(学研都市) 新井 喬(宇治徳洲会) 麻田博之(蘇生会総合) 坂 直美(京都民医連中央) 岡 むつ美(京都保健衛生専門学校) 桐明直美(京都保健衛生専門学校) 池西静江(京都中央看護保健専門学校)

第43回(2008) 【学会長】出射靖生(京都回生) 【副学会長】中野博美(京都きづ川) 能見伸八郎(社会保険京都) 【実行委員長】吉川順介(吉川) 【副実行委員長】中島正継(京都第二赤十字) 【理事】河端一也(新河端) 近藤泰正(堀川) 富田哲也(富田) 野口雅滋(京都桂) 向原純雄(京都市立) 内藤和世(府立与謝の海) 【監事】真鍋克次郎(八幡中央) 倉澤卓也(国立病院機構南京都) 【実行委員】西本俊治(京都回生) 白倉直樹(社会保険京都) 西岡和子(京都武田) 須川裕子(西京) 西岡春代(社会保険京都) 西谷葉子(京都第二赤十字) 川添チエミ(嵯峨野) 橋元 誠(三菱京都) 豊山浩祥(京都桂) 関本崇(医仁会武田総合) 米田知恵子(洛西ニュータウン) 新井 喬(宇治徳洲会) 麻田博之(蘇生会総合) 岡島規至(京都桂) 谷川寛子(京都保健衛生専門学校) 瀬元健太郎(京都保健衛生専門学校) 阿形奈津子(京都中央看護保健専門学校)

第44回(2009) 【学会長】能見伸八郎(社会保険京都) 【副学会長】中島正継(京都第二赤十字) 富田哲也(富田) 【実行委員長】野口雅滋(京都桂) 【副実行委員長】近藤泰正(堀川) 【理事】向原純雄(京都市立) 内藤和世(府立与謝の海) 中嶋俊彰(済生会京都府) 吉川順介(吉川) 中野博美(京都きづ川) 河端一也(新河端) 富士原正人(京都ルネス) 【監事】倉澤卓也(国立病院機構南京都病院) 出射靖生(京都回生病院) 【実行委員】白倉直樹(社会保険京都) 藤村文一(富田) 西岡春代(社会保険京都) 山本正子(京都第二赤十字) 須川裕子(西京) 加藤泰子(京都南西) 川添チエミ(嵯峨野) 森下菊雄(京都南) 豊山浩祥(京都桂) 水野勝博(洛和会音羽) 宅間仁勢(医仁会武田) 新井 喬(宇治徳洲会) 麻田博之(蘇生会総合) 岡島規至(京都桂) 岡

## 各委員会委員名簿 (2005～2009)

◎=部長または委員長、○=副委員長、( )内は所属する施設名

むつ美(京都保健衛生専門学校) 泉田洋志(京都保健衛生専門学校) 荒巻富美(京都中央看護保健専門学校)

### ●保健医療管理者養成講座運営委員会

05・06年度 ◎吉川順介(吉川) 中野博美(京都きづ川) 近藤泰正(堀川) 河端一也(新河端) 浅田 淳(長岡) 澤井美智子(第二岡本総合) 今井隆久(保健医療管理士会) 白井秀朗(保健医療管理士会) 松崎祥三(京都保健衛生専門学校事務局長) 野村 浩(京都私立病院協会事務局長代理)

07・08年度 ◎吉川順介(吉川) 中野博美(京都きづ川) 近藤泰正(堀川) 河端一也(新河端) 浅田 淳(長岡) 西岡和子(京都武田) 今井陽一(保健医療管理士会) 白井秀朗(保健医療管理士会) 佐藤眞喜子(京都保健衛生専門学校事務局長) 津崎桂子(京都私立病院協会事務局長) 09年度 ◎吉川順介(吉川) 岡本豊洋(第二岡本総合) 近藤泰正(堀川) 富田哲也(富田) 浅田 淳(長岡) 田口健治(もみじヶ丘) 西岡和子(京都武田) 今井陽一(保健医療管理士会) 白井秀朗(保健医療管理士会) 佐藤眞喜子(京都保健衛生専門学校事務局長) 津崎桂子(京都私立病院協会事務局長)

### ●用度委員会

05年・06年度 ◎梶並稔正(西京都) ○相馬靖(相馬) ○八木利之(洛和会音羽) 中井洋一(京都桂) 岩崎和幸(十条リハビリテーション) 福井英人(堀川) 重田 薫(京都回生) 石田誠(第二岡本総合) 岸田茂樹(宇治黄檗) 水野良彦(西陣)

07・08年度 ◎梶並稔正(西京都 ~08.5) ○相馬 靖(相馬) ○秋山 仁(三菱京都~08.5・委員長08.6~) 重田 薫(京都回生) 森本純也(第二岡本総合) 内尾孝経(新河端) 西川 広(堀川) 水野良彦(西陣) 白波瀬芳美(新河端09.2~)

### ●未収金対策委員会

05・06年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) ○岡本豊洋(第二岡本総合) 永井佑二(京都九条) 蔭山嘉英(比叡) 滝川和信(岩倉) 樋口雅信(八幡中央)

八木利之(洛和会音羽~07.5)

07・08年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) ○岡本豊洋(第二岡本総合) 永井佑二(京都九条) 蔭山嘉英(比叡) 北岸智志(洛和会音羽~07.6) 滝川和信(岩倉) 樋口雅信(八幡中央~08.2 京都八幡08.3~) 09年度 ◎中谷泰幸(なぎ辻) ○岡本豊洋(第二岡本総合~09.5) 秋山 仁(三菱京都~09.6) 永井佑二(京都九条) 蔭山嘉英(比叡) 北岸智志(洛和会音羽) 滝川和信(岩倉) 樋口雅信(京都八幡)

### ●院内環境問題委員会

05・06年度 ◎岡本豊洋(第二岡本総合) 中野種樹(長岡) 梶並稔正(西京都) 永井佑二(京都九条) 中江美隆(丹後中央) 木下朋子(京都下鴨) 福田さよこ(久野) 早川勇人(医仁会武田総合~05.12) 鮎川宏之(医仁会武田総合06.1~) 内尾孝経(新河端) 狭間逸子(賀茂~06.10) 植村健吾(シミズ)

### ●環境問題委員会

07・08年度 ◎松井道宣(京都九条) 中野種樹(長岡) 梶並稔正(西京都~07.5) 滝川和信(岩倉) 渡辺高志(金井) 木下朋子(京都下鴨) 福田さよこ(久野) 西村和司(武田) 原田 修(第二岡本総合) 河本久美子(西陣) 植村健吾(シミズ) 09年度 ◎松井道宣(京都九条) 中野種樹(長岡) 秋山仁(三菱京都) 滝川和信(岩倉) 渡辺高志(金井) 高橋鈴子(相馬) 矢田貴子(堀川) 西村和司(武田) 原田 修(第二岡本総合) 林 優里(宇治武田)

### ●病院機能向上委員会

05・06年度 ◎中野種樹(長岡) 岡本豊洋(第二岡本) 戸津崎茂雄(京都南) 八木利之(洛和会音羽) 秋山 仁(三菱京都) 村上武司(もみじヶ丘) 増井 榮(医仁会武田) 山名千代(西陣)

07・08年度 ◎中野種樹(長岡) 岡本豊洋(第二岡本) 清水 聡(京都南) 秋山 仁(三菱京都) 村上武司(もみじヶ丘) 中井洋一(京都桂) 増井 榮(医仁会武田) 山名千代(西陣~07.5) 矢田貴子(堀川07.6~)

09年度 ◎中野種樹(長岡) 岡本豊洋(第二岡本)

## 各委員会委員名簿 (2005～2009)

◎=部長または委員長、○=副委員長、( )内は所属する施設名

清水 聡 (京都南) 秋山 仁 (三菱京都) 村上  
武司 (もみじヶ丘) 中井洋一 (京都桂) 増井  
榮 (医仁会武田) 矢田貴子 (堀川)

### ●病院対抗野球大会実行委員会

05年度 ◎鳥本宏一 (京都九条) ○江口光徳 (宇  
治徳洲会) 内海貴文 (三菱京都) 加茂有紀浩 (岩  
倉) 吉川 悟 (宇治黄檗) 木下一之 (愛生会山  
科)

06年度 ◎命苦雄司 (堀川) ○内海貴文 (三菱  
京都) 加茂有紀浩 (岩倉) 吉川 悟 (宇治黄檗)  
辻野敏則 (京都南) 樋口雅信 (八幡中央)

07年度 ◎辻野 (京都南) ○樋口 (八幡中央)  
内海 (三菱京都) 加茂 (岩倉) 吉川 (宇治黄檗)  
命苦 (堀川)

08年度 ◎山本政利 (西陣) ○命苦雄司 (堀川)  
福武弘之 (京都桂) 辻野敏則 (京都南) 並川照  
行 (京都民医連中央) 堂畑正樹 (八幡中央)

09年度 ◎並川照行 (京都民医連中央) ○福武  
弘之 (京都桂) 辻野敏則 (京都南) 堂畑正樹 (八  
幡中央) 命苦雄司 (堀川) 山本政利 (西陣)

### ●病院対抗女子バレーボール大会

05年・06年度 ◎山田昌幸 (第二岡本総合) 安  
東寧浩 (宇治徳洲会) 市場真澄 (岩倉) 鷗ノ口  
友紀 (宇治武田) 田中とみ子 (京都民医連第二  
中央) 若林貞弘 (京都南)

07年・08年度 ◎安東寧浩 (宇治徳洲会) 鷗ノ  
口友紀 (宇治武田) 木村恭子 (京都下鴨) 黒瀬  
聖司 (医仁会武田総合) 田中とみ子 (京都民医  
連第二中央) 若林貞弘 (京都南～08.5) 市場真  
澄 (岩倉08.6～)

09年度 ◎木村恭子 (京都下鴨) 岡田英子 (医  
仁会武田総合) 福島亜紀 (京都民医連中央) 小  
松 勝 (京都大橋総合)

### ●病院対抗フットサル大会

06年度 ◎篠田紀一郎 (川越病院) 石井 彰 (高  
雄) 一圓隆司 (長岡) 神内 満 (洛西シミズ)  
中林俊晴 (西陣) 坂東大輔 (医仁会武田総合)

07年・08年度 ◎篠田紀一郎 (川越病院) 石井  
彰 (高雄) 一圓隆司 (長岡) 柏原 謙 (京都桂  
08.8～) 神内 満 (洛西シミズ) 中林俊晴 (西  
陣) 坂東大輔 (医仁会武田総合～07.5)

09年度 ◎柏原 謙 (京都桂) 太田大地 (京都  
回生) 槻本直也 (桃仁会) 中田裕人 (武田)  
松田竜也 (岩倉)

### ●公益法人制度改革検討委員会・会費検討委員会

09年度 ◎真鍋克次郎 (会長) 出射靖生 吉川  
順介 中野種樹 久野成人 富士原正人 松井道  
宣 武田隆久 (以上、副会長)

## 京都私立病院協会・創立45周年記念誌 2005-2009

---

2010年8月1日発行

発行者 社団法人 京都私立病院協会  
〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-9 京都府医師会館4階  
TEL(075)313-2686 FAX(075)313-5911 <http://www.khosp.or.jp>

制作 为国印刷株式会社  
〒604-8457 京都市中京区西ノ京馬代町6-16  
TEL(075)462-7889 FAX(075)464-3923 <http://www.tamekuni.co.jp>

京都私立病院協会  
創立45周年記念誌

---

協賛企業一覧

---

(企業名五十音順)

株式会社 いかagak  
エーザイ 株式会社  
株式会社 エフアンドケイ  
株式会社 大塚製薬工場  
京都中央信用金庫  
京都府病院協同組合  
京都府病院厚生年金基金  
京都ブライトンホテル  
京都ホテルオークラ  
クッキングゆたか 株式会社  
コーベベビー 株式会社  
株式会社 公益社  
神医協興産 株式会社  
株式会社 セレマ  
大日本住友製薬 株式会社  
為国印刷 株式会社  
日清医療食品 株式会社  
東住吉丸玉フーズ株式会社  
光アスコン 株式会社  
ひろせ税理士法人  
株式会社 ファルコバイオシステムズ  
フクダ電子京滋販売 株式会社  
株式会社 ヤクルト本社  
株式会社 洛北義肢  
リーガロイヤルホテル京都  
ワタキューセイモア 株式会社

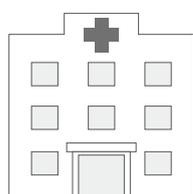
# 京都府下の病院 医療廃棄物契約実績 No.1

## [ 安心・安全の適正処理 ]

1.

廃棄物の適正な処理におけるご相談及びご提案。  
病院内での適正な管理、処理、コスト削減などのご提案と  
安心できる衛生管理、安全な廃棄物管理におけるノウハウ伝授。

2.



- 感染性鋭利物  
注射針/メス/シャーシなど
- 血液・体液付着物  
透析器/ガーゼ/包帯/綿花/手袋など
- 廃プラスチック類  
輸液バック/ビン/チューブなど
- ガラス類  
ビン/アンプルなど



収集・運搬

3.

適正処理へ



最終処分地  
にて  
適正処理

光アスコン株式会社焼却炉

- 京都府下及び京都市内の病院関係  
医療系廃棄物収集運搬及び処理事業（処理先：光アスコン株式会社に委託）  
廃プラスチック等の収集運搬及び処理事業（処理先：光アスコン株式会社に委託）
- 特別管理産業廃棄物 感染性廃棄物/廃油/強アルカリ
- 産業廃棄物 廃プラスチック/ガラス、陶磁器くず/金属くず  
廃液、廃アルカリ（レントゲン廃液）/紙くず（機密書類）

※その他の産業廃棄物の収集運搬・処理も承っております。気軽にご相談下さい。



株式会社 エフアンドケイ

— 京都府病院協同組合指定業者 —

〒612-8245 京都市伏見区横大路下三栖宮ノ後80番地  
TEL075-604-6668 FAX075-602-1138



まずは気兼ねなくご相談を。

0120-59-9000

<http://www.f-and-k.com>

E-mail: [fandk@f-and-k.com](mailto:fandk@f-and-k.com)

## 患者さまと働く皆さまの快適な環境を提案していきます

- 購買事業 医療機器・医療用消耗品 厨房設備・厨房用品 その他設備・工事  
事務機器・事務用品 白衣・リネン 家電 その他日用消耗品
- 融資事業 提携融資 公的融資の斡旋  
自動車ローン 機器ローン
- レンタル事業 白衣・事務服 寝具・リネン・オムツ 食器 テレビ等のレンタル  
カーテン・カーペットのメンテナンス付きレンタル
- 保険事業 生命保険募集及び団体取扱い  
病院賠償責任保険・自動車保険・火災保険・傷害保険等
- ビルメンテナンス事業 防災設備・空調設備・浄化槽・エレベータ等の保守管理  
感染性廃棄物の処理 病室消毒 害虫・ハト等の防除 清掃

### 京都府病院協同組合

〒601-8035 京都市南区東九条南松田町43-2

TEL 075-671-8711 (代表)

FAX 075-671-8780 ☎0120-30-8780 (FAX)

# 基金加入で『ゆとり』をプラス!

“ゆとりある老後”と  
“業界の発展”は共通の願い!



病院厚生年金基金は、京都私立病院協会の共同事業で、終身年金を支給する税制上もっともすぐれた企業年金制度です。

事業主と従業員、また病院どうしが助け合い、支え合って豊かな老後をサポートしています。



## 京都府病院厚生年金基金

京都市下京区四条通東洞院東入ル立売西町60  
(日本生命四条ビル7F) ☎(075) 255-1312  
<http://www.kyoto-byoin-kikin.or.jp>

# 寝台自動車のご用命は



J I S Q9001 - 2000  
登録番号 USAQ1472



Q M S Accreditation  
認定番号 R001

(運輸局認可)

365日24時間搬送・まごころのご奉仕

社団法人 京都府看護協会御指定

京都府病院協同組合御指定



## 公益社

寝台車部へ

本社 (075)221-1000

宇治支社 (0774)20-0242

<http://www.koekisha-kyoto.com>

### 葬儀式場

公益社 北ブライツホール



京都市北区紫明通堀川東入  
北側

TEL 075-414-0420

- 紫明通堀川東入北側
- 堀川鞍馬口バス停より3分

公益社 中央ブライツホール



京都市東山区五条通大和  
大路東北角

TEL 075-551-5555

- 東山五条西入徒歩3分
- 京阪五条駅より東へ徒歩5分

公益社 南ブライツホール



京都市南区八条通堀川下  
西側

TEL 075-662-0042

- 堀川通八条南入西側
- JR京都駅より西へ約5分

公益社 西ブライツホール



京都市右京区五条通西大路  
西入南側

TEL 075-322-0042

- 五条通西大路西入徒歩7分南側
- 中ノ橋五条バス停下車

公益社 宇治ブライツホール



宇治市槇島町国道24号線  
文教大学前

TEL 0774-20-0042

- 近鉄向島駅より徒歩15分
- シャトルバス有り

公益社 滋賀ブライツホール



大津市朝日ヶ丘1丁目  
12-5

TEL 077-523-0042

- JR大津駅より東へ徒歩7分
- 名神降り1号線を西へ100M

公益社 烏丸ブライツホール



京都市下京区烏丸高辻南入  
東入(因幡薬師)

TEL 075-351-7724

- 烏丸四条南へ徒歩5分
- 宗派関係なく利用できます

#### ◆ 公益社ブライツホール ◆

町内・最寄り駅送迎バス  
無料運行致しております

詳しくはホールまで  
お問い合わせ下さい

素敵なお二人の素敵なウェディング。  
 長年の実績を誇るマリアージュが華やかな舞台で主役となられるお二人をお手伝いします。



マリアージュ  
グループ

Grande  
パルティール京都

セント・アベニール  
アンジェルデ・マリアージュ

アル・マール  
マリアージュ彦根

マリアージュ 福知山

まずはお気軽に  
お電話を!!

婚礼専用  
0120  
FreeDial

0120-70-1101

ウェディングプランナーによる  
トータルプロデュース!  
☎075-693-7933迄

永年の信用と実績により24時間営業にて御奉仕する安心のグリーンナンバー

## 寝台自動車のご用命は セラマ寝台自動車サービスへ

近畿運輸局免許 / 近運貨二・第754号



社団法人京都府看護協会指定 京都府病院協同組合指定

株式会社 **セラマ 玉泉院**

年中無休

24時間体制

葬祭専用  
0120  
FreeDial

お 供 養 1 1 0 番  
0120-094-110

昼夜を問わず  
御一報くだされば  
係員がお伺い致します。

cerema 株式会社 **セラマ**

携帯モバイルでお得なクーポン情報を要チェック!!

携帯URL <http://cerema.net>

パソコンからは <http://www.cerema.co.jp/>



# できるといいな、<sup>®</sup>

心に限りなく近い表現。企画・デザイン・印刷



販売促進/会社案内/パンフレット  
チラシ/カタログ/ポスター/書籍  
学校案内/包装紙/パッケージ  
紙袋/その他あらゆる印刷物

T A M E K U N I

為 国 印 刷 株 式 会 社

604-8457 京都市中京区西ノ京馬代町6-16 TEL 075.462.7889 FAX 075.464.3923

E-mail : [info@tamekuni.co.jp](mailto:info@tamekuni.co.jp) URL : <http://www.tamekuni.co.jp/>



# 光アスコン株式会社

Clean Center Identity / クリーンセンター

## 私たちのモットーは 地球をきれいにする事です

現在、オゾン層の破壊による地球の温暖化、そして海洋汚染、土壌汚染など私たちを取りまく自然環境は大きな危機にさらされています。その中でも、廃棄物の問題は私たちのもっとも身近な所で起こっている環境問題であり、環境破壊の原点でもあると言えるのではないのでしょうか。光アスコン・クリーンセンターは、地域社会の環境保護を第一に考え「地球をきれいに」をモットーに、産業廃棄物を安全且つ適正に処理する中間処理施設として、その減量化・無害化を実現する事により、人が安心して暮らすことのできる豊かな環境づくりをめざしてまいります。

### business outline / 業務内容

[産業廃棄物処分業許可 (焼却・破碎・減容固化) 6521034460 号]  
[特別管理産業廃棄物処分業許可 (焼却) 6571034460 号]



〒612-8244 京都市伏見区横大路千両松町 33  
TEL.075-601-2711 (代表) FAX.075-601-2188  
<http://www.hikari-asukon.jp>

ISO14001 認証取得



#### 中間処理

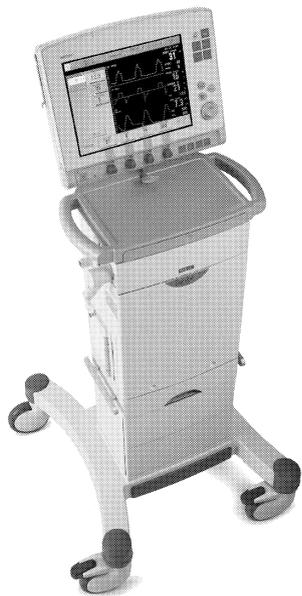
##### ●産業廃棄物処分業許可品目

[焼却] 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず

[破碎] 金属くず、ガラスくず、がれき類

##### ●特別管理産業廃棄物処分業許可品目

[焼却] 廃油、廃酸、廃アルカリ、感染性産業廃棄物、汚泥



順応性あるハイレベルな  
呼吸管理スタイル

新生児・小児・成人用人工呼吸器  
サーボベンチレータ

**Servo*i***

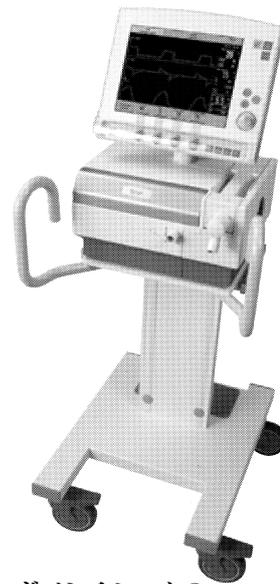
医療機器承認番号：21200BZY00120000

# THE SERVO*i* BRAND

A long tradition of innovation in ventilation  
based on clinical need.

MAQUET

Servo ベンチレータは、信頼のある性能  
と使いやすさを備えたベンチレーション  
システムであり、病院内の人工呼吸器の  
多種多様な必要条件に合わせて使用する  
ことができます。

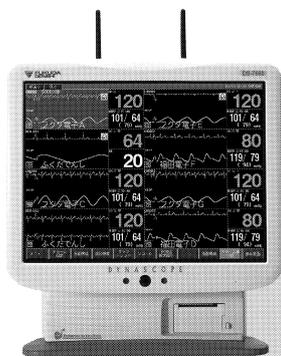


サーボベンチレータの  
新機種がここに登場！

小児／成人用人工呼吸器  
サーボベンチレータ

**Servo*s***

医療機器承認番号：21600BZY00431000



無線双方向通信の利用を実現

セントラルモニタ

**DS-7680**

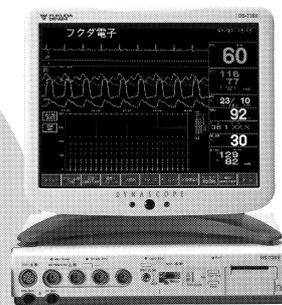
医療機器承認番号：21600BZZ00078000

3種類の通信方式採用



Nurse  
Smile

ナースにやさしい新製品



観血血圧、体温、心拍出量など組合せが豊富

ベッドサイドモニタ

**DS-7300**

医療機器承認番号：21600BZZ00077000

柔軟設計のマルチアンプ採用

フリーレイアウト可能なセパレート設計

豊富なグラフィック表示

**FUKUDA  
DENSHI**

本社 / 〒601-8121 京都市南区上鳥羽大物町15-1 TEL (075) 681-3191(代) <http://www.fukuda.co.jp>

お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間：月～金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00～18:00

● 医用電子機器の総合メーカー **フクダ電子京滋販売株式会社**

● 滋賀営業所 〒520-3046 滋賀県栗東市大橋 4-6-40 ☎ (077) 553-1617(代)

# REHABITECH

REHABILITATE-SYSTEM TECHNOLOGIC CORPORATION

患者様・先生方のご要望にお答えする肩外転装具

# Kenbag

REHABITECH

- 80°～30°で外転角を任意に調節、安定した保持が可能
- 外旋位の保持
- 専用枕で夜間痛を軽減
- 左右兼用・Free サイズ設計



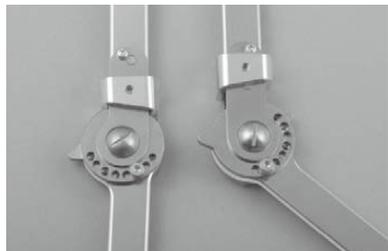
必要とされるひとに  
必要とされるものを  
To be ONLY ONE... 必要なときに...

*Provide really indispensable  
products in a timely manner,  
for those whom are really necessity*

## ライトヒップブレース

股関節手術後の固定、歩行・移動時のサポートにご使用いただけるレディーメイドの股関節装具です。任意の角度で屈曲・伸展制限ができる股関節ダイヤルロック継手を使用しています。

(継手単体での販売も致しております。)



品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001認証取得企業

開発  
製造



株式会社 洛北義肢

京都市北区大北山原谷乾町22-16 TEL.075-462-0195 FAX.075-463-2140

販売

S サカモト有限公司

京都市北区大北山原谷乾町22-16 TEL.075-464-0034 FAX.075-464-0044  
e-mail yusakamoto@rakuhogugishi.co.jp

ikagaku



見えていない  
世界を、  
見せる会社です。

- 臨床検査事業  
本社ラボ・京都ラボ・伏見ラボ・舞鶴ラボ・神戸ラボ・東京ラボ
- 研究開発
- 診断薬工場
- 調剤薬局事業
- 治験事業
- 環境衛生事業（食品衛生検査、環境検査）
- 郵送健診サポート事業
- 喫煙検査事業
- フードライフサポート事業

ISO15189認定（本社ラボ：JAB-RML00050）  
 ISO9001認証（京都ラボ：JQA-2631）  
 ISO14001認証（本社ラボ：JQA-EM6070）  
 医療関連サービスマーク認定（E(7)-0710260209）

株式会社 **いかかく** ■本社 〒612-8486 京都市伏見区羽東師古川町328番地 TEL (075) 933-6060 (代)  
 ホームページ <http://www.ikagaku.co.jp> e-mail: [repre@ikagaku.co.jp](mailto:repre@ikagaku.co.jp)

■京都府内登録衛生検査所

本社ラボ 〒612-8486 京都市伏見区羽東師古川町328番地  
 TEL (075) 933-6060  
 京都ラボ 〒604-8852 京都市中京区壬生東大竹町38番地  
 TEL (075) 822-4123  
 伏見ラボ 〒601-1434 京都市伏見区石田森南町33-6 辻ビル3F  
 TEL (075) 575-2102  
 舞鶴ラボ 〒624-0841 舞鶴市引土234番地 坂根ビル2F  
 TEL (0773) 76-7466

■京都府内営業所

京都南営業所 〒612-8486 京都市伏見区羽東師古川町330番地  
 TEL (075) 921-6969  
 京都営業所 〒604-8852 京都市中京区壬生東大竹町38番地  
 TEL (075) 822-4123  
 舞鶴営業所 〒624-0841 舞鶴市引土234番地 坂根ビル2F  
 TEL (0773) 76-7466



©Tezuka Productions



製造販売元

**イーザイ株式会社**  
 〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10  
<http://www.eisai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先：イーザイ株式会社 お客様ホットライン  
 ☎0120-419-497 9~18時(土、日、祝日9~17時)

処方せん医薬品  
 注意一医師等の処方せんにより使用すること  
**プロトンポンプ阻害剤** [薬価基準収載]

**パリエット**® 錠10mg  
 錠20mg

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉 [www.pariet.jp](http://www.pariet.jp)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください PRT0903-53

## Best Partner in Clinical Nutrition

### 臨床栄養のベストパートナーを目指して

大塚製薬グループは、

“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”を企業理念とし、世界の人々の健康に貢献することを目標に、事業活動を営んでおります。

私たち大塚製薬工場は、輸液のリーディングカンパニーとして、臨床栄養の領域において患者・医療従事者様のベストパートナーでありたいと考えています。



Otsuka 株式会社大塚製薬工場

おかげさまで70周年

70<sup>th</sup>

一緒にうれしい

On Your Side

みなさまのすぐとなりに京都中央信用金庫がいます。



京都 **中央信用金庫**

本店／京都市下京区四条通烏丸西入ル

☎ 075(223)2525

FAX 0120-201-580 (フリーダイヤル  
当金庫営業エリアのみ)

www.chushin.co.jp

——— いつも新しい感動を ———

## 京都ブライトンホテル

京都ブライトンホテルは京都御所の西、閑静な住宅街にあります  
ここは、かつて千利休や樂長次郎が行き交ったであろう文化の中心地  
この場所にふさわしく、新しい文化発信基地となれるよう  
よりよい商品とサービスを提供し続けてまいります



吹き抜けのアトリウムロビーは、毎年7月の  
1ヵ月間、コンサートホールに姿を変え、  
入場無料でお楽しみいただいています



有機栽培、無農薬で育てられた朝摘み  
ハーブを使ったフレッシュハーブティー  
自然光あふれるロビーラウンジでどうぞ

近くの御苑の早朝散策会 春は桜、初夏は  
野鳥の子育て、秋は紅葉……と豊かな自然  
の中での旅の朝をご提案しています



京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)  
Tel.075-441-4411(代) Fax.075-431-2360  
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto>



## 温かさが、 私たちのブランドです。

快適なプライベートのためのお部屋、  
和やかな集いのためのお料理、  
そして華やかな宴のためのサービス。  
私たちは“おもてなし”という格別の演出と共に、  
お客様のシーンを見つめてきました。  
今までも、これからも、  
私たちが守り続けるのは「おもてなしの心」、  
見つめ続けるのは「お客様の笑顔」です。

## 京都 ホテル オークラ

〒604-8558 京都市中京区河原町御池  
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結  
TEL. 075-211-5111  
<http://www.kyotohotel.co.jp/>



# おいしく楽しくゆたかな 暮らしをお手伝い



日々、施設入所者の皆様に家庭的であたたかな雰囲気の中で、命と健康の源である食事を安全で安心して召し上がって頂ける、心のこもった手作り料理を基本としております。

COOKING

ゆたか CO.,LTD

〒610-0121 城陽市寺田中大小 10-1  
TEL(0774)55-2800(代) FAX(0774)55-5167  
E-mail : cookingyutaka@swan.ocn.ne.jp

ゴミ処理費  
の削減に！  
地球環境に  
優しい  
当社の  
リユース  
商品

- ・ベビー用 / 成人用 布オムツ・着物類リース
- ・ユニフォームリース ・ 各種 タオル類リース
- ・カーテン販売 ・カーテンクリーニング・ カーテンリース
- ・紙オムツ類 販売
- ・在宅介護サービス（福祉用具レンタル・販売）
- ・布団丸洗い ・ 清掃業務
- ・私物洗濯業務

幸せをまごころでつむ

**コーベベビー株式会社**

本社：〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町2丁目19-21  
支店：岡山・神戸・大阪・和歌山・奈良・京都・中部・長野  
工場：東海・京都・新京都(ISO14001認証取得工場)・ユニフォーム・城陽布団  
シルバー事業

〒613-0022 京都府久世郡久御山町市田新珠城152-1  
TEL 0774-44-6026 URL <http://www.kobe-baby.co.jp> E-mail [silver@kobe-baby.co.jp](mailto:silver@kobe-baby.co.jp)

安心と信頼の  
**神医協興産株式会社**

営業内容

- ★医療用寝具リース
- ★医療用病衣リース
- ★医療用防水シート
- ★診察台カバー

**医療関連サービスマーク認定**

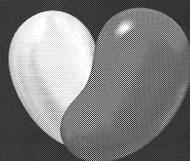
〒 658-0012 神戸市東灘区本庄町1丁目8番27号

電話 078-411-0367 ファックス 078-411-0368

 大日本住友製薬

製造販売元（資料請求先）  
大日本住友製薬株式会社  
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉  
くすり情報センター  
☎0120-03-4389  
受付時間／月～金 9:00～17:30（祝・祭日を除く）  
【医療情報サイト】<http://ds-pharma.jp/>



長時間作用型 ARB

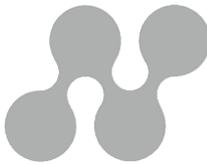
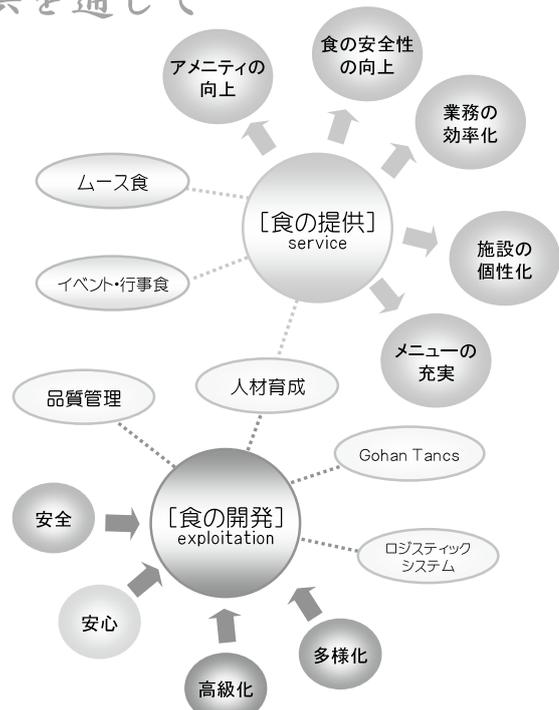
薬価基準収載

**アバプロ錠** 50mg  
100mg

一般名 **イルベサルタン錠** AVAPRO<sup>®</sup>

処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）  
効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきまは、添付文書をご参照ください。

「心」のこもった食事サービスの提供を通して  
お客様の信頼に答えています



ヘルスケア フードの明日を考える

**日清医療食品株式会社**

近畿支店  
〒604-8171 京都市中京区烏丸御池下ル虎屋町566-1  
井門明治安田生命ビル7F TEL 075-231-5100 (代)  
<http://www.nifs.co.jp>

## 「美味しく、安全に、喜んでいただきたい」 創業以来貫いているマルタマの願いです。

近畿・中部地域に広範なネットワークを展開。  
食材選定から配送・調理まで、独自のトータル  
システムを構築した今日も、感謝をこめて、  
より安全で、より健康な体づくりに貢献する、  
総合的フードサービス企業を目指します。

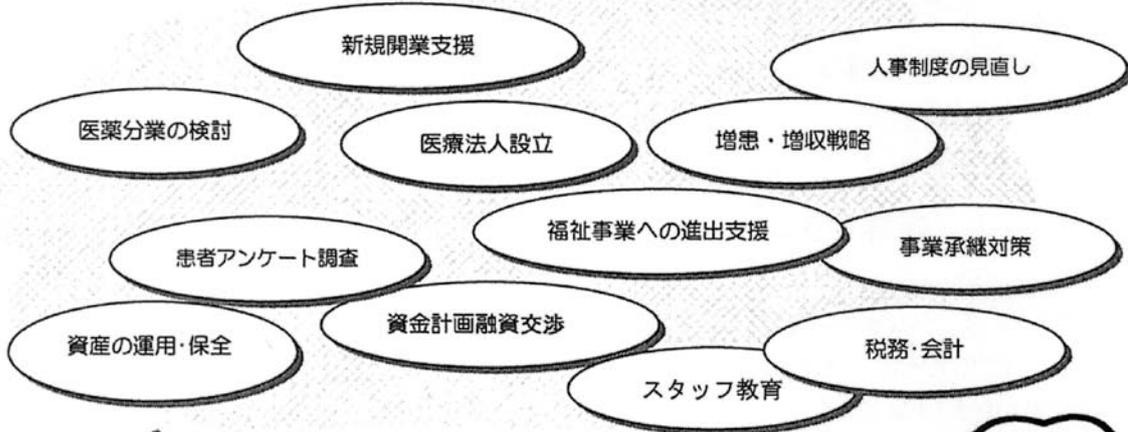
- 高品質の食材を他社にない低コストで安定供給
- 広がる医療現場で、専門性を高めたバリエーション  
豊かな治療食の展開
- 老人福祉施設における食事は季節感を大切に、  
きめこまやかなサービス
- 多くの体験を活かし、充実した教育・研修制度で  
人材育成



**マルタマフーズグループ 東住吉丸玉フーズ**

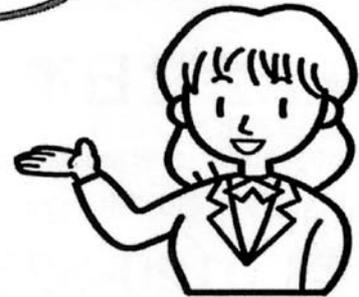
大阪市東住吉区今林4丁目2番16号 TEL:06-6751-1421/FAX:06-6754-3720

# みなさまの頼りになる相談相手です



ひろせ税理士法人  
株式会社 ひろせ総研

〒602-8155  
京都市上京区智恵光院通竹屋町下る主税町 827  
(二条城北西角)  
Tel.075 (801) 6331 Fax.075 (801) 7372  
E-Mail: soumu@hiroses.co.jp



未来が見える——。

FALCO

ファルコは、臨床検査事業を基盤に  
調剤薬局、食品衛生・環境検査、遺伝子関連検査など  
医療に関するさまざまな事業を手がけています。

人に、未来により近く。

私たちがめざすのは、人々の健康と豊かな未来です。

株式会社 ファルコバイオシステムズ  
〒604-0911 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地  
<http://www.falco.co.jp>

人も地球も健康に  
**Yakult**

薬価基準収載

抗悪性腫瘍剤 (イリノテカン塩酸塩水和物)  
劇薬・処方せん医薬品※

**カンプト**<sup>®</sup> 点滴静注 40mg  
100mg

抗悪性腫瘍剤 (オキサリプラチン)  
毒薬・処方せん医薬品※

**エルプラット**<sup>®</sup> 注射用 50mg  
100mg

5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗型制吐剤 (インジセトロン塩酸塩)  
劇薬・処方せん医薬品※

**シンセロン**<sup>®</sup> 錠 8mg

活性型葉酸製剤 (レボホリナートカルシウム)  
処方せん医薬品※

**レボホリナート** 点滴静注用 25mg  
100mg 「ヤクルト」

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

●「効能・効果」「用法・用量」「警告」「禁忌」「使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

〈資料請求先〉

**株式会社ヤクルト本社**

〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-21 銀座木挽ビル  
☎0120-589601 (医薬学術部 くすり相談室)

2009年5月作成

古都の雅趣を伝える  
おもてなし—。

**RR** リーガロイヤルホテル  
京都

〒600-8237 京都市下京区東堀川通り塩小路下ル松明町1番地  
(075) 341-1121(代表) <http://www.rihga-kyoto.co.jp>



WATAKYU  
GROUP

医薬品でもなく、医療器械でもない。  
医療・福祉を支える心のビジネスがあります。

**リネンサプライ**

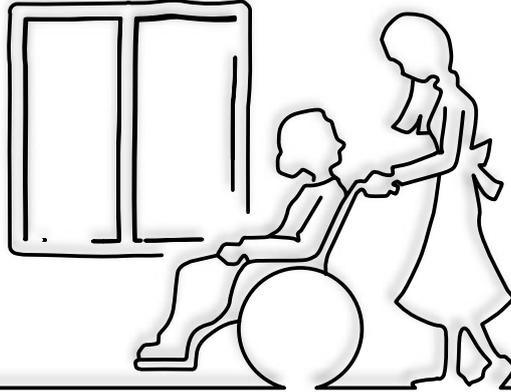
清潔で、快適な療養環境を

**経営サポート**

医療・介護の施設環境創造へ

**環境プロデュース**

施設運営と業務の合理化へ



健康と快適の明日を考える

ワタキユーセイモア株式会社

[www.watakylu.co.jp](http://www.watakylu.co.jp)

〒610-0396 京都府綴喜郡井手町多賀茶臼塚12-2 TEL.0774-82-5101

〒600-8416 京都市下京区烏丸通高辻下る薬師前町707 烏丸シティ・コアビル TEL.075-361-4130